



国立大学法人

# 鹿児島大学概要

KAGOSHIMA UNIVERSITY 2011

# CONTENTS

## はじめに

- 02… 学長からのメッセージ
- 03… 大学憲章
- 04… 大学の基本的な目標
- 05… 学生憲章
- 07… 大学憲章に基づくプロジェクト事業
- 09… 沿革

## 組織

- 11… 組織図
- 12… 役職員等
- 15… 役職員数

## 学部・大学院等

- 16… 学部
- 20… 大学院
- 24… 教育学部附属学校
- 25… 医学部・歯学部附属病院
- 27… 附属図書館
- 29… 学内共同教育研究施設等
- 36… 教育関係共同利用拠点

## 学生等

- 37… 入学定員・現員数
- 39… 入学状況
- 41… 卒業・修了数／就職状況／学位授与状況
- 42… 奨学生状況／経済支援制度
- 43… 附属学校入学定員・現員数

## 教育・研究・社会貢献活動

- 44… 教育プログラム等
- 45… リポジトリ／学術刊行物
- 46… 産学官連携活動
- 47… 公開講座等

## 国際交流

- 49… 海外拠点等
- 50… 海外研修支援
- 51… 国際共同研究プロジェクト等
- 52… 学術交流協定締結状況
- 54… 研究者交流状況／国際共同研究実施件数
- 55… 外国人留学生

## 財務

- 57… 収入・支出決算額／予算
- 58… 外部資金受入状況

## キャンパス

- 60… 土地・建物・船舶
- 61… 地域交流施設／福利厚生施設／体育施設等
- 65… 地区別建物等配置図
- 69… 位置図・交通アクセス
- 70… 所在地一覧

## 学 年 暦

学	期
前	期 ……4月1日～9月30日
後	期 ……10月1日～3月31日
入	学 式 ……4月7日



休	業	日
春	季	休 業 ……4月1日～4月10日
夏	季	休 業 ……8月1日～9月30日
冬	季	休 業 ……12月25日～1月8日
鹿児島大学記念日 ……11月15日		



卒業式・修了式 ……3月23日



## 〈鹿児島大学学章〉



創立50周年を記念して制定された。  
KAGOSHIMAの頭文字『K』をデザインしたものである。  
今、まさに飛び立とうとしている姿を『鳳』の形にデザインし、  
歴史と伝統に輝く鹿児島大学のキャンパスを巣立つ卒業生が世界の舞台を翔ようとしている姿をシンボル化したものである。

## “進取の気風”にあふれる大学をめざして



吉田 浩己 学長

鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、活火山の桜島や霧島、世界自然遺産の屋久島および生物多様性に富む奄美群島など、後世に遺すべきすばらしい自然環境にめぐまれた地にあります。また、鹿児島は、アジア・太平洋地域をはじめとする海外の異文化を率先して導入し、日本の変革と近代化に貢献した数多くの人材を輩出してきた地でもあります。

鹿児島大学の起源は、「進取の気性」に富む若者を育てた藩学造士館(1773年創立)や医学院(1774年創立)にさかのぼります。以降、第七高等学校造士館をはじめ、第七高等学校、鹿児島師範学校、鹿児島青年師範学校、鹿児島農林専門学校および鹿児島水産専門学校等の高等教育機関の伝統を受け継ぎつつ、1949年に新生国立大学・鹿児島大学が発足しました。現在は、8学部と10大学院からなり、約11,000名の学部学生と大学院生が在籍する総合大学です。

鹿児島大学の使命は、人類社会の発展の基礎となる「真理の探究と人格の陶冶、すなわち知の創生とその継承」です。平成19年11月には、「鹿児島大学憲章」を制定し、教育的伝統を継承し、「自ら困難な課題に果敢に挑戦する『進取の精神』を有する人材を育成し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざしています。

学生は、平成22年11月に、自らの行動指針となる「鹿児島大学学生憲章」を作り上げ、その中で、「桜島のように気高く、時には、激しさを持ち、自らを磨き、未来を拓いていきます」と謳い、勉学に真摯に取り組むとともに、課外活動やボランティア活動などを通して、人間力と進取の精神を涵養し、高い志をもって、自己実現をめざすことを宣言し、力強く実践しています。

本学は、鹿児島にとっても、世界的にも、すなわちグローバルに重要である「環境」「島嶼」「食と健康」に関する諸課題の解決のために、総合大学の特色を活かし、研究を推進するとともに、全学横断的な教育コースを設置し、この分野でグローバルに活躍できる人材育成を行っています。また、産官との連携により、知的・文化的生涯学習の地域拠点とし、またアジア・太平洋諸地域との学術・教育の国際交流拠点としての役割を果たしています。

本学は、今後も鹿児島の地の歴史と教育的伝統を継承しつつ、時代や社会の要請に応じた教育、研究および社会貢献活動を行い、「進取の気風あふれる総合大学」をめざしてまいります。

### 歴 代 学 長

氏 名	任 期	備考	氏 名	任 期	備考
緒 方 健三郎	昭和24年 5月31日～昭和31年 7月31日		井 形 昭 弘	昭和62年1月12日～平成 3年1月11日	
福 田 得 志	昭和31年 8月 1日～昭和35年 7月31日		〃	平成 3年1月12日～平成 5年1月11日	
〃	昭和35年 8月 1日～昭和39年 7月31日		早 坂 祥 三	平成 5年1月12日～平成 9年1月11日	
〃	昭和39年 8月 1日～昭和43年 7月31日		田 中 弘 允	平成 9年1月12日～平成13年1月11日	
町 野 碩 夫	昭和43年 8月 1日～昭和44年10月21日		〃	平成13年1月12日～平成15年1月11日	
中 村 末 男	昭和44年10月21日～昭和46年 1月11日	※	永 田 行 博	平成15年1月12日～平成19年1月11日	
〃	昭和46年 1月12日～昭和50年 1月11日		吉 田 浩 己	平成19年1月12日～平成22年1月11日	
蟹 江 松 雄	昭和50年 1月12日～昭和54年 1月11日		〃	平成22年1月12日～	
〃	昭和54年 1月12日～昭和56年 1月11日				
石 神 兼 文	昭和56年 1月12日～昭和60年 1月11日				
〃	昭和60年 1月12日～昭和62年 1月11日				

※学長事務取扱

## 鹿児島大学憲章

鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にある。この地は、我が国の変革と近代化を推進する過程で、多くの困難に果敢に挑戦する人材を育成してきた。このような地理的特性と教育的伝統を踏まえ、鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざす。

### 教 育

鹿児島大学は、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、幅広い教養教育と高度な専門教育を行うとともに、地域の特性を活かした進取の気風を養う。

鹿児島大学は、真理を愛し、高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍しうる人材を育成する。

### 研 究

鹿児島大学は、個々の研究を重視するとともに、種々の学問分野における優れた研究者の連携により、21世紀を先導する研究者を育成する。

鹿児島大学は、地域の要請に応える研究を展開するとともに、普遍性を求める研究活動を推進し、世界水準の研究拠点をめざす。

### 社会貢献

鹿児島大学は、南九州を中心とする地域の産業の振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化の向上など、地域社会の発展と活性化に貢献する。

鹿児島大学は、アジアや太平洋諸国との連携を深め、研究者や学生の双方向交流および国際共同研究・教育を推進し、人類の福祉、世界平和の維持、地球環境の保全に貢献する。

### 大学運営

鹿児島大学は、学長のリーダーシップのもと、全構成員が運営に責任をもって参画することにより、教育研究環境の充実を図る。

鹿児島大学は、大学の自治を礎とし、常に自己点検・評価を行うとともに、外部からの意見を積極的に反映させ、透明性の高い公正な大学運営を行うことにより、社会への責任を果たす。

平成19年11月15日制定  
(第58回鹿児島大学開学記念日)



## 国立大学法人鹿児島大学の基本的な目標

鹿児島大学は、「鹿児島大学憲章」に基づき、我が国の変革と近代化の過程で活躍した先人の意志を受け継ぎ、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成し、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、『進取の気風にあふれる総合大学』をめざす。その実現のため、以下の基本目標を掲げる。

### 「進取の精神」を有する学士の育成

鹿児島大学は、幅広い教養の厚みに裏打ちされた倫理観と生涯学習力を備え、「進取の精神」を有する人材を育成するため、学士課程の基盤となる共通教育の改善を図るとともに、専門教育の質を保証するシステムを確立する。

### 大学の特色を活かした研究活動

鹿児島大学は、独創的・先端的な研究を積極的に推進するとともに、総合大学の特色を活かし、島嶼、環境、食と健康等の全人类的課題の解決に果敢に挑戦する。

### 地域社会の活性化に貢献

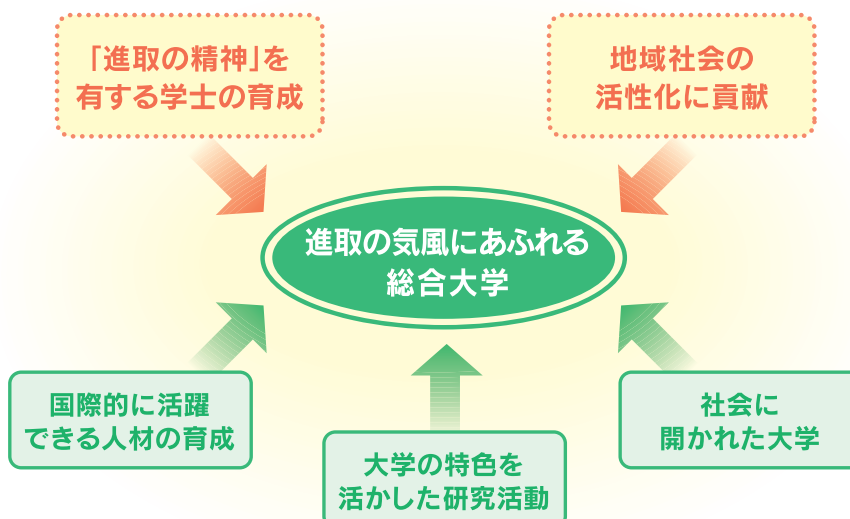
鹿児島大学は、知的・文化的な生涯学習の拠点として、地域との連携を重視するとともに、各学部等の特色を活かした社会貢献を推進し、地域社会の活性化に貢献する。

### 国際的に活躍できる人材の育成

鹿児島大学は、アジア・太平洋諸地域との学術交流・教育交流を通じて、国際交流拠点としての機能を高め、国際的課題の解決に貢献し、グローバル化時代に活躍できる人材を育成する。

### 社会に開かれた大学

鹿児島大学は、地域に開かれたキャンパス環境を整備するとともに、社会への積極的な情報提供に努め、透明性の高い公正な大学運営とその改革を図ることにより、社会への責任を果たす。





## 鹿児島大学 学生憲章

私たちは、鹿児島大学の学生であることを誇りとし、学ぶことのできる環境に感謝し、桜島のように気高く、時には激しさを持ち、自らを磨き、未来を拓いていきます。

1. 私たちは、我が国の変革と近代化を推進した先人達の「進取の精神」を継承し、困難な課題にも果敢に挑戦し、強い意志と柔軟な心を持って自己実現を図ります。
2. 私たちは、幅広い教養を身につけ、高度で専門的な知識・技能を修得し、地球的視野を持って活躍する人間になることを目指します。
3. 私たちは、サークル活動などの課外活動に積極的に参加し、仲間との友情を育み、思いやり深く魅力溢れる人間になります。
4. 私たちは、地域社会との関わりの中で、一人の人間として責任ある行動を心がけ、社会に貢献できるよう全力を尽くします。

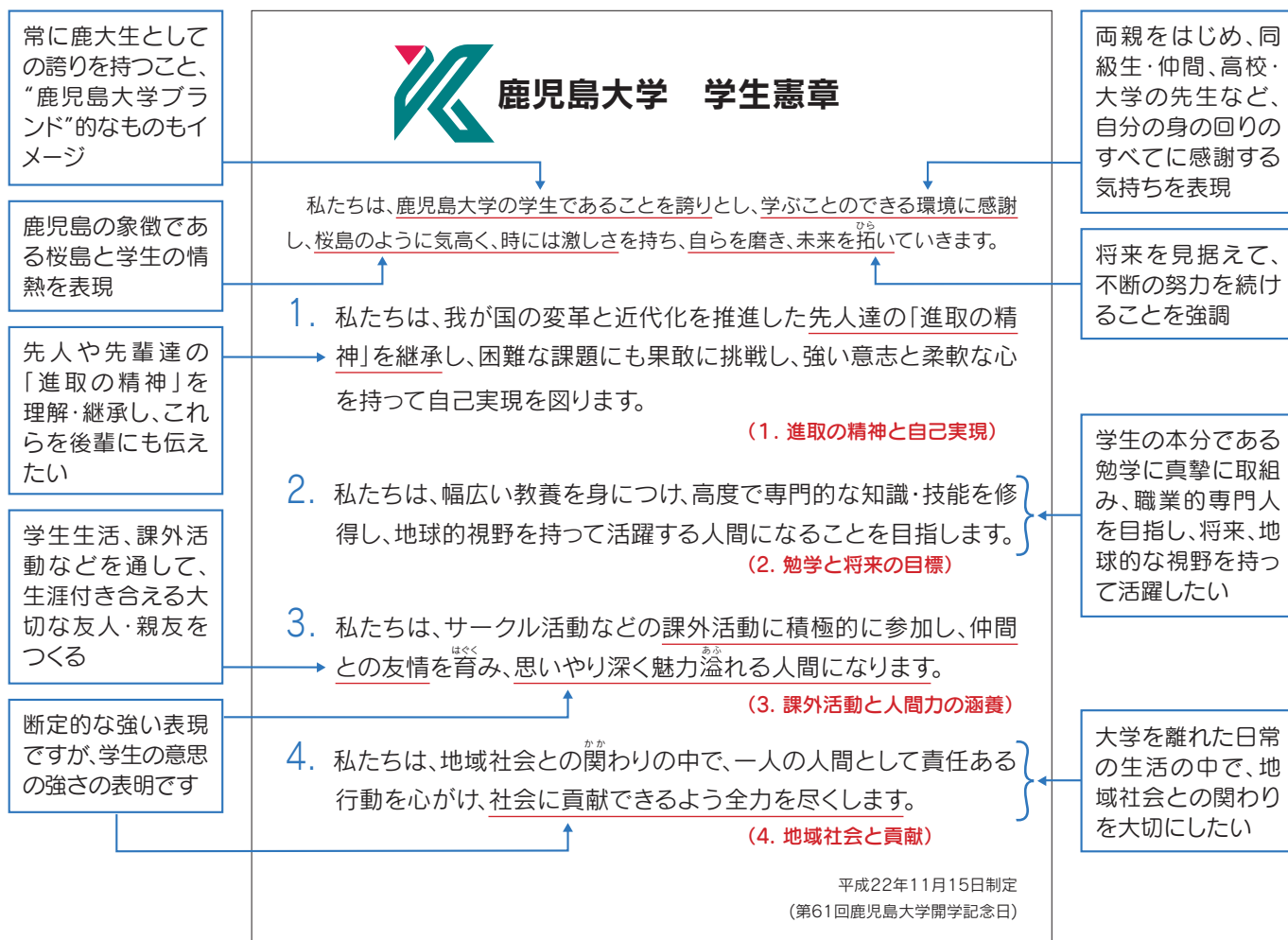
平成22年11月15日制定  
(第61回鹿児島大学開学記念日)

## 学生憲章制定までの主な経緯

本学では、「進取の精神」を踏まえ、鹿児島大学の学生としての行動指針や規範となる「鹿児島大学 学生憲章」を制定しました。学生憲章を制定している大学は数少なく、学生が主体となって学生憲章を制定した国立大学は本学が全国で唯一です。次に学生憲章制定に至る主な経緯を時系列に示します。

- 4月中旬、学生憲章ワーキンググループ(WG)会議(教職員16名で構成)を立ち上げ、学生憲章の目的や位置付け、今後の方針などを議論。
- 8月20日、「学生憲章ワークショップ」(34名の学生と20名の教職員参加)を開催。各学部から推薦された学生34名を4グループに分け、班毎に学生憲章(草案)を作成し、学長同席の下、学生憲章発表会を実施。
- 10月1日、ワークショップ時の各班のリーダー等の学生を中心にした「学生憲章成案作成委員会」を組織し、4回の検討会を通じて「学生憲章(草案)」をとりまとめる。
- 10月中旬、本学のホームページを利用して、「学生憲章(草案)に対する意見の募集について」を公開するとともに、本学の全教職員に対して意見募集のメールを配信し、広く意見等を募集。
- 11月上旬、学生憲章成案作成委員会とWG会議との合同会議を2回開催。寄せられた意見等を参考に、学生同士が活発に議論し、若干の文言修正を経て、最終的な「学生憲章(草案)」を確定。
- 11月15日、第61回鹿児島大学開学記念日に併せて「鹿児島大学 学生憲章」を制定、12月1日公表。

### 〈学生憲章の解説の一例〉



# 大学憲章に基づくプロジェクト事業

## ◆教育

### ①「人間力・学士力養成プログラム」

鹿児島大学憲章では、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、幅広い教養教育と高度な専門教育を行うとともに、地域の特性を活かした進取の気風を養い、真理を愛し、高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍する人材の育成を目指している。

また、鹿児島大学では、幕末から明治期における薩摩の志士たちのように、進取の精神を培い、進取の気風を身に付けた人材の育成を目指している。これを達成するためには、もう一度地元鹿児島を歴史、文化、自然、風土、産業などの視点で見直し、地域学習・体験、ボランティア活動と海外研修などを通じて、若い学生諸君の英知と行動力を呼び起こし、新しい日本社会のあるべき姿を模索し、世界に発信していきたいと考えている。この目的を達成するために共通教育と基礎教育を再構築し、専門教育へとつないで二十一世紀型市民を養成する。

これまでに、人間力の養成を主眼として、後掲の「地域の特性を活かした進取の気風を養う教養科目群」、「ボランティア論」を始めとするボランティア活動に必要な、知識・資格・ノウハウに関する科目、能力開発科目、倫理関連科目、海外体験科目などにより、人間力・学士力養成プログラムを構築するための科目開発を行ってきた。

平成23年度には、学生の自己実現に重きをおきつつ、自発や利他の心情の醸成はもちろん、具体的に地域社会や人々と交流して、地域や人々を支援する活動を主体的に行い、地域社会に役立つ成果を得るとともに、活動の意義を見つめ、自分の知恵・知識・判断力・行動力などを更に発展させる必要性を明確に自覚させることを目的として、共通教育課程の人間力養成プログラムとして完成する。



▲教養科目「海外研修基礎コース」で Saint Mary's College of Californiaを訪問

### ②「地域の特性を活かした進取の気風を養う教養科目群」

鹿児島大学は、鹿児島の政治、経済、文化、医療、産業、科学、地理・風土等々、多くの分野で地域を研究し、その成果を蓄積してきており、その知見を教育に反映し、「鹿児島の中に世界をみる教養科目群」を構築して、大学憲章を具現化してきた。そこでは鹿児島という地域に固有の情報提供にとどまらず、鹿児島を科学的視野で理解し、そこに内在する本質を見抜く力、さらに鹿児島から世界を理解する力を養成することがこの教育の特徴である。

この教養科目群は、ボランティア教育や国際体験科目などと連携し、人間力養成プログラムの一翼を担う、進取の気風を養う教養教育で、「鹿児島探訪」講義シリーズ10科目、体験シリーズ15科目、発展科目12科目からなり、毎年約2700名以上の学生が受講している。

現在、地域の特性を活かす教育理念は更に発展し、鹿児島県の他の高等教育機関や地方自治体・企業・民間組織等に働きかけて、平成21年度から県内の大学生等が受講できる「グローバル教養教育」を開講し、さらにはICTを活用した授業支援を充実させてきた。戦略GPによる支援が終了した平成23年度からは、「大学地域コンソーシアム鹿児島」が受け皿となり、グローバル教養教育を継承する。



▲戦略GP「かごしまフィールドスクール」でのグループ発表

### 「鹿児島の中に世界をみる教養科目群」の教育コンセプト

鹿児島大学の地域研究+専門的職業人、鹿児島県、NPO

地域を素材に

自然と社会の本質と普遍性  
国際的時空における個性ある教養の構築  
社会と歴史認識に基づく展望の構築

基礎的能力の着実な涵養 → 教養ある専門家への動機づけ

21世紀型地球市民養成  
地域貢献 国際貢献



## ◆研究・社会貢献

### ①「鹿児島環境学プロジェクト」

平成20年度から「鹿児島環境学」プロジェクトを始めて4年目になった。このプロジェクトは、現代の最大の課題である環境問題について屋久島や奄美などのフィールドを生かした研究を進め、鹿児島大学から全国への情報発信や政策提言を積極的に行うことを狙いとしている。

研究成果は毎年市販の刊行物としてとりまとめ、平成21、22年度には「鹿児島環境学I、II」「鹿児島環境キーワード事典」を出版した。今年の夏には「鹿児島環境学III」を出版する予定である。

毎年イベントも実施している。平成23年1月には徳之島において学長も参加して徳之島フォーラムを開催した。社会に開かれたプロジェクトを目指し、鹿児島大学教員の他、マスコミ、県庁、通訳会社主催者などもワーキングメンバーに加わっている。23年4月から同メンバーによる大学院での環境コース授業を開始するなど、研究教育面でのさらなる充実を企画している。



▲徳之島フォーラム  
(平成23年1月10日 徳之島伊仙町にて開催)

### ②「島嶼プロジェクト」～豊かな島嶼の発展のために～

国内外島嶼地域の自律的で豊かな発展のため、国際島嶼教育研究センターが中心となって学内外の様々な分野の研究者と連携し、鹿児島島の島々及びその周辺の連続的島嶼や太平洋の島々における人・社会・陸域生態系・海域生態系の領域を総合した調査研究を行っている。特に地球温暖化やグローバル化の影響で社会的課題を抱えている太平洋島嶼への学術的貢献では、グアム大学・ハワイ大学・南太平洋大学・ミクロネシア短期大学等とも連携しながら学際的研究を進めている。また南北に長い鹿児島島の列島域は、特に地球温暖化などのセンサーゾーン研究拠点としての利点があり、文化的・生態系的個性と連続性が多様に存在する地域である。その発展には島間連携と個性再認識が大切であることから、地域関係機関や地元研究者との連携を強化した貢献を目指している。新組織として、改組前組織である多島圏研究センターの実績を継承発展しつつ、島嶼に関する教育体制の確立にも努めており、平成22年度後期から大学院全学横断的教育プログラム「島嶼学教育コース」を開設した。

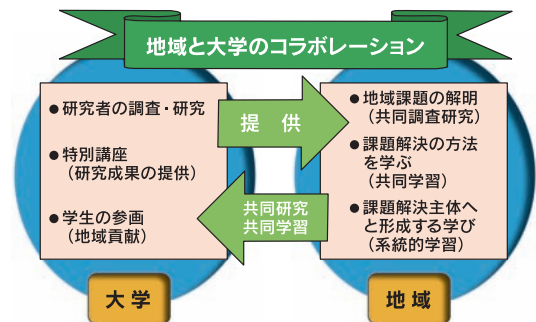


▲ミクロネシア連邦コスラエ島での聞き取り調査

### ③「地域と大学のローカルシンフォニー」～地域社会の発展と活性化のための大学地域貢献～

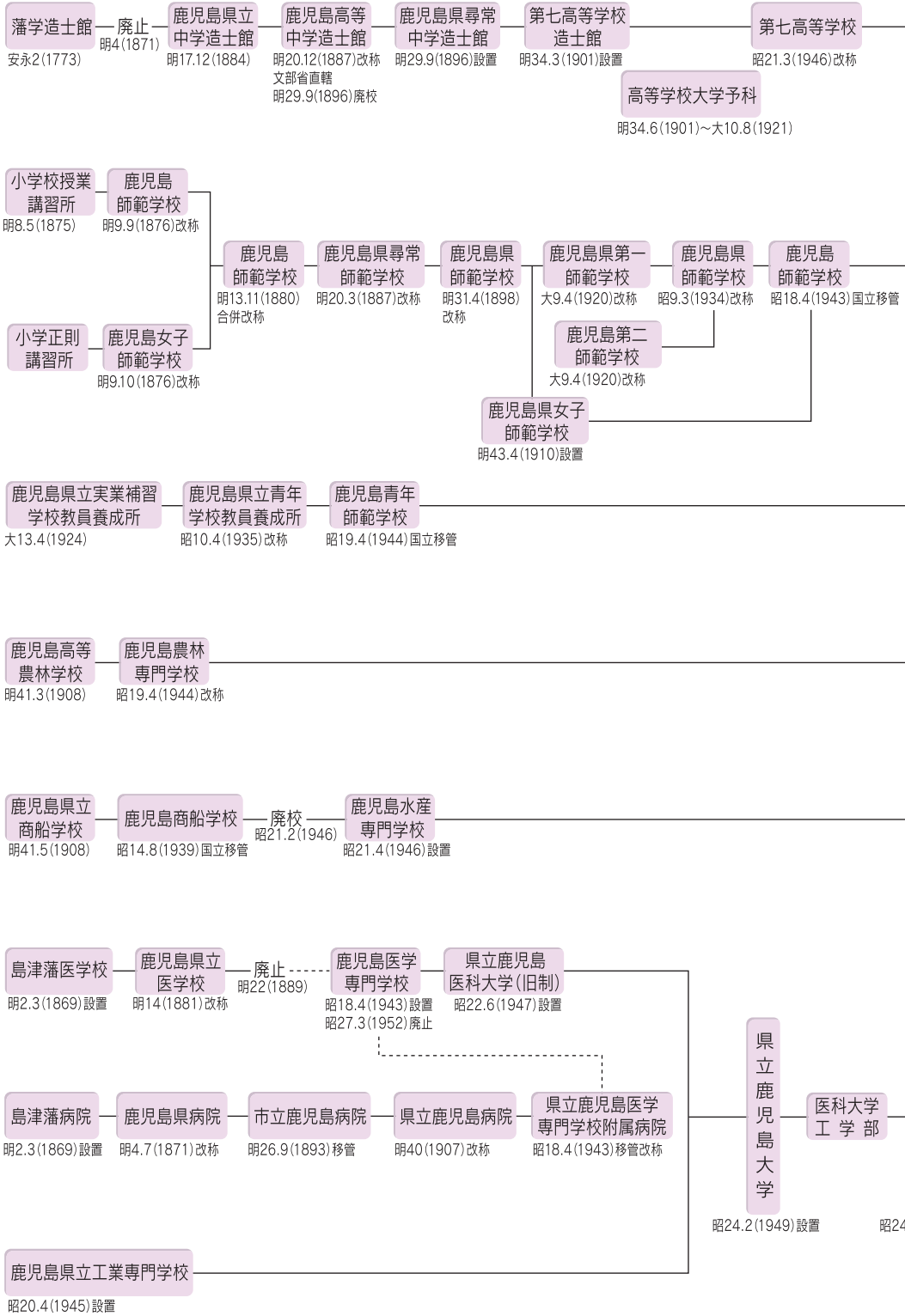
このプロジェクトは、様々な地域課題(ここでは、広く生活・文化・健康等の願いを含めている)を解決するために、①大学と市民とが共同の取り組みや調査研究を行い、②大学は蓄積した研究を背景に特別講座を提供し、③学生はそれぞれに参画して実体験して学ぶことを進める。また、④地域の行政や人々は、これを受け止めるネットワークを形成して、研究者や学生と共に学び行動していただくことをお願いしている。これは、地域と大学とが、共同学習・共同研究で響きあうプロジェクトである。また、研究、教育、地域貢献が三位一体となって推進されるプロジェクトである。

平成20年度に開始されたこの企画は、与論町と指宿市を中心に実施してきたが、熱心なご要望を受け止めて平成22年度からは、鹿屋市と大崎町でも実施するなど自治体の受入体制も整ってきている。このプロジェクトは、自治体と地域のみなさんご協力を得て、大学地域貢献のモデルづくりを志向する企画でもある。



鹿児島大学

昭24.5(1949)設置



藩学造士館「三國名勝図会」(附属図書館「玉里文庫」所蔵)

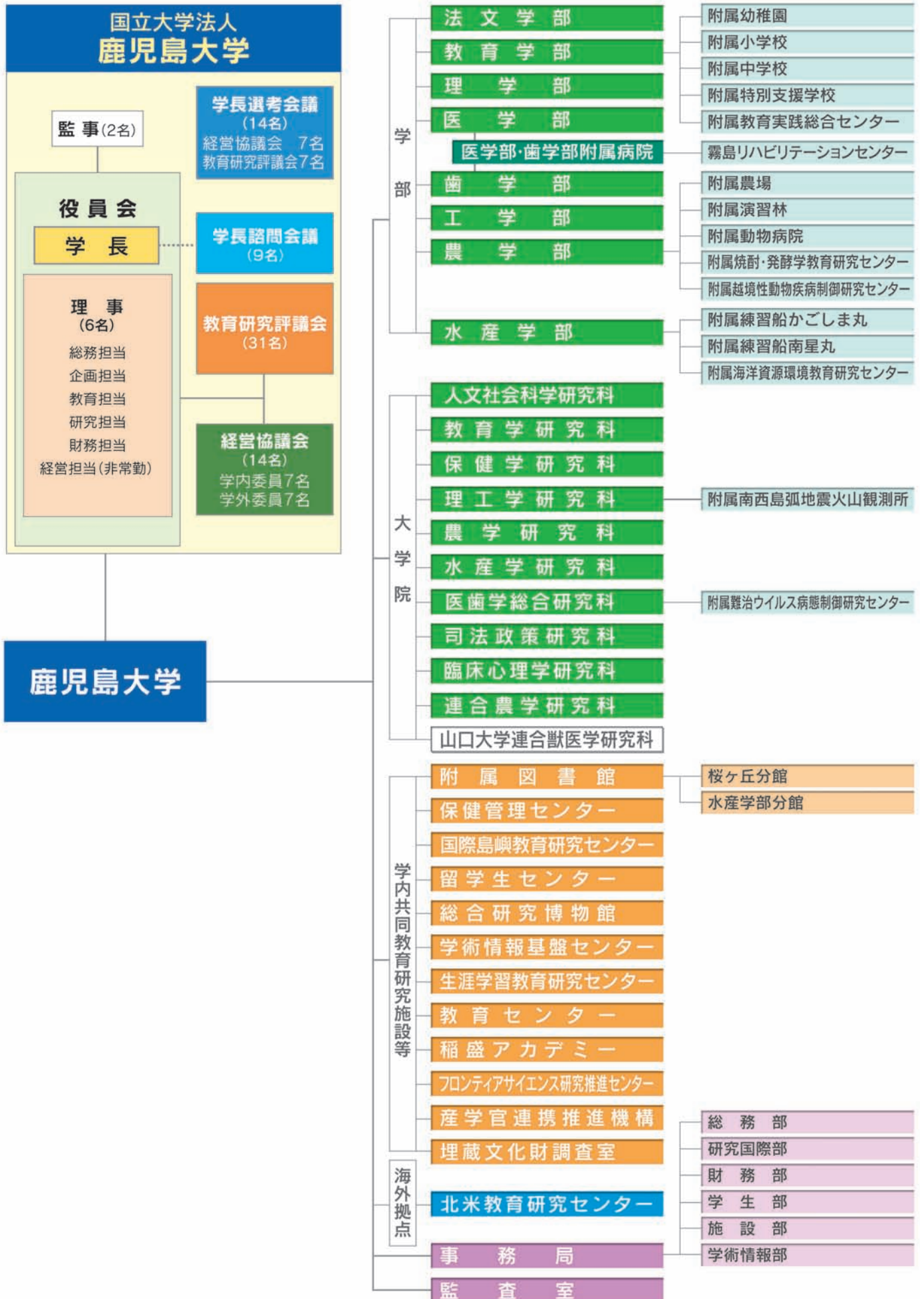


第七高等学校造士館前景





組  
織



## 役員

学長	吉田浩己
理事 総務担当	河原尚武
理事 企画担当	島秀典
理事 教育担当	阿部美紀子
理事 研究担当	前田芳實
理事 財務担当(兼事務局長)	渡辺政美
理事 経営担当	大野芳雄
監事 業務監査	坂東義雄
監事 会計監査	川崎孝雄

## 副学長

広報・情報担当	萩野誠
国際戦略担当	馬場昌範
産学官連携担当	安部淳一
附属病院担当	熊本一朗
キャンパス計画担当	友清貴和

## 経営協議会委員

学長	吉田浩己
消費生活アドバイザー 元鹿児島大学運営諮問会議委員	石窪奈穂美
鹿児島県副知事	山田裕章
志學館大学学長	辰村吉康
株式会社南日本放送 代表取締役社長	中村耕治
株式会社新日本科学 代表取締役社長	永田良一
社団法人日本産業カウンセラー協会 九州支部前鹿児島地域責任者	林ユリ子
元鹿屋体育大学理事(非常勤) 元鹿児島大学副学長	萬田正治
理事	河原尚武
理事	島秀典
理事	阿部美紀子
理事	前田芳實
理事	渡辺政美
医学部・歯学部附属病院長	熊本一朗

## 教育研究評議会評議員

学長	吉田浩己
理事	河原尚武
理事	島秀典
理事	阿部美紀子
理事	前田芳實
事務局長	渡辺政美
法文学部	石川英昭 平井一臣
教育学部	武隈晃理 土田理
理学部	宮嶋公昭 與倉昭治

医学部	榮深鶴野義和人 杉原一卓正男
歯学部	住吉文夫 甲斐敬美
工学部	岩元泉健 米田
農学部	野呂忠秀 越塩俊介
水産学部	熊本一朗 福井泰好
医学部・歯学部附属病院長	坪内博仁
理工学研究科長	采女博文
医歯学総合研究科長	安部恒久
司法政策研究科長	菅沼俊彦
臨床心理学研究科長	井上佳朗
連合農学研究科長	下川悦郎
附属図書館長	門久義
学内共同教育研究施設代表者	
教育センター長	

## 学長諮問会議委員

学長	吉田浩己
鹿児島県知事	伊藤祐一郎
京セブ株式会社名誉会長 日本航空会長	稲盛和夫
鹿児島大学同窓会連合会 会長	江口正純
株式会社南日本新聞社 代表取締役社長	逆瀬川尚文
鹿児島商工会議所 会頭	諏訪秀治
日本芸術院会員 鹿児島大学名誉教授	中村晋也
株式会社鹿児島銀行 取締役会長	永田文治
鹿児島市長	森博幸
社会医療法人緑泉会 整形外科米盛病院会長	米盛學

## 学長補佐

総務・人事担当	鈴木廣志
高大接続担当	山本一哉
情報担当	森邦彦
法務担当	前田稔
危機管理担当	小栗實
男女共同参画担当	田島真理子
企画・評価担当	山本淳
教育担当	有倉巳幸
学生生活担当	新森修一
財務担当	藤重義則
財務企画担当	清原貞夫
財務評価担当	吉田愛知
共通教育担当	門久義
環境プロジェクト担当	小野寺浩

## 事務局

事務局長	渡 辺 政 美
総務部長	後 藤 博 明
総務課長	山 崎 勝 也
企画評価課長	川 西 正 美
人事課長	伊 藤 正 則
情報企画課長	上 國 料 宏
労務調査室長	野 頭 俊 明
研究国際部長	油 原 ゆう子
研究協力課長	山 本 高 師
国際事業課長	永 田 恒 久
財務部長	野 崎 講 一 郎
財務課長	佐 藤 俊 明
経理課長	神 之 門 悟
学生部長	萩 元 良 二
教務課長	福 永 司
学生生活課長	松 野 下 繁 文
入試課長	黒 原 敏 博
施設部長	須 崎 茂 弘
企画課長	折 田 龍 彦
建築課長	藤 崎 司
設備課長	江 藤 和 久
学術情報部長	長 友 良 維
情報管理課長	松 田 孝 三
情報サービス課長	瓜 生 照 久

## 監査室

監査室長	仮 屋 誠
------	-------

## 学 部 等

### 法文学部

学部長	石 川 英 昭
副学部長	平 井 一 臣
副学部長	高 津 孝
事務長	湊 哲 郎

### 教育学部

学部長	武 隈 晃
副学部長	土 田 理
副学部長	大 坪 治 彦
事務長	二 石 章
附属教育実践総合センター長	園 屋 高 志
附属幼稚園長	飯 干 明
附属小学校長	飯 干 明
附属中学校長	三 仲 啓
附属特別支援学校長	新 名 主 健 一

## 理学部

学部長	宮 嶋 公 夫
副学部長	與 倉 昭 治
副学部長	藏 脇 淳 一
副学部長	宮 町 宏 樹

## 医学部

学部長	榮 鶴 義 人
副学部長	深 野 佳 和
副学部長	佐 野 輝
副学部長	吉 田 愛 知

## 歯学部

学部長	杉 原 一 正
副学部長	田 中 卓 男
副学部長	松 口 徹 也
副学部長	於 保 孝 彦

## 医学部・歯学部附属病院

病院長	熊 本 一 朗
副病院長(医科担当)	中 川 昌 之
副病院長(歯科担当)	田 中 卓 男
薬剤部長	武 田 泰 生
看護部長	向 窪 世 知 子
臨床技術部長	福 島 昇
事務部長	小 野 潔
総務課長	安 武 博 隆
経営企画課長	東 家 廣 典
管理課長	高 橋 祐 二
医務課長	水 流 添 茂 登

## 工学部

学部長	住 吉 文 夫
副学部長	甲 斐 敬 美
副学部長	本 間 俊 雄
副学部長	内 山 博 之



## 農学部

学部長	岩 元 泉
副学部長	米 田 健
副学部長	高 瀬 公 三
副学部長	富 永 茂 人
附属農場長	坂 田 祐 介
附属演習林長	遠 藤 日 雄
附属動物病院長	桃 井 康 行
附属焼酎・発酵学教育研究センター長	鮫 島 吉 廣
附属越境性動物疾病制御研究センター長	岩 元 泉
事務長	稲 葉 成 人

## 水産学部

学部長	野 呂 忠 秀
副学部長	越 塩 俊 介
副学部長	重 廣 律 男
副学部長	前 田 広 人
附属練習船かごしま丸船長	東 政 能
附属練習船南星丸船長	内 山 正 樹
附属海洋資源環境教育研究センター長	小 山 次 朗
事務長	新 留 英 史

## 大 学 院

人文社会科学研究科長	石 川 英 昭
教育学研究科長	武 隈 晃
保健学研究科長	深 野 佳 和
農学研究科長	岩 元 泉
水産学研究科長	野 呂 忠 秀

## 理工学研究科

研究科長	福 井 泰 好
副研究科長	住 吉 文 夫
副研究科長	宮 嶋 公 夫
副研究科長	仲 谷 英 夫
副研究科長	近 藤 英 二
附属南西島弧地震火山観測所長	宮 町 宏 樹

### 理工学研究科等事務部

事務部長	田 上 豊
研究科事務課長	上白石 豊
理学系事務課長	坂 口 智 子
工学系事務課長	上 村 敏

## 医歯学総合研究科

研究科長	坪 内 博 仁
副研究科長	亀 山 正 樹
副研究科長	宮 脇 正 一
附属難治ウイルス病態制御研究センター長	有 馬 直 道

### 医歯学総合研究科等事務部

事務部長	中 村 浩 二
総務課長	島 森 俊 光
学務課長	諏訪原 敏 郎

## 司法政策研究科

研究科長	采 女 博 文
副研究科長	米 田 健 一

## 臨床心理学研究科

研究科長	安 部 恒 久
副研究科長	松 木 繁

## 連合農学研究科

研究科長	菅 沼 俊 彦
研究科長補佐	杉 元 康 志

## 学内共同教育研究施設等

附属図書館	
附属図書館長	井 上 佳 朗
桜ヶ丘分館長	鳥 居 光 男
水産学部分館長	板 倉 隆 夫
保健管理センター所長	伊 地 知 信 二
国際島嶼教育研究センター長	野 田 伸 一
留学生センター長	大 嶋 眞 紀
総合研究博物館長	大 木 公 彦
学術情報基盤センター長	森 邦 彦
生涯学習教育研究センター長	下 川 悦 郎
教育センター長	門 久 義
副センター長	中 島 あや子
稲盛アカデミー長	吉 田 浩 己
フロンティアサイエンス研究推進センター長	中 河 志 朗
産学官連携推進機構長	安 部 淳 一
埋蔵文化財調査室長	新 田 栄 治

## 海外拠点

北米教育研究センター長	井 手 祐 二
-------------	---------

■現員

(平成23年5月1日現在)

部 局 等 名	学 長		役 員		教 授		准教授		講 師		助 教		助 手		小 計		教 諭		事務・技術・その他						合 計	
																			事務		技術		その他			
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
事 務 局	1		7	1											9				119	61	12	1	3		205	
国 際 戦 略 本 部								1							1										1	
保 健 管 理 セ ン タ ー					1							1			2								2		4	
国 際 島 嶼 教 育 研 究 セ ン タ ー					2		2								4										4	
留 学 生 セ ン タ ー					1	1		2							4										4	
総 合 研 究 博 物 館					2		1	1					1		5										5	
学 術 情 報 基 盤 セ ン タ ー					3		2				1				6										6	
生 涯 学 習 教 育 研 究 セ ン タ ー								1							1										1	
教 育 セ ン タ ー					2		2	2							6										6	
稲 盛 ア カ テ ミ ー					1										1										1	
フ ロ ン テ ィ ア サ イ エ ン ス 研 究 推 進 セ ン タ ー					4		3				2				9					4		1			14	
産 学 官 連 携 推 進 機 構					1		1								2										2	
埋 蔵 文 化 財 調 査 室								1			1				2										2	
法 文 学 部					43	3	30	8	1				2		87				6	9					102	
教 育 学 部					36	5	32	6	6	4					74	13			11	8	1				86	23
附 属 幼 稚 園																	1	3							4	
附 属 小 学 校																	31	6		2		1	2		42	
附 属 中 学 校																	23	8		2					33	
附 属 特 別 支 援 学 校																	18	10	1	1					30	
附 属 教 育 実 践 総 合 セ ン タ ー					6		3	1							10										10	
医 学 部					15	6	3	2	2	4	6	14			52										52	
医 学 部 ・ 歯 学 部 院 附 属 病 院							7		43	3	73	18			144				52	26	9	1	94	683	1,009	
農 学 部					40		41	3			9				93				13	8	4				118	
附 属 農 場					1		1				1				3				2	1	14	1			21	
附 属 演 習 林					1		1								3				1	5					8	
附 属 動 物 病 院							1								1					1					2	
附 属 越 境 性 動 物 疾 病 制 御 研 究 セ ン タ ー					3										3										3	
附 属 焼 酎 ・ 発 酵 学 教 育 研 究 セ ン タ ー					2		2								4										4	
水 産 学 部					19		14	1	2		6	2			44				6	6	3	1			60	
附 属 練 習 船 か ご し ま 丸					1				1		2				4							23			27	
附 属 練 習 船 南 星 丸									1		1				2							12			14	
附 属 海 洋 資 源 環 境 教 育 研 究 セ ン タ ー					2		2	1			1				6					6					12	
大 学 院 理 工 学 研 究 科 (工 学 系)					43		44		1		31				119					1	22	3			145	
大 学 院 理 工 学 研 究 科 (理 学 系)					31		28	1	1	1	7	1			70										70	
附 属 南 西 島 弧 地 震 火 山 観 測 所							1				1				2					1					3	
理 工 学 部 等 事 務 部																			20	12					32	
医 歯 学 部 総 合 研 究 科					57	1	35	6	13	2	86	21			221				1	4	8	2		2	238	
附 属 難 治 ウ イ ル ス 病 態 制 御 研 究 セ ン タ ー					4		3			1	1				9										9	
医 歯 学 部 総 合 研 究 科 等 事 務 部																			28	14					42	
大 学 院 司 法 科 大 政 策 研 究 科					10		3								13										13	
大 学 院 臨 床 心 理 学 研 究 科					4	2	3								9										9	
連 合 農 学 研 究 科					1										1										1	
計	1	0	8	1	354	18	302	37	86	15	286	57	3	0	1,040	3	100	27	260	155	90	9	134	689	2,477	1,011



## 法文学部



法文学部は、藩学造士館、旧制第七高等学校の系譜を引く学部で、現在、法政策学科、経済情報学科、人文学科の3学科から構成される文系総合学部となっている。本学部では、社会や文化に関する確かな知識と幅広い教養を有し、現代社会の諸問題に適切に対処できる能力をもつ学生の育成を目指している。

法政策学科では、多方面に応用できる法的思考能力と政策立案能力を育成する現代型法学教育の展開、経済情報学科では、少人数教育、情報教育を基礎に3つの履修モデルによる問題解決型教育の推進、人文学科では、人間と社会の相互作用の認識や心のケア、多文化社会やメディア文化、地域の理解と文化の育成、国際交流など多方面の教育の充実を図っている。また、3つの学科の個性を生かしながら、キャリア教育やメディア教育など、今日的な課題に積極的に対応した教育を展開している。

### 学科・講座

#### 法政策学科

- 政策科学
- 市民法
- 法交渉

#### 経済情報学科

- 経済システム
- 経営情報
- 地域計画
- 国際協力

#### 人文学科

- 人間科学
- 地域環境
- 日本・アジア総合文化
- ヨーロッパ・アメリカ総合文化

## 教育学部



教育学部は、明治初期に源をもつ各師範学校等、教員養成機関としての長い歴史を通じて、鹿児島県はもとより、全国の教育界など広く社会に有為の人材を送り出してきた。現在は、主に小・中学校、高等学校の教員を育成する学校教育教員養成課程、特別支援学校等で活躍する人材を育成する特別支援教育教員養成課程、社会教育分野などの指導者養成に当たる生涯教育総合課程の3課程で構成されており、教育に関する深い理解と指導力、そして豊かな人間性の形成を目指している。

### 課程・講座(専修)

#### 学校教育教員養成課程

- 国語教育
- 社会科教育
- 数学教育
- 理科教育
- 音楽教育
- 美術教育
- 保健体育
- 技術教育
- 教育学
- 家政教育
- 英語教育
- 心理学

#### 特別支援教育教員養成課程

- 障害児教育

#### 生涯教育総合課程

- 地域社会教育
- 国際理解教育
- 健康教育

### 附属教育研究施設等

- 幼稚園
- 小学校
- 中学校
- 特別支援学校
- 教育実践総合センター
- 寺山自然教育研究施設

## 理学部



「理学」は、自然現象の中に潜む真理を探究する学問であり、そこで明らかにされた自然法則は人類の英知や文化の中に蓄積され、科学技術の発展を支えてきた。現代社会は豊かなものになったが、豊かさの裏では環境やエネルギーなどに関する新たな課題も生じた。このような問題を解決するためにも、真理の探究と共に、物事の原理を生かしながら、基礎科学を中心とする自然科学の最新の教育・研究を進める。

〈育成する人材像〉

- \* 自然科学の専門知識と幅広い教養を併せもち、論理的科学的思考力を身につけた人
- \* 学問の高度化や多様化に柔軟に対応できる、創造力のある人
- \* 社会性、国際性、学際性が豊かで、先端科学の知識と問題解決能力を身につけた人
- \* 高い倫理観をもって人類の幸福と福祉に貢献できる人

### 学科

数理情報科学科

物理科学科

生命化学科

地球環境科学科

## 医学部



医学部は、明治2(1869)年にウィリアム・ウィリスを校長として設立された島津藩医学校を前身とし、昭和18(1943)年に医学科の母体となる県立鹿児島医学専門学校が開校された。その後幾多の変遷をたどり、昭和30(1955)年に鹿児島大学医学部に改称された。また、平成10年には保健学科が設置され、現在では医学科と保健学科の2学科で構成されている。この間、多くの人材を輩出し、日本各地で医学・医療の進歩と国民の健康と福祉のため多大な貢献をしている。本学部では、人間性豊かな、地域に貢献する、研究心旺盛な、国際的視野に立つ医学・医療を担う人を育成することを目指している。

### 学科・学科目等

#### 医学科

- 医学概説学
- 疾病病因学
- 疾病病態学
- 医学実践学
- 臨床実践学

#### 保健学科

- |   |   |   |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 看護学専攻</li> <li>■ 総合基礎看護学</li> <li>■ 臨床看護学</li> <li>■ 母性・小児看護学</li> <li>■ 地域看護・看護情報学</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 理学療法学専攻</li> <li>■ 基礎理学療法学</li> <li>■ 臨床理学療法学</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 作業療法学専攻</li> <li>■ 基礎作業療法学</li> <li>■ 臨床作業療法学</li> </ul> |
|---|---|---|

### 附属教育研究施設

- 医学部・歯学部附属病院

## 歯学部



歯学部は、沖縄を含む南九州全域における歯科医学の教育と研究ならびに歯科医療の中心的役割を果たすべく、昭和52(1977)年10月に設置された。

本学部では、う蝕、歯周疾患、顎関節症、咬合異常、口腔領域の形成異常(口唇口蓋裂など)、外傷、腫瘍(口腔癌など)などの各種疾患の原因を究明し、これらの疾患の治療法ならびに予防法を確立していくとともに、歯科医学を通して地域的にも国際的にも十分に貢献しうる人材を育成することを目標としている。また、共通・教養教育や基礎医学・隣接臨床医学教育にも力を注ぐとともに、良識ある人間形成に繋がる教育を心がけ、全人的歯科医療の実践と歯学分野における幅広い知識と技術を有し、創造性に富む歯科医師及び歯科医学教育者・研究者の育成を目指している。

また、県内離島の巡回歯科診療を毎年実施し、地域のニーズに応える歯科医療を実践するとともに、学生にも離島巡回歯科診療の実習を体験させている。

### 学科・学科目

#### 歯 学 科

- 歯科常態学
- 歯科病態学
- 発達育成歯科学
- 口腔顎顔面歯科学

### 附属教育研究施設

- 医学部・歯学部附属病院

## 工学部



昭和24(1949)年4月鹿児島県立大学の発足に伴い、鹿児島県立工業専門学校を母体として工学部が設置され、同30(1955)年県から国立移管され鹿児島大学工学部となった。

本学部は、工学を支える基礎研究の中核および国際的視野をもった技術者の養成機関として、広い視野と解決能力のある柔軟な頭脳をもつ研究者・技術者の養成を目指している。平成21年4月には、より充実した学部教育を目指し改組を行い、応用化学工学科、情報工学科および生体工学科の3学科を環境化学プロセス工学科、情報生体システム工学科と化学生命工学科に再編し以下の7学科とした。

また、これまで以上に国際的に通用する技術者の養成を目指し、教育課程の見直し等を行い、JABEE(日本技術者教育認定機構)認定に向けて取り組みを行っており、平成23年5月現在、機械工学科・電気電子工学科・建築学科・応用化学工学科(化学工学コース・応用化学コース)・環境化学プロセス工学科・海洋土木工学科が認定を受けている。なお、化学生命工学科においては、現在認定に向けて申請中である。

### 学科

- 機械工学科
- 電気電子工学科
- 建築学科

- 環境化学プロセス工学科
- 海洋土木工学科
- 情報生体システム工学科

- 化学生命工学科



## 農学部



農学部は、明治41(1908)年開設の鹿児島高等農林学校に始まり、昭和24(1949)年鹿児島大学農学部となった。日本の食料生産基地に位置する本学部は、生物生産学科、生物資源化学科、生物環境学科および獣医学科の4学科から構成され、附属施設として、附属農場、附属演習林、附属動物病院、焼酎・発酵学教育研究センターおよび越境性動物疾病制御研究センターを有している。温帯から亜熱帯へ南北数百kmに及ぶ多様な自然環境と生物資源に恵まれた地域の特性を生かして、食、農、地域資源、環境、生命に関する教育を行っている。また、フィールドでの教育、地域産業と連動したキャリア教育を重視し、豊かな人間性、現場での実践力、優れた応用力、広い視野と国際性を備え、地域社会と発展途上国に貢献できる技術者・指導者を養成している。現在は、学部の上に修士課程(農学研究科)および博士課程(連合農学研究科、連合獣医学研究科)が設置されている。

### 学科・講座

#### 生物生産学科

- 作物生産学
- 園芸生産学
- 病害虫制御学
- 家畜生産学
- 農業経営経済学

#### 生物資源化学科

- 生命機能化学
- 食品機能化学
- 食糧生産化学

#### 生物環境学科

- 森林管理学
- 地域資源環境学
- 環境システム学
- 生産環境工学

#### 獣医学科

- 基礎獣医学
- 病態・予防獣医学
- 臨床獣医学
- 先端獣医科学

### 附属教育研究施設

- 農場 ■演習林
- 動物病院
- 焼酎・発酵学教育研究センター
- 越境性動物疾病制御研究センター

## 水産学部



水産学部は、鹿児島水産専門学校を母体として昭和24(1949)年に誕生した。「海を怖れず、海を愛し、海を拓け」をモットーに、鹿児島から東南アジア・南太平洋を含む海洋や陸水域をフィールドとし、水産資源の持続的生産とその合理的利用、水圏環境の保全、生活文化の創出の分野で、地域社会と国際社会に貢献する人材を育成することを教育の目的としている。食糧生産の確保と海洋環境の保全といった時代の要請に応えるため、高度で先進的な教育を受けた技術者を養成し、水産海洋科学の分野から、鹿児島は勿論のこと、熱帯・亜熱帯水域の発展途上国で活躍できる、国際的視野を持った卒業生を送り出している。平成15年には大学教育の分野では初めて、国際的な品質基準であるISO9001認証を取得した。また、平成19年には、カリキュラム改革に伴い、講座を廃止し、教育分野による教育組織を構築した。

### 学科等・教育分野

#### 水産学科

- 水産生物・海洋学分野
- 養殖学分野
- 食品・資源利用学分野
- 漁業工学分野
- 水産経済学分野

#### 水産教員養成課程

- 水産教員養成課程分野

### 附属教育研究施設

- 附属練習船かごしま丸(1,297トン)
- 附属練習船南星丸(175トン)
- 附属海洋資源環境教育研究センター
- 東町ステーション
- 食品・資源利用学実習工場
- 回流水槽実験室 ■鴨池海洋生産実験室

## 人文社会科学研究科

人文社会科学研究科は、平成10年、既に開設されていた法学研究科〔昭和54(1979)年設置〕、人文科学研究科〔昭和61(1986)年設置〕を発展的に解消して設置された。現在は博士前期課程4専攻(法学専攻、経済社会システム専攻、人間環境文化論専攻、国際総合文化論専攻)および博士後期課程1専攻(地域政策科学専攻)からなっている。

本研究科では、各専門分野における高度な研究・教育を行うとともに、プロジェクト研究を中心とする地域に密着した実践的な研究に取り組んでいる。また、昼夜開講制による社会人学生の積極的な受け入れや、奄美サテライト教室〔平成16年奄美大島開設、平成19年徳之島分室開設〕を通じた離島地域での授業開講など、社会の修士号および博士号取得のニーズに積極的に応えている。さらに、博士前期課程では中学校および高等学校教諭専修免許の資格を取得することができる。

### 課程・専攻

#### 博士前期課程

法学 ■ 経済社会システム ■ 人間環境文化論 ■ 国際総合文化論

#### 博士後期課程

■ 地域政策科学

## 教育学研究科

教育学研究科は、平成21年4月に「学校教育専攻」と「教科教育専攻」の2専攻から「教育実践総合専攻」の1専攻に改組された。すなわち、教科や学問分野に細分化されたコース・専修を融合し、より広範な単位である学修コースを設置することによって、現実の課題に即した総合的な講義や研究方法の指導が可能となり、視野の広い高度の専門的知識・技能を背景に、広く教育の分野において優れた指導力を有する高度専門職業人の養成を図ることとした。

さらに、小学校以外の教員免許状を取得している人においては「小学校教員免許取得プログラム(長期在学履修)」も選択できるようになった。なお、現職教員をはじめとする社会人が夜間でも受講可能で修士の学位を取得することのできる昼夜開講制を実施している。

本研究科「教育実践総合専攻」は、「学校臨床系」、「人間発達系」、「生活・健康系」、「言語・社会系」、「理数・環境系」、「芸術・スポーツ系」の6つの学修コースから構成され、各教科に関する専門的知識に加えて学際的知識も修め、教育・研究能力を高めることをめざしている。

### 課程・専攻

#### 修士課程

■ 教育実践総合専攻

## 保健学研究科

保健学研究科は、看護学・理学療法学・作業療法学に関する高度な専門知識・技術をもつ専門職者ならびに優れた教育や研究のできる指導・管理者および離島や国際的な保健・医療に貢献できる人材を養成し、併せて教育研究の成果および情報を社会に広く提供し貢献することを理念として、平成15年4月に博士前期課程、平成17年4月に博士後期課程が設置された。

本研究科では、(1)高度な専門知識・技術を身につけた専門職者、指導・管理者の育成、(2)医療専門職としての質の高い教育・研究者の育成、(3)学生の能力開発に効果的な教育や独自の研究のできる人材の育成、(4)地域の保健・医療において指導・管理者として実践できる人材の育成、(5)離島・へき地の保健・医療の指導者として実践できる人材の育成、(6)国際保健医療活動を推進できる人材の育成、を教育目標としている。

### 課程・領域・分野

#### 博士前期課程

■ 看護学領域  
基礎看護・地域看護学分野  
臨床看護学分野

■ 理学療法・作業療法学領域  
理学療法学分野  
作業療法学分野

#### 博士後期課程

■ 保健看護学分野  
■ 神経運動障害基礎学分野  
■ 臨床精神神経障害学分野

## 理工学研究科

理工学研究科では、「真理を愛し、高い倫理観を備え、自ら困難に挑戦する人格を育成し、時代の要請に対応できる教育研究の体系と枠組みを創成することによって、地域ならびに国際社会の進展に寄与する」という教育研究理念のもとに、理工学の基礎から応用にわたる学術の真理と理論を教授研究し、その深奥を極めて文化の進展に寄与する人材育成を目的とする。

そのために、今日の諸課題に対応できる倫理的判断力および人間生活を取り巻く自然についての総合的知識を有し、自然科学に関する学問の高度化と多様化に幅広く柔軟に対応可能な次世代を担う技術者、研究者、高度専門職業人を養成しつつ、地域社会との連携と世界に開かれた研究科であるように努めている。

博士前期課程に10専攻、博士後期課程に3専攻を設置し、自然科学の深化および理学と工学の融合により科学創成をリードする教育研究活動を展開している。

### 課程・専攻・コースワーク

博士前期課程					博士後期課程
<b>機械工学専攻</b> 生産工学 エネルギー工学 機械システム工学	<b>電気電子工学専攻</b> 電子物性デバイス工学 電気エネルギー工学 通信システム工学	<b>建築学専攻</b> 建築設計 環境設計 構造設計	<b>化学生命・化学工学専攻</b> 化学工学 応用化学 生命工学	<b>海洋土木工学専攻</b> 環境システム工学 建設システム工学	<b>物質生産科学専攻</b> <b>システム情報科学専攻</b> <b>生命環境科学専攻</b>
<b>情報生体システム工学専攻</b> 情報システム工学 認知生体システム工学	<b>数理情報科学専攻</b> 数理構造 現象数理 情報数理	<b>物理・宇宙専攻</b> 物理 宇宙	<b>生命化学専攻</b> 分子機能化学 有機生化学 生命機能	<b>地球環境科学専攻</b> 地球科学 環境解析 多様性生物学	<b>附属教育研究施設</b> 南西島弧地震火山観測所

## 農学研究科

農学研究科は、昭和41(1966)年に開設され、現在、生物生産学専攻、生物資源化学専攻および生物環境学専攻の3専攻が設置されている。わが国有数の食料生産基地を抱え、かつ温帯から亜熱帯に分布する多様な生物資源と自然環境などを生かし、自然環境に調和した食料生産技術の開発、生物機能の解明と応用、自然生態系の保全と修復、農山村社会の活性化などに関する研究に取り組んでいる。また、バイオテクノロジーや先端技術を導入し、農林食産業分野における新技術の開発の教育研究を行っている。農林・食産業を取り巻く状況を把握し、広い視野と倫理観を持って科学技術を応用し、豊かな専門性と実践力・想像力、地域が抱える特色や課題に積極的に取り組む高度専門技術者の養成、さらに博士後期課程へ進学する発展的研究者を養成している。

### 課程・専攻

修士課程		
生物生産学	生物資源化学	生物環境学

## 水産学研究科

水産学研究科では、水産生物・海洋学、養殖学、食品・資源利用学、漁業工学、水産経済学の分野で高度技術者・研究者を養成するための研究と教育が行われており、修了者は各地の水産試験場や民間の研究機関などで専門的な仕事についている。中国、東南アジアや中東、アフリカ、中南米からの留学生も多く、留学生の多い講義の中では英語が用いられることもある。

日本学術振興会のプロジェクトとして、フィリピン大学ビサヤス校とのネガティブインパクト(原油流出)に関する研究や大学院生をマレーシアやインドネシアに派遣する「若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム(ITP)」も行われている。この修士課程を修了した大学院生の中には、引き続き大学院連合農学研究科(博士課程)に進学する者もいる。

### 課程・専攻・講座

修士課程
水産学専攻



## 医歯学総合研究科

医歯学総合研究科は、疾病の予防と治療を使命とする医学と歯学を有機的に結合して、生命医療科学領域における先端的研究と高度の教育を遂行し、多様な社会的要請に迅速に対応することを目指しており、平成15年4月に大学院博士課程(健康科学専攻および先進治療科学専攻)、平成16年4月には修士課程(医科学専攻)が設置された。医歯学総合研究科は、(1)生命科学領域の教育研究のリーダーの育成、(2)地域の特性を生かした生命医療科学領域の教育研究拠点の創出、(3)専門性を備えながら医の倫理観を備えた生命医療人の育成を目標としている。

本研究科には、現在、11講座、2プロジェクト講座、3連携講座のほか、HTLV-1をはじめとしたウイルス性疾患の病態制御をめざした難治ウイルス病態制御研究センター(平成16年4月)、鹿児島県に多い離島やへき地の医療に携わる人材育成を目指した離島へき地医療人育成センター(平成19年4月)を含む6研究センター、4寄附講座が設置されている。



桜ヶ丘キャンパス全景

### 課程・専攻・講座

#### 博士課程

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■健康科学専攻</li> <li>人間環境学</li> <li>社会・行動医学</li> <li>感染防御学</li> <li>発生発達教育学</li> <li>国際島嶼医療学(プロジェクト講座)</li> <li>宇宙環境医学(連携講座)</li> <li>長寿口腔科学(連携講座)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■先進治療科学専攻</li> <li>神経病学</li> <li>感覚器病学</li> <li>運動機能修復学</li> <li>循環器・呼吸器病学</li> <li>生体機能制御学</li> <li>顎顔面機能再建学</li> <li>腫瘍学</li> <li>再生・移植医療学(プロジェクト講座)</li> <li>先端医療学(連携講座)</li> </ul> |
|--|---|

#### 修士課程

- 医科学専攻

### 附属教育研究施設

- 難治ウイルス病態制御研究センター

### 寄附講座

- 医療関節材料開発講座(日本メディカルマテリアル)
- 心筋症病態制御講座(ジェンザイム・ジャパン)
- システム血栓制御学講座(メディボリス連携医学)
- 近未来運動器医療創生学講座〔(医)くすのき会〕

## 司法政策研究科

司法政策研究科(法科大学院)は、平成16年4月設置の3年制専門職大学院である。司法過疎と呼ばれる南九州に位置する法科大学院として、これからの司法の在り方を構想、実現していく活動的な法曹を養成することを目的としている。修了者には法務博士の学位と新司法試験の受験資格が授与される。専任教員16名(研究者教員12名、実務家教員4名)による徹底した少人数教育を行い、法律実務家をめざす明確な問題意識や関心を育てつつ、21世紀の我が国社会を支える法曹としての能力を鍛えている。



### 課程・専攻

#### 専門職学位課程(法務博士)

- 法曹実務

## 臨床心理学研究科

臨床心理学研究科は、臨床心理士という高度職業専門人養成を目的とする日本で初めての独立研究科として、平成19年4月に設置認可された専門職大学院である。本研究科の教育理念は、(1)個別支援、集団支援、地域支援、危機介入支援のできる人材、(2)地域文化を視野に入れた心理臨床ができる人材を育成することにある。この理念達成のために、実習を充実・強化した教育課程を設定し、個別・少人数による指導を行っている。第1期～Ⅲ期生までの就職率は100%で、医療・福祉・司法・矯正領域に就職した。司法・矯正では、これまで難関の国家公務員である法務省A種認定鑑別技官に3名(20年度)・1名(21年度)の合格者を出したのは特筆である。また、直近の臨床心理士資格認定試験合格率も100%(14名/14名)であった。さらに、本研究科は、平成22年度より24年度まで文部科学省から「地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな『実践型教育プログラム』の開発」(通称:地域支援プロジェクト)が承認され、現地に出向くデリバリー方式による実践型教育プログラムの開発を行っている。



▲現地専門家に対する地域支援プロジェクト説明会の様子

### 課程・専攻

専門職学位課程(臨床心理修士)

臨床心理学

## 連合農学研究科

連合農学研究科は佐賀大学、琉球大学、鹿児島大学が連合し、それぞれの地域特性を生かした農学・水産学が学べる博士課程の大学院である。最先端のバイオテクノロジー技術を駆使して人々に安全・安心な食糧生産と環境保全の達成を目指す、農林水産学分野の高度な専門教育と研究を行っている。水資源の総合利用といった視点から林学・農業工学・水産学を融合した農水圏資源環境科学専攻や、民間企業(タカラバイオ(株))との連携大学院を持つ先端応用生命科学連合講座などが特徴である。修了者には農学・水産学・学術のいずれかの博士号が付与される。学位付与者は留学生比率が高く国際的に幅広い分野で、研究者、教育者、高度技術者として活躍している。

(注)連合農学研究科は、3大学(佐賀、琉球、鹿児島)で構成



### 課程・専攻・連合講座

#### 博士課程

##### 生物生産科学専攻

熱帯資源・植物生産科学  
動物資源生産科学  
地域・国際資源経済学

##### 応用生命科学専攻

生物機能化学  
食品機能科学  
先端応用生命科学

##### 農水圏資源環境科学専攻

生物環境保全科学  
地域資源環境工学  
水産資源環境科学

## 山口大学連合獣医学研究科

山口大学連合獣医学研究科は、鹿児島大学、鳥取大学、山口大学が連合して設置している修業年限4年の博士課程で、基幹校は山口大学である。

本研究科は、1専攻(獣医学専攻)で、基礎獣医学、病態・予防獣医学および臨床獣医学の3連合講座から成り、学生の入学定員は12人であり、創造性豊かな研究者や高度の専門的知識と能力を有する人材を養成する。学生1人につき、主指導教員1人、副指導教員2人が指導に当たる一方、他大学の教員ならびに学生相互の討論を通して、自己を高めると同時に相互の親睦と連帯感の形成に役立っている。毎年、海外からの留学生も多く受入れている。



### 課程・専攻・連合講座

#### 博士課程

##### 獣医学専攻

基礎獣医学 病態・予防獣医学 臨床獣医学

(注)山口大学連合獣医学研究科は3大学(鹿児島、鳥取、山口)で構成



## 教育学部附属学校

### 附属幼稚園

明治12(1879)年4月創立の附属幼稚園は、全国で2番目に古い歴史をもつ幼稚園である。今年度は、3歳児20人、4歳児35人、5歳児33人、計3学級88人が在籍している。研究主題に「かかわる力を育む～言葉の育ちに着目して～」を掲げて、本県の幼稚園教育の向上の役割を果たしている。そして、学部と連携し研究を深めるとともに、親と子が共に育つ場としての幼稚園をめざしている。



### 附属小学校

附属小学校は、児童数971名(学級数27)で国立大学法人の附属小学校の中でも全国一の規模を誇る学校である。小学校教育に関する理論的・実践的な研究の推進、教育実習生の指導の充実、研究や実践の公開による本県の小学校教育向上への貢献という3つの使命を持ち、複式教育や外国語活動における先進的な研究、実践でも高い評価を得ている。平成21年度から二学期制を導入している。



### 附属中学校

附属中学校は、創立60周年を迎え、596名の生徒が在籍している。平成21年度には、校舎改修工事が完了し施設・設備も一新された。校舎に沿うように並ぶ七本の銀杏の木は、校訓である「真理・理想・自律・誠実・友愛・剛健・雄飛」のシンボルツリーでもある。本校は、「学部と一体となり中学校教育に関する理論的・実践的研究を行う。」「学部の計画に従い、学生の教育実習の場として、その指導に当たる。」「研究会並びに共同研究、教育交流を行い、現職教育の振興に寄与する。」という三つの使命を果たすべく日々前進する学校である。



### 附属特別支援学校

附属特別支援学校は、知的障害を主な障害とする小学部・中学部・高等部の児童生徒60名が在籍している。特別支援教育の理念の下、「明るく、仲よく、がんばる児童生徒」の育成のため、大学をはじめとする関係機関との連携を図りながら、「一人一人の子どもの教育に責任をもち、向上し続ける学校」、「教育の未来を担う力量ある教員を育てる学校」、「地域の人々や教育関係者・保護者・子どものニーズにこたえる学校」を目指している。



## 医学部・歯学部附属病院

医学部・歯学部附属病院は、平成15年10月に医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、診療科を疾患機能別に17のセンターとし診療体制を再編成した。また、病院再開発計画として、平成19年度から約10年間の予定で建物の増築・改修を行い、病院機能や建物を統合・集中化し、病院運営の合理化・省力化、患者サービスの向上、先進医療の積極的導入、地域医療の充実を目指している。平成18年には「都道府県がん診療連携拠点病院」に認定され、鹿児島県におけるがん医療に中心的な役割を果たしている。さらに、平成20年には、医療提供の質が多面的に評価され、九州の国立大学病院として初めて病院機能評価Ver.5の認定を取得した。

教育面では、卒後臨床研修センターが中心となり、協力病院と共同で「卒後臨床研修プログラム」を実施し、優れた医師・歯科医師の人材育成に努めている。

診療センター	部門科	中央診療施設等
循環器センター	心臓血管内科 心臓血管外科	■検査部 ■手術部 ■放射線部 ■救急部 ■集中治療部 ■輸血部 ■周産母子部 ■全身管理歯科治療部 ■血液浄化療法部 ■病理部 ■光学医療診療部 ■歯科技工室 ■リハビリテーション部 ■中央採液室 ■臨床心理室 ■歯科総合診療部 ■遺伝カウンセリング室 ■外来化学療法室 ■腫瘍センター ■肝疾患相談センター
消化器センター	消化器内科 消化器外科	■医療器材管理部 ■医療情報部 ■病歴管理部 ■治験管理部 ■卒後臨床研修センター ■医療環境安全部 ■地域医療連携センター ■医療相談室 ■地域医療支援センター
脳・神経センター	神経内科 脳神経外科	■薬剤部
呼吸器・ストレスケアセンター	呼吸器内科 呼吸器外科 心身医療科	■看護部
腎臓・泌尿器センター	腎臓内科 泌尿器科	■臨床技術部
血液・内分泌・糖尿病センター	血液・膠原病内科 糖尿病・内分泌内科 乳腺・内分泌外科	■事務部
メンタルケアセンター	神経科精神科	
小児診療センター	小児科 小児外科	
女性診療センター	産科、婦人科	
整形・運動機能センター	整形外科・リウマチ外科	
感覚器センター	皮膚科 眼科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
放射線診療センター	放射線科 顎顔面放射線科	
麻酔全身管理センター	麻酔科 歯科麻酔科	
リハビリテーションセンター	リハビリテーション科	
発達系歯科センター	口腔保健科 矯正歯科 小児歯科	
成人系歯科センター	保存科 歯周病科 冠・ブリッジ科 義歯補綴科	
口腔顎顔面センター	口腔外科 口腔顎顔面外科	

医学部・歯学部附属病院患者数

(平成22年度)

医科部門				歯科部門			
部門科名	患者数		病床数	部門科名	患者数		病床数
	入院	外来			入院	外来	
心臓血管内科	9,530	16,414	※内科	口腔保健科	—	5,312	32
心臓血管外科	8,459	1,926	※外科	矯正歯科	—	6,675	
消化器内科	12,279	10,279	※内科	小児歯科	3	7,486	
消化器外科	19,610	5,269	※外科	保存科	—	11,278	
神経内科	7,313	8,996	※内科	歯周病科	—	14,729	
脳神経外科	11,702	6,587	28	冠・ブリッジ科	—	12,598	
呼吸器内科	7,570	5,056	※内科	義歯補綴科	—	14,219	
呼吸器外科	6,611	2,443	※外科	口腔外科	5,420	9,120	
心身医療科	1,084	4,284	5	口腔顎顔面外科	5,394	10,758	
腎臓内科	1,689	2,171	※内科	顎顔面放射線科	—	4,534	
泌尿器科	7,740	8,653	29	歯科麻酔科	—	1,026	
血液・膠原病内科	6,627	10,195	※内科	全身管理歯科治療部	—	651	
糖尿病・内分泌内科	1,509	9,708	※内科	歯科総合診療部	—	2,962	
乳腺・内分泌外科	2,183	3,556	※外科	<b>計</b>	<b>10,817</b>	<b>101,348</b>	
神経科精神科	9,872	13,805	45			<b>32</b>	
小児科	12,946	8,569	45				
小児外科	4,164	2,891	8				
産科	7,894	2,602	52				
婦人科	8,037	12,068					
整形外科・リウマチ外科	15,868	10,785	50				
皮膚科	9,123	14,613	25				
眼科	11,801	23,878	39				
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	10,504	10,047	32				
放射線科	6,388	6,739	23				
麻酔科	292	4,188	4				
リハビリテーション科	14,948	8,137	50				
放射線治療室	—	—	2				
集中治療室	—	—	15				
共通(感染4,特別室6,共通12)	—	—	22				
※内科	—	—	144				
※外科	—	—	107				
休床(病院再開発のため)			13				
<b>計</b>	<b>215,743</b>	<b>213,859</b>	<b>738</b>				

学部・大学院等



▲医科診療棟



▲歯科診療棟



▲霧島リハビリテーションセンター



## 附属図書館

附属図書館は、中央図書館(郡元地区)、桜ヶ丘分館(桜ヶ丘地区)および水産学部分館(下荒田地区)の3館で組織されており、教育・研究に必要な学術資料を広い分野にわたり収集し、利用に供している。3館とも、本学の学生・教職員はもとより、地域住民に対しても開放されている。

近年は、ラーニングcommonsとしての機能強化を図るとともに、文献情報データベース、電子ジャーナル等の電子情報資料の整備充実に努めるほか、本学で作成された電子的学術研究成果を無償で国内外に発信する鹿児島大学リポジトリを運用している。

なお、島津久光および玉里島津家の旧蔵書である「玉里文庫」等の貴重書や古書籍等のコレクションも所蔵し、毎年その一部を公開している。

### 【中央図書館】

#### 開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

#### 休館日

- 国民の祝日
- 年末年始等(12月27日～1月3日)

#### 施設

鉄筋地上5階地下2階建 (平成8年12月竣工)	
延床面積	12,697m <sup>2</sup>
閲覧スペース	4,459m <sup>2</sup>
サービススペース	2,044m <sup>2</sup>
収蔵スペース	2,359m <sup>2</sup>
歴史資料展示室	140m <sup>2</sup>
事務室等	775m <sup>2</sup>
その他	2,920m <sup>2</sup>
総座席数	910席
収容可能冊数	972,000冊



### 【桜ヶ丘分館】

#### 開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:00	10:00～18:00

(偶数月の第1土曜日は14:00～18:00)

#### 休館日

- 国民の祝日
- 年末年始等(12月27日～1月3日)

#### 施設

鉄筋3階建 (昭和52年4月竣工、昭和56年5月増築)	
延床面積	1,980m <sup>2</sup>
閲覧スペース	1,229m <sup>2</sup>
サービススペース	208m <sup>2</sup>
収蔵スペース	189m <sup>2</sup>
事務室等	211m <sup>2</sup>
その他	143m <sup>2</sup>
総座席数	158席
収容可能冊数	192,000冊



### 【水産学部分館】

#### 開館時間

月～金曜日	土曜日
8:30～20:00	10:00～17:00

#### 休館日

- 日曜日、国民の祝日
- 年末年始等(12月27日～1月3日)

#### 施設

鉄筋2階建 (昭和45年2月竣工)	
延床面積	849m <sup>2</sup>
閲覧スペース	307m <sup>2</sup>
サービススペース	47m <sup>2</sup>
収蔵スペース	248m <sup>2</sup>
事務室等	113m <sup>2</sup>
その他	134m <sup>2</sup>
総座席数	78席
収容可能冊数	41,000冊





【平成22年度利用状況】

区 分	開館日数	総 入 館 者 数				
		平 日			土・日 及び祝日	合 計
		17:15まで	17:15以降	計		
中央図書館	324	288,731	100,704	389,435	61,872	451,307
桜ヶ丘分館	342	72,785	32,986	105,771	14,805	120,576
水産学部分館	293	20,711	3,614	24,325	1,770	26,095
合 計		382,227	137,304	519,531	78,447	597,978

【蔵 書】

図書(冊)

(平成23年4月1日現在)

区 分	総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	技 術	産 業	芸 術	言 語	文 学	合 計	
和漢書	中央図書館	65,896	42,685	76,764	202,280	106,127	70,221	51,731	29,259	26,512	69,181	740,656
	桜ヶ丘分館	988	1,842	697	5,281	94,108	1,168	364	625	1,704	1,368	108,145
	水産学部分館	1,739	417	1,373	9,703	12,492	6,573	13,270	790	1,101	595	48,053
	小 計	68,623	44,944	78,834	217,264	212,727	77,962	65,365	30,674	29,317	71,144	896,854
洋書	中央図書館	15,095	18,598	16,771	52,457	83,623	19,197	19,612	4,715	13,049	32,459	275,576
	桜ヶ丘分館	755	361	114	673	77,821	94	74	83	419	426	80,820
	水産学部分館	455	101	237	705	5,924	2,216	4,106	230	276	65	14,315
	小 計	16,305	19,060	17,122	53,835	167,368	21,507	23,792	5,028	13,744	32,950	370,711
合 計	84,928	64,004	95,956	271,099	380,095	99,469	89,157	35,702	43,061	104,094	1,267,565	

学部・大学院等

雑誌(種類数)

区 分	和雑誌	洋雑誌	合 計
中央図書館	17,904	8,177	26,081
桜ヶ丘分館	3,485	2,267	5,752
水産学部分館	2,466	1,166	3,632
合 計	23,855	11,610	35,465



▲玉里文庫所蔵資料

【貴重書・古書籍等コレクション】

文庫名	内 容 等					
玉里文庫	島津久光及び玉里島津家の旧蔵書 久光の直筆本、島津家編輯本、和漢書の写本類、薩摩藩関係史誌、幕末洋学関係翻訳書の写本等 18,730冊					
岩元文庫	旧制第一高等学校教授であった岩元禎氏の旧蔵書 漢籍と文学・哲学関係の洋書 漢籍4,515冊、洋書826冊					
松本文庫	旧制第八高等学校漢文学教授であった松本亦一氏の旧蔵書 漢籍と和書、医書を多く含む 2,186冊					
小北文庫	旧制鹿児島高等農林学校長小出満二氏が渡豪中に実業家北村寅之助氏の助力を得て収集し、後に同校図書館に寄贈したオーストラリア、太平洋諸島関係洋書 686冊					
小野文庫	元法政大学教授小野武夫博士の旧蔵書 農業経済、農業史、地方史を中心とするコレクション 4,127冊					
鹿児島県地券台帳	明治15年鹿児島県における地券発行原簿のコレクション 出水、川辺、揖宿、肝属、大隅、熊本、馱謨、臼杵の各郡が比較的まとまっている。附属資料として共有地台帳、地価修正一筆限帳等が含まれる 2,944冊					
諸家文書	市来家文書	105点	川田家文書	116点	木脇家文書	18点
	山田家文書	30点	寺尾家文書	387点	伊集院家文書	17点
	有馬家文書	61点	志々目家文書	37点	長野家文書	141点
	斑目家文書	17点	伊勢家文書	695点	新納家文書	122点
	肝付家文書	65冊	八田家文書	2巻(13点)		

## 保健管理センター

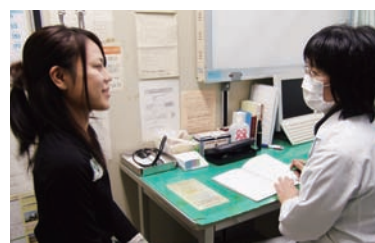
保健管理センターは、学生および教職員の心身の健康の保持ならびにその増進を図ることを目的とし、保健管理に関する実施計画の立案等を行っている。

センターでは、専任の医師3名、保健師3名のほか、学医として学内の各科の専門医（内科、精神神経科、整形外科、眼科、耳鼻科、婦人科、歯科）による健康相談業務を行い、さらにカウンセラーとして法文学部と教育学部の心理学の教員および非常勤の臨床心理士が心理相談やカウンセリングにあたっている。

また、禁煙サポートプログラムの開発、定期健康診断の予約システムの確立や診断結果のデータのデジタル化およびその結果解析など、調査研究も活発に行っている。

### 【業務内容】

- 定期健康診断ならびに臨時健康診断と事後指導
- 心理相談ならびに学生相談
- 一般診療、急性疾患に対する短期的投薬、他医療施設への紹介・受診指導
- 健康診断証明書発行
- 健康教育活動（学生・教職員への健康啓発講演会開催など）
- 保健管理に関する調査研究
- 環境衛生および伝染病予防に関する指導
- 保健管理センター年報の発行
- 禁煙サポート
- 救急蘇生講習会



## 国際島嶼教育研究センター

国際島嶼教育研究センターは鹿児島県からアジア・太平洋までを含む島嶼域を対象とした教育・研究を推進している。鹿児島大学憲章に基づいて、教育・研究戦略のコアとしての役割を果たす施設である。特に島嶼域の諸問題について本大学の資源を集中し、先進的な教育・研究を目指すとともに、各研究成果を地域に還元し、研究科横断的な教育システムにも役割を果たしている。



▲ミクロネシア連邦ポンペイ州ピンゲラップ環礁で調査地に向かう様子

## 留学生センター

留学生センターは、外国人留学生および海外留学を希望する本学の学生に、必要な教育および指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的として、平成12年4月に設置された。この目的のために、外国人留学生に対する日本語日本文化教育、学習カウンセリング、地域社会との交流推進や、海外留学を希望する学生への情報提供などを行っている。



## 総合研究博物館

総合研究博物館は、鹿児島大学の前身である明治以降の複数の学校を含めて、教育・研究に使われた貴重な学術資料を一元的に整理・管理・展示・公開し、これからの研究や教育に資すること、さらに広く一般社会へ鹿児島大学の文化遺産・知的財産に関する情報を発信することを目的として、平成13年4月に旧国立大学では7番目に設置された。毎年、秋には様々なテーマで特別展を開催しているほか、年に数回、市民講座・研究交流会・公開講座・自然体験ツアーなどを行っている。また「ニューズレター」・「モノグラフ」・「研究報告」の発行など学内外に向けた出版広報活動を行っている。学術標本・資料は、これまでに学内にとどまらず外国も含めて多数の使用申請があり、その一部は学術論文として報告されているほか、学生の卒業論文などにも活用されている。



▲公開講座

## 学術情報基盤センター

学術情報基盤センターは、鹿児島大学の情報基盤を担う中核的組織として、教育研究用計算機システムおよびキャンパス情報ネットワークの運用管理、大学全体の情報セキュリティ対策支援、情報システムの企画・開発・ホスティング・運用、IT相談等、教育研究全般の情報化支援に積極的に取り組んでいる。

センターには、情報メディア基盤部門、学術情報処理研究部門、情報システム開発部門の3部門がおかれ、それぞれの部門に属する専任教員が情報通信技術に関する研究開発、情報通信技術を生かした地域との連携、マルチメディア教材の研究開発、情報教育支援体制の整備による学内部局との連携、学術情報データの蓄積と発信に関する研究開発を推進すると共に、学内の教育研究の高度情報化に指導的な役割を果たしている。



## 生涯学習教育研究センター

生涯学習教育研究センターでは、大学が蓄積する知的財産を活用した公開講座、セミナー、シンポジウム等を企画・提供している。また、指導者の養成、地域の生涯学習への支援、公開授業による大学開放を推進している。

これと並行して、各地域の特性に基づく生涯学習の課題とその解決方法を探るため、生涯学習に関する研究活動を行っている。



▲公開講座「親子で冒険 かのしまの海と山」



## 教育センター（共通教育）

教育センターは、平成15年10月に設置され、その任務は「鹿児島大学の教育の充実・発展」と「共通教育の実施」である。

共通教育は、旧制第七高等学校時代以来、連綿と引き継がれてきた学士課程教育で、幅広い知識・教養・技能等を有するとともに、進取の精神、自主自律の精神に富み、深い歴史感覚、鋭い現実感覚、高い公共意識に裏付けられた判断力と構想力を有する個性豊かな人材の育成を目指しており、どの学部 of 学生にも必要な大学教育の大きな柱の一つとなっている。

教育センターは、全学共通教育（基礎教育を含む）と外国語教育の企画・運営、ならびに学士課程教育の充実・推進と全学的ファカルティ・ディベロップメント(FD)の企画・促進を目的としている。

### 教育センターの組織構成

#### 【共通教育企画実施部】

共通教育科目（教養科目、情報科学科目、外国語科目、体育・健康科目、日本語・日本事情科目）と、基礎教育科目の研究開発・実施

#### 【高等教育研究開発部】

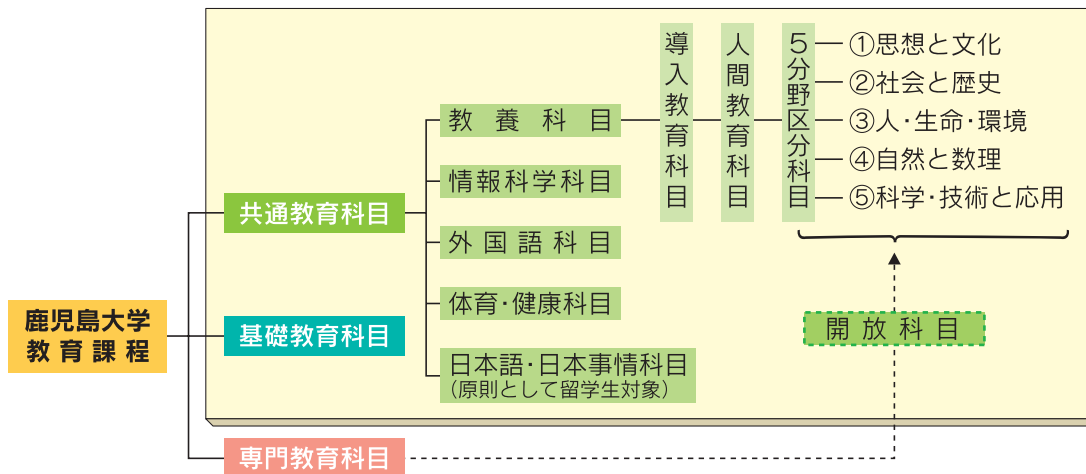
高等教育の教育方法・教育支援・FDの研究開発、授業改善・教育評価・自己点検などの研究開発

#### 【外国語教育推進部】

全学の外国語教育の研究・改善・提言およびカリキュラム開発

### 鹿児島大学教育課程

（大きな枠内が教育センターの教育）



▲共通教育科目「英語コアU」授業風景



▲学生・教職員ワークショップ～鹿大のピア・サポートを考える～



## 稲盛アカデミー

工学部の卒業生である稲盛和夫氏(京セラ株式会社名誉会長)および京セラ株式会社からの寄附により、平成17年に、全学共同教育研究施設『稲盛経営技術アカデミー』として設置し、平成20年4月に、『稲盛アカデミー』へ改組した。

稲盛アカデミーは、「世のため、人のために尽くす高い倫理観を持った『21世紀型市民』の輩出を目標に掲げ、地域社会から望まれるリーダーを育成する」を基本理念とした授業科目等を開発し、全学共通教育に提供する一方、様々な体験の場を提供し、その中で学生が自らの理念やビジョンを模索し、真のリーダーのあるべき姿を探求しつつ、実行力と責任感を体得させることで、人間力の総合的育成をめざしている。



学部・大学院等

### 開講科目

基本理念として、「稲盛アカデミー」における開講科目は、全て、稲盛和夫氏の「豊かな人間力をもった次世代を担う若者」を育てたいという思いを、全学的な共通教育の教育・学習目標に整合させて、開講される。

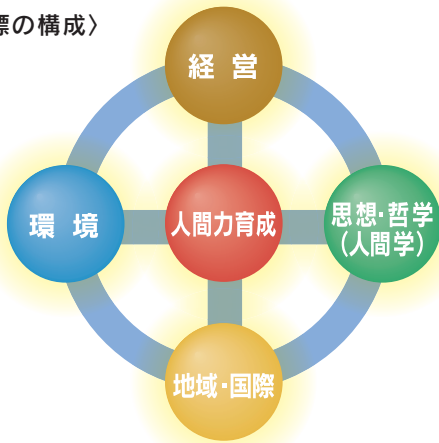
実務経験による「人間力」育成と、「地域」や「国際社会」への貢献をキーワードとする本アカデミーの特色を活かした科目構成となっている。

### 教育目標

【進取の精神を有する人材の育成】

【地域社会の活性化に貢献する人材の育成】

〈教育目標の構成〉



〈開講科目〉

- 稲盛セミナー-I/II ●経営哲学I/II ●地域経営入門
- 先人に学ぶリーダーシップI/II ●日本の経営思想I/II
- 陽明学入門 ●公共哲学論 ●現代の日本政治
- 近現代日本の公共政策 ●環境教育・ESD入門I/II/III/IV
- ESDとサブカルチャー ●エネルギー環境教育論A/B
- 持続可能な開発と東洋の環境思想 ●生き方と道徳
- 20歳からのハローワークI ●人間力経営 ●地域づくりと人間力
- 国際平和と有徳 ●循環と共生の科学技術社会 (全27科目)

## 埋蔵文化財調査室

埋蔵文化財調査室では、学内の施設整備に伴うキャンパス内遺跡の発掘調査を行い、そこから得られた埋蔵文化財の整理、研究、報告書作成を行っており、調査時には、一般市民向けの体験発掘や、遺跡見学会を開催している。



▲発掘調査の様子

## フロンティアサイエンス研究推進センター

フロンティアサイエンス研究推進センターは、学内の教育研究活動を支える教育研究支援部門と、鹿児島大学における重点的研究課題を推進する生命科学研究推進部門とから構成されている。

### 教育研究支援部門

機器分析施設は、大型・高性能機器の計画的導入および集中管理による各種計測・分析機器の有効かつ円滑な共同利用を図っている。遺伝子実験施設は、遺伝子に関連する教育研究を行うための実験室、設備および解析機器類を整備している。動物実験施設は、実験動物および動物実験に関する教育研究、実験動物の品質管理および安全管理を行い、動物実験の適正化を図っている。アイソトープ実験施設は、放射性同位元素および放射線を利用する教育研究を推進するとともに、本学の放射線施設の安全管理を担っている。

### 生命科学研究推進部門

生命科学研究推進部門では、生命科学の先端研究課題を遂行するために、三つの研究分野が設置されている。先端医療開発分野では癌幹細胞プロジェクト、ミニブタを用いた内視鏡手術の教育と開発、異種移植外科研究分野ではミニブタなどを使った異種移植プロジェクト、遺伝子発現制御学研究分野では遺伝子改変細胞の作製、などに取り組み、新しい治療法を開発するトランスレーショナルリサーチを推進している。



▲超高分解能分析走査型電子顕微鏡SU-70

## 産学官連携推進機構

産学官連携推進機構は、鹿児島大学が地域とともに社会に貢献するために、産業界や地方公共団体など鹿児島大学の教員の連携活動を計画・推進・支援することを目的としている。

### 産学官連携部門

地域社会、地方公共団体や民間企業等外部機関との共同研究、技術開発、技術教育などに関する要請に対して、地域の拠点である鹿児島大学のさまざまな「知」を広く社会に提供するための基盤とネットワークの整備、企画、コーディネートを行っている。

### 知的財産部門

教育研究活動の中で生まれた発明等の知的財産を一元的に取り扱うとともに戦略的な推進を図っている。このため、各学部・研究科と連携して知的財産の創出、権利化および活用を積極的に行い、更に、研究者および学生に対する教育啓発活動を展開し、知的財産を通じた産学官連携活動により本学の社会貢献に寄与することを目指している。

### ベンチャービジネス部門

ベンチャー企業や産学官連携事業のためのインキュベーション機能を有する教育研究施設。インキュベーションプロジェクトとしては、ナノテクノロジー・バイオテクノロジー関連および社会科学関連の研究テーマも受け入れている。

ベンチャー創業時に必要な実践ビジネス教育プログラムとして、「知的財産戦略構築実務論」や「技術経営と社会連携」を大学院科目として開講している。

### 管理部門

機構の学内外総合窓口、機構の会議および各種事務業務等を担う管理部門を置き、研究国際部研究協力課が担当している。



▲産学官連携推進機構



▲研究シリーズ集(2010)冊子・CD

## 国際戦略本部

国際戦略本部(KUCIP: Kagoshima University Center for International Planning)は、鹿児島大学の教育研究の国際交流及び研究成果を基盤とした国際社会への貢献を戦略的に推進することにより、教育研究の国際的通用性の向上を図ることを目的とした中枢的組織として、平成17年9月に設置された。

国際戦略本部は、副学長(国際戦略担当)を本部長とし、専任教員2名及び留学生センター長、北米教育研究センター長、研究国際部長及び国際事業課長がプログラムオフィサー(PO)として構成されており、組織的国際展開への求心力を高めるための国際戦略の策定とそれに必要なプログラム事業遂行のため、次の機能を有している。

- ①教育研究に関する国際戦略の策定・展開
- ②教育研究の国際活動の企画・推進
- ③国際協力事業の企画・推進及び外部資金の確保に対する支援
- ④国際機関、海外大学等との連携の強化
- ⑤教職員の国際業務のスキルアップ
- ⑥その他国際企画

平成22年度は、専任教員(教授)による授業が共通教育科目として開講され、さらに海外の協定校との連携プログラムや国際シンポジウムを企画実施する等、教育研究の国際化を図っている。



▲ 口蹄疫に関する東北アジア協力シンポジウム  
(平成23年3月)

## 男女共同参画推進室 “muse 篤姫”

男女共同参画推進室(愛称: “muse篤姫”)は、鹿児島大学の男女共同参画の推進を図るため、平成21年9月に設置された。

鹿児島大学は、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現に向け、平成23年3月に、男女共同参画推進に係る長期・短期行動計画を策定し、男女共同参画に関する広報・意識啓発とともに、教職員のワーク・ライフ・バランスに配慮した教育・研究環境及び就業環境の整備・充実や、学生のキャリア形成支援教育及び中高生向け進路選択支援事業などに積極的に取り組んでいる。



▲男女共同参画“muse篤姫”シンポジウム(平成22年11月)

### 鹿児島大学男女共同参画基本理念(平成22年1月制定)

鹿児島大学は、大学憲章の精神に則り、教育・研究機関として男女共同参画のもとに社会貢献を続けることができる人材を育成・支援し、個々を尊重するとともに、一人ひとりがあらゆる場面において個性と能力を發揮できる大学を実現します。

「一人ひとりが伸びやかに、自分らしく輝くために」



男女共同参画推進室ロゴマーク

※muse(むぜ)

ギリシャ神話の女神「ムーサ」の英語名であるとともに、鹿児島弁の「むぜ(かわいい)」を掛けた表現。



## ボランティア支援センター

ボランティア支援センターは、鹿児島大学生のボランティア活動の推進およびその支援を図ることを目的として、平成20年7月に設置された。

同センターは、学生が様々なボランティアに参加し、地域との関わりを持つことで人間力を高め、学生による地域貢献や地域の活性化を図るため、ボランティア教育への支援や災害等発生時の復旧支援活動、ボランティアに関する情報の収集・提供、ボランティア関係機関・団体との連絡調整などの業務を行う。

また、同センターは、従来のボランティア活動に加え、次のようなボランティアプロジェクトを計画し、支援する。

- ① 教育補助等ボランティア
- ② 災害ボランティア
- ③ 観光ボランティア
- ④ 限界集落支援ボランティア
- ⑤ 希少生物保護ボランティア
- ⑥ キャンパスクリーンボランティアなど



▲ ボランティア支援センターのオフィス

## 東京リエゾンオフィス

東京リエゾンオフィスは、首都圏における活動、情報の収集および発信等を活発に行うため、平成16年12月に東京都港区芝浦のキャンパス・イノベーションセンター（CIC）内に設置された。

主に、鹿児島大学の各種情報（大学概要・広報誌等）の提供、入試情報（各学部・研究科案内および募集要項等）の提供、首都圏における学生の就職支援および企業との技術相談・共同研究等に関する連絡調整、各同窓会との連絡調整を行っている。

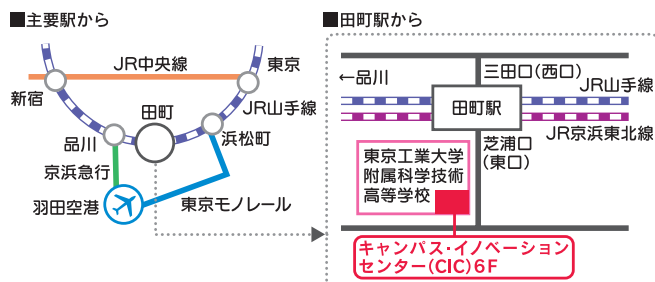
### ■ 交通アクセス

#### 1.所在地

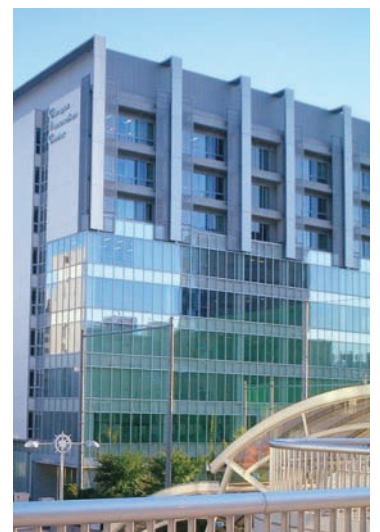
〒108 - 0023 東京都港区芝浦三丁目3番6号  
キャンパス・イノベーションセンター（CIC）607号室

#### 2.アクセス

JR田町駅 芝浦口（東口）から徒歩1分



▲ オフィスの様子



▲ キャンパス・イノベーションセンター（CIC）



## 教育関係共同利用拠点：水産学部附属練習船かごしま丸

水産学部附属練習船かごしま丸は、平成22年3月、全国の水産・海洋系大学・学部が保有する附属練習船の中で唯一隻、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点としての認定を受けた。この認定制度は、練習船ばかりでなく、留学生センターや農場などさまざまな教育関係施設の中から、我が国の高等教育の重点分野ごとに、施設を保有する大学以外の大学の学生・大学院生にも質の高い教育を提供する拠点を形成していくために、新たに設けられたものである。かごしま丸は、「熱帯・亜熱帯水域における洋上教育のための共同利用拠点」として認定された。これは、我が国南方の熱帯・亜熱帯水域が、水産資源や地球環境に大きな影響を及ぼすことと、この水域で長年活動してきたかごしま丸及び本学の実績が認められたものである。今後は、本学学生ばかりでなく他大学の学生も、本船を利用して充実した乗船実習教育を受け単位を取得できるようになる。

かごしま丸は現在、代船の建造中であり、平成24年4月には、斜め移動やその場回頭等が可能な特殊操船能力を有し荒海中でも実験・観測が可能な、世界的にも最高度の能力を持った新鋭船をこの事業に投入できる予定。今後、我が国ばかりでなく東南アジア・南太平洋水域も含めた、洋上教育の拠点としての活動が期待されている。



■学 部

(平成23年5月1日現在)

学 部	学科・課程	入学定員	3年次編入学員	収容定員	現 員							
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	
法文学部	法政策学科	95	10	380	103 (42)	98 (44)	106 (49)	125 (49)	-	-	432 (184)	
	経済情報学科	145		580	150 (66)	146 (74)	152 (81)	193 (82)	-	-	641 (303)	
	人文学科	155		620	157 (123)	154 (118)	163 (144)	208 (155)	-	-	682 (540)	
	小 計	395		1,600	410 (231)	398 (236)	421 (274)	526 (286)	-	-	1,755 (1,027)	
教育学部	学校教育教員養成課程	225	10	900	235 (121)	235 (131)	240 (128)	284 (120)	-	-	994 (500)	
	特別支援教育教員養成課程	15		60	15 (11)	15 (13)	16 (11)	16 (8)	-	-	62 (43)	
	養護学校教員養成課程※							2 (0)	-	-	2 (0)	
	生涯教育総合課程	35		140	37 (23)	41 (27)	36 (25)	54 (35)	-	-	168 (110)	
	小 計	275		1,100	287 (155)	291 (171)	292 (164)	356 (163)	-	-	1,226 (653)	
理学部	数理情報科学科	40	10	160	42 (10)	42 (4)	53 (9)	40 (8)	-	-	177 (31)	
	物理科学科	45		180	48 (9)	47 (5)	63 (11)	43 (5)	-	-	201 (30)	
	生命化学科	50		200	51 (23)	50 (16)	58 (21)	51 (28)	-	-	210 (88)	
	地球環境科学科	50		200	53 (15)	58 (20)	55 (24)	50 (25)	-	-	216 (84)	
	小 計	185		740	194 (57)	197 (45)	229 (65)	184 (66)	-	-	804 (233)	
医学部	医 学 科	107	10	692	113 (50)	105 (30)	115 (28)	106 (39)	100 (36)	102 (37)	641 (220)	
	保健学科	120	20	520	121 (93)	130 (107)	126 (98)	135 (98)	-	-	512 (396)	
	小 計	227	30	1,212	234 (143)	235 (137)	241 (126)	241 (137)	100 (36)	102 (37)	1,153 (616)	
歯学部	歯 学 科	53		318	58 (22)	52 (21)	57 (27)	53 (17)	56 (25)	50 (20)	326 (132)	
工学部	機械工学科	94	20	376	118 (1)	114 (1)	99 (3)	100 (3)	-	-	431 (8)	
	電気電子工学科	78		312	100 (5)	94 (2)	83 (4)	91 (7)	-	-	368 (18)	
	建築学科	55		220	67 (23)	70 (21)	47 (12)	64 (22)	-	-	248 (78)	
	応用化学工学科※						2 (0)	64 (15)	-	-	66 (15)	
	海洋土木工学科	48		192	55 (5)	51 (3)	50 (7)	57 (8)	-	-	213 (23)	
	情報工学科※						6 (0)	21 (2)	66 (8)	-	-	93 (10)
	生体工学科※						1 (1)	8 (3)	72 (24)	-	-	81 (28)
	環境化学プロセス工学科	35		140	41 (7)	39 (8)	32 (5)	-	-	-	112 (20)	
	情報生体システム工学科	80		320	97 (18)	89 (10)	62 (19)	-	-	-	248 (47)	
	化学生命工学科	50		200	54 (15)	60 (22)	42 (14)	-	-	-	156 (51)	
	小 計	440		1,800	532 (74)	524 (68)	446 (69)	514 (87)	-	-	2,016 (298)	
農学部	生物生産学科	80	10	320	82 (38)	87 (43)	84 (37)	100 (40)	-	-	353 (158)	
	生物資源化学科	60		240	62 (36)	64 (30)	63 (32)	71 (31)	-	-	260 (129)	
	生物環境学科	65		260	69 (18)	64 (23)	67 (21)	82 (22)	-	-	282 (84)	
	獣医学科	30		180	32 (20)	33 (14)	31 (14)	31 (14)	32 (13)	33 (12)	192 (87)	
	小 計	235		1,000	245 (112)	248 (110)	245 (104)	284 (107)	32 (13)	33 (12)	1,087 (458)	
水産学部	水産学科	130	10	520	134 (40)	134 (44)	130 (37)	159 (44)	-	-	557 (165)	
	水産教員養成課程	10		40	10 (3)	10 (3)	9 (3)	11 (1)	-	-	40 (10)	
	小 計	140		560	144 (43)	144 (47)	139 (40)	170 (45)	-	-	597 (175)	
合 計	1,950	60	8,330	2,104 (837)	2,089 (835)	2,070 (869)	2,328 (908)	188 (74)	185 (69)	8,964 (3,592)		

- (注) 1. ( )は女子で内数。  
 2. 現員には外国人留学生を含む。  
 3. 医学部医学科の編入学定員は2年次後期の編入学定員。  
 4. ※印は旧学科(課程)である。

<東京海洋大学水産専攻科>

入学定員	現 員
10	7

- (注) 1. 水産学部の学生は連携により東京海洋大学水産専攻科に進学することができる。  
 2. この専攻科を修了した者は、海技士として船舶運航に従事するために必要な資格を得ることができる。

■大学院

(平成23年5月1日現在)

研究科	入学定員	収容定員	現 員								合 計
			修士課程(博士前期)			博士課程(博士後期)又は専門職学位課程					
			1年	2年	計	1年	2年	3年	4年	計	
人文社会科学研究科	28	56	20 (6)	32 (7)	52 (13)	-	-	-	-	-	52 (13)
	6	18	-	-	-	5 (1)	5 (1)	17 (7)	-	27 (9)	27 (9)
教育学研究科	38	76	40 (15)	41 (15)	81 (30)	-	-	-	-	-	81 (30)
保健学研究科	22	44	20 (13)	26 (16)	46 (29)	-	-	-	-	-	46 (29)
	6	18	-	-	-	6 (3)	3 (1)	14 (10)	-	23 (14)	23 (14)
理工学研究科	286	572	291 (31)	326 (36)	617 (67)	-	-	-	-	-	617 (67)
	24	72	-	-	-	25 (5)	24 (3)	28 (5)	-	77 (13)	77 (13)
農学研究科	69	138	57 (20)	62 (17)	119 (37)	-	-	-	-	-	119 (37)
水産学研究科	32	64	42 (11)	35 (8)	77 (19)	-	-	-	-	-	77 (19)
医歯学総合研究科	20	40	18 (9)	13 (5)	31 (14)	-	-	-	-	-	31 (14)
	50	200	-	-	-	54 (19)	50 (15)	48 (16)	228 (53)	380 (103)	380 (103)
医学研究科※			-	-	-	-	-	-	27 (3)	27 (3)	27 (3)
司法政策研究科	15	45	-	-	-	11 (7)	9 (3)	16 (4)	-	36 (14)	36 (14)
臨床心理学研究科	15	30	-	-	-	15 (13)	16 (15)	-	-	31 (28)	31 (28)
連合農学研究科	23	69	-	-	-	41 (18)	38 (14)	54 (13)	-	133 (45)	133 (45)
計	634	1,442	488 (105)	535 (104)	1,023 (209)	157 (66)	145 (52)	177 (55)	255 (56)	734 (229)	1,757 (438)
山口大学大学院連合獣医学研究科	12		-	-	-	5 (2)	5 (1)	6 (1)	7 (1)	23 (5)	23 (5)

- (注) 1. ( )は女子で内数。  
 2. 現員には外国人留学生を含む。  
 3. 司法政策研究科(法科大学院)、臨床心理学研究科は専門職学位課程である。  
 4. 連合農学研究科は鹿児島・佐賀・琉球の3大学の構成によるものである。  
 5. 山口大学大学院連合獣医学研究科の現員数は、鹿児島大学(指導教員)に属する学生数である。  
 6. ※印は旧研究科である。

学生等

■大学院の社会人選抜入学者数

(平成23年5月1日現在)

研究科	平成23年度	
人文社会科学研究科	博士前期	4
	博士後期	-
教育学研究科		10
保健学研究科	博士前期	11
	博士後期	3
理工学研究科	博士前期	-
	博士後期	6
農学研究科		2
水産学研究科		1
医歯学総合研究科	修士課程	14
	博士課程	12
司法政策研究科		-
臨床心理学研究科		-
連合農学研究科		-
計		63

(注) 現職教員を含む。

学部

(平成23年度)

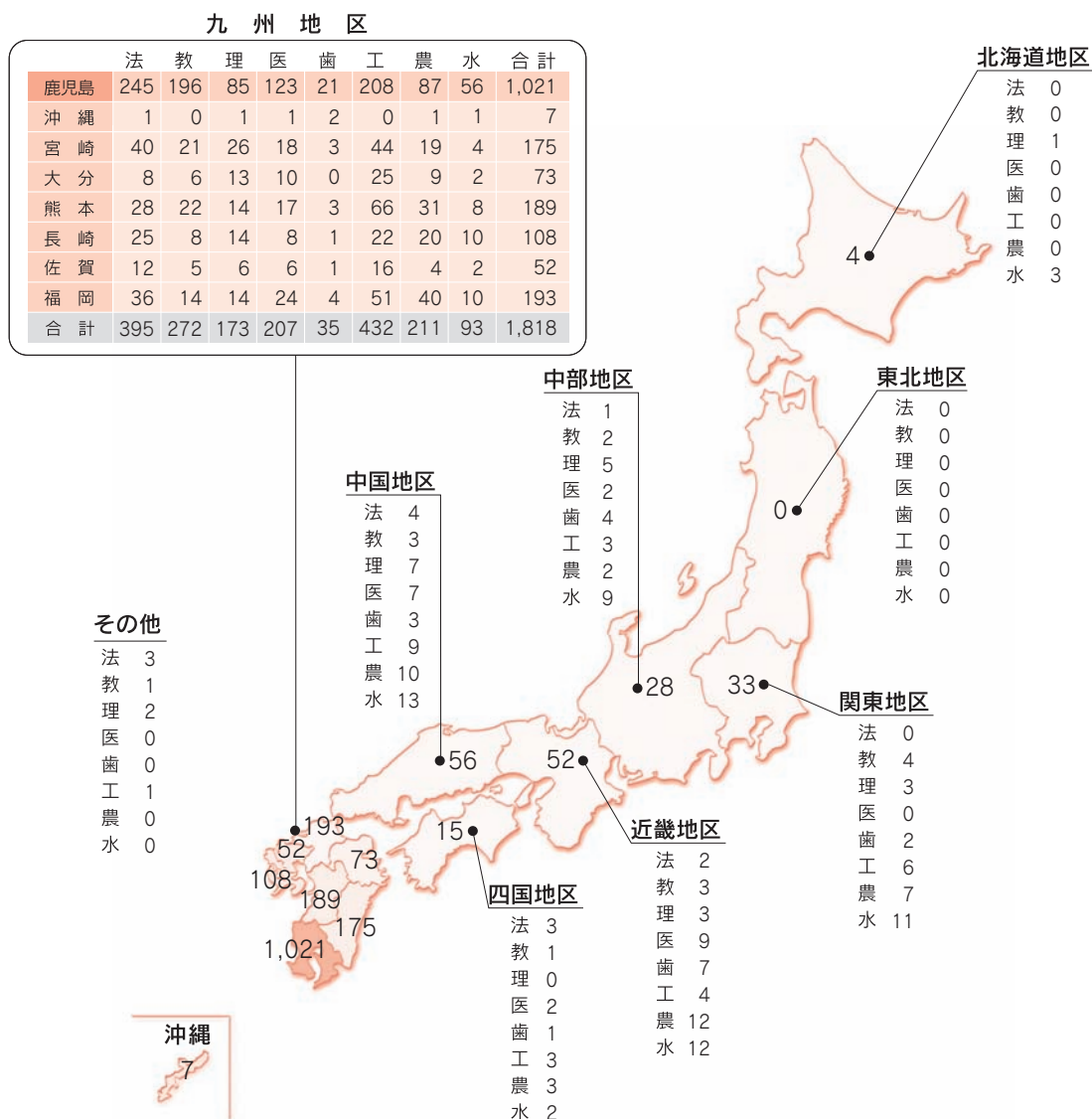
学 部	入学定員	志 願 者 数	入 学 者 数	入学者の出身地別割合(%)	
				県 内	県 外
法 文 学 部	395	1,354 (720)	408 (230)	60.0	40.0
教 育 学 部	275	1,202 (648)	286 (154)	68.5	31.5
理 学 部	185	563 (159)	194 (57)	43.8	56.2
医 学 部	227	1,462 (758)	227 (143)	54.2	45.8
歯 学 部	53	251 (95)	52 (21)	40.4	59.6
工 学 部	440	1,524 (219)	458 (69)	45.4	54.6
農 学 部	235	810 (367)	245 (112)	35.5	64.5
水 産 学 部	140	479 (147)	143 (42)	39.2	60.8
合 計	1,950	7,645 (3,113)	2,013 (828)	50.7	49.3

(注) 1. ( )内は女子を内数で表す。  
2. 私費外国人学部留学生を除く。

○入学者出身地別内訳(出身高校等所在地による)

(注) その他は、高等学校卒業程度認定試験合格(従前の大学入学資格検定合格を含む)の入学者を表す。

学生等





■大学院(志願者・受験者・合格者状況)

【修士課程・博士前期課程】

(平成23年度)

研究科	専攻等	入学定員	志願者数					受験者数					合格者数					入学者数
			一般	社会人	留学生	推薦	計	一般	社会人	留学生	推薦	計	一般	社会人	留学生	推薦	計	
人文社会科学研究科	法学	5	7	4	1	-	12	7	4	1	-	12	4	2	1	-	7	6
	経済社会システム	10	8	2	1	-	11	7	2	1	-	10	6	2	1	-	9	8
	人間環境文化論	5	4	0	2	-	6	4	0	2	-	6	4	0	2	-	6	5
	国際総合文化論	8	1	0	1	-	2	1	0	1	-	2	0	0	1	-	1	1
	計	28	20	6	5	-	31	19	6	5	-	30	14	4	5	-	23	20
教育学研究科	教育実践総合	38	35	11	6	-	52	34	11	6	-	51	28	11	6	-	45	41
保健学研究科	看護学	12	1	8	1	-	10	1	8	1	-	10	1	8	1	-	10	10
	理学療法・作業療法	10	6	3	1	-	10	6	3	1	-	10	6	3	1	-	10	10
	計	22	7	11	2	-	20	7	11	2	-	20	7	11	2	-	20	20
理工学研究科	機械工学	50	83	0	2	-	85	81	0	2	-	83	67	0	1	-	68	65
	電気電子工学	45	69	0	1	-	70	65	0	1	-	66	53	0	0	-	53	52
	建築学	25	32	0	0	-	32	31	0	0	-	31	30	0	0	-	30	27
	化学生命・化学工学	42	63	0	1	-	64	55	0	1	-	56	44	0	1	-	45	40
	海洋土木工学	18	23	0	0	-	23	18	0	0	-	18	14	0	0	-	14	14
	情報生体システム工学	42	75	0	0	-	75	73	0	0	-	73	48	0	0	-	48	44
	数理情報科学	14	9	0	0	-	9	9	0	0	-	9	9	0	0	-	9	8
	物理・宇宙	15	30	0	0	-	30	28	0	0	-	28	15	0	0	-	15	14
	生命化学	18	19	0	0	-	19	19	0	0	-	19	15	0	0	-	15	14
	地球環境科学	17	17	0	0	-	17	14	0	0	-	14	14	0	0	-	14	14
	計	286	420	0	4	-	424	393	0	4	-	397	309	0	2	-	311	292
農学研究科	生物生産学	26	21	1	5	-	27	20	1	5	-	26	20	1	5	-	26	23
	生物資源化学	21	16	1	1	2	20	16	1	1	1	19	13	1	1	1	16	16
	生物環境学	22	20	0	1	2	23	19	0	1	2	22	18	0	1	2	21	18
	計	69	57	2	7	4	70	55	2	7	3	67	51	2	7	3	63	57
水産学研究科	水産学	32	57	1	10	-	68	54	1	10	-	65	48	1	10	-	59	42
医歯学総合研究科	医科学	20	4	14	1	-	19	4	14	1	-	19	4	14	1	-	19	18
	合計	495	600	45	35	4	684	566	45	35	3	649	461	43	33	3	540	490

※教育学研究科の「社会人」は、「現職教員等」を表す。

【博士課程・博士後期課程】

(平成23年度)

研究科	専攻	入学定員	志願者数				受験者数				合格者数				入学者数
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	
人文社会科学研究科	地域政策科学	6	1	1	1	7	1	1	1	7	0	0	1	5	5
			4				4				4				
保健学研究科	保健学	6	3	3	0	6	3	3	0	6	3	3	0	6	6
理工学研究科	物質生産科学	8	6	3	2	11	6	3	2	11	6	3	2	11	11
	システム情報科学	8	1	2	2	5	1	2	2	5	1	2	2	5	5
	生命環境科学	8	6	1	2	9	6	1	2	9	6	1	2	9	7
	計	24	13	6	6	25	13	6	6	25	13	6	6	25	23
医歯学総合研究科	健康科学	19	11	5	0	16	11	5	0	16	11	5	0	16	16
	先進治療科学	31	14	7	2	23	14	7	2	23	14	7	2	23	23
	計	50	25	12	2	39	25	12	2	39	25	12	2	39	39
連合農学研究科	生物生産科学	7	3	2	6	11	3	2	6	11	3	2	6	11	11
	応用生命科学	8	3	1	4	8	3	1	4	8	3	1	4	8	7
	農水圏資源環境科学	8	8	2	6	16	8	2	6	16	8	2	6	16	14
	計	23	14	5	16	35	14	5	16	35	14	5	16	35	32
	合計	109	-	-	-	112	-	-	-	112	-	-	-	110	105

※人文社会科学研究科の下段は、進学者選考の数を表す。

【専門職学位課程】

(平成23年度)

研究科	専攻	入学定員	志願者数				受験者数				合格者数				入学者数
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	
司法政策研究科	法曹実務	15	28	-	-	28	25	-	-	25	12	-	-	12	7
臨床心理学研究科	臨床心理学	15	35	0	0	35	35	0	0	35	17	0	0	17	15
	合計	30	63	0	0	63	60	0	0	60	29	0	0	29	22

■卒業生数・就職状況

(平成23年5月1日現在)

学部	卒業生数 (累計)	平成22年度 卒業生数	就職状況																
			就職希望者数	就職者数	就職率(%)	業種別						地区別							
						農林業 漁業	建設業 電気ガス水道 情報通信運輸 卸売・小売	金融保険 医療福祉 教育学習 サービス	公務員	教員	その他	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	鹿児島 県内	その他
法文学部	14,235	411	318	277	87.1	1	87	103	54	9	23	52	1	8		1	79	136	
教育学部	17,591	273	207	193	93.2		19	35	19	113	7	21		5	1		47	118	1
理学部	6,177	171	87	82	94.3		33	20	10	13	6	15		1	3		31	32	
医学部	5,977	211	126	122	96.8			112	9	1		12	2	5	1	1	43	56	2
歯学部	1,748	52																	
工学部	16,120	460	185	182	98.4		126	31	19	1	5	56	9	13	4	1	54	42	3
農学部	11,623	232	158	151	95.6	11	52	41	34	1	12	21	8	9	2	2	60	46	3
水産学部	7,024	135	84	78	92.9	1	38	12	15	2	10	15	6	12	3		23	18	1
(文理学部)	2,651																		
合計	83,146	1,945	1,165	1,085	93.1	13	355	354	160	140	63	192	26	53	14	5	337	448	10

(注) 1. 卒業生数(累計)は昭和24年5月本学設置以降の全数を計上した。ただし、医・工学部については昭和30年国立移管以降について計上した。  
 2. 卒業生数は9月卒業生を含む。  
 3. 医学部の就職状況は保健学科を表す。

■大学院修了生数

(平成23年5月1日現在)

研究科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程		専門職学位課程	
	修了生数 (累計)	平成22年度 修了生数	修了生数 (累計)	平成22年度 修了生数	修了生数 (累計)	平成22年度 修了生数
人文社会科学研究科	436	25	11	3	-	-
教育学研究科	600	36	-	-	-	-
保健学研究科	154	25	2	1	-	-
医学研究科*	-	-	572	3	-	-
理工学研究科	4,917	304	319	18	-	-
農学研究科	1,822	59	-	-	-	-
水産学研究科	1,033	39	-	-	-	-
医歯学総合研究科	106	22	122	23	-	-
司法政策研究科	-	-	-	-	101	18
臨床心理学研究科	-	-	-	-	43	14
連合農学研究科	-	-	596	22	-	-
法学研究科*	123	-	-	-	-	-
人文科学研究科*	120	-	-	-	-	-
理学研究科*	539	-	-	-	-	-
歯学研究科*	-	-	112	-	-	-
計	9,850	510	1,734	70	144	32

(注) 1. 博士課程については、単位修得後退学した者は含まない。  
 2. \*印は旧研究科である。

■学位授与状況

(平成23年5月1日現在)

研究科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程				専門職学位課程	
	累計	平成22年度 授与	課程		論文		累計	平成22年度 授与
			累計	平成22年度授与	累計	平成22年度授与		
人文社会科学研究科	436	25	18	5	-	-	-	-
教育学研究科	600	36	-	-	-	-	-	-
保健学研究科	154	25	5	4	-	-	-	-
医学研究科	-	-	689	4	1,475	7	-	-
歯学研究科	-	-	136	-	71	-	-	-
理工学研究科	4,917	304	358	22	60	3	-	-
農学研究科	1,822	59	-	-	-	-	-	-
水産学研究科	1,033	39	-	-	-	-	-	-
医歯学総合研究科	106	22	128	25	3	2	-	-
司法政策研究科	-	-	-	-	-	-	101	18
臨床心理学研究科	-	-	-	-	-	-	43	14
連合農学研究科	-	-	715	26	129	-	-	-
(法学研究科)	123	-	-	-	-	-	-	-
(人文科学研究科)	120	-	-	-	-	-	-	-
(理学研究科)	539	-	-	-	-	-	-	-
計	9,850	510	2,049	86	1,738	12	144	32

(注) 医学研究科については、昭和30年国立移管後の数を計上した。

■奨学生状況

(平成23年5月1日現在)

学部・研究科等	在学生数	日本学生支援機構		各種団体 育英会	計	在学生に対する 百分率	
		第一種奨学生	第二種奨学生				
学部	法文学部	1,755	304	636	23	963	54.9
	教育学部	1,226	187	410	21	618	50.4
	理学部	804	142	309	12	463	57.6
	医学部	1,153	160	370	25	555	48.1
	歯学部	326	44	101	4	149	45.7
	工学部	2,016	324	758	33	1,115	55.3
	農学部	1,087	155	373	20	548	50.4
	水産学部	597	74	210	11	295	49.4
計	8,964	1,390	3,167	149	4,706	52.5	
大学院 (修士課程・ 博士前期課程)	人文社会科学研究科	52	6	2	4	12	23.1
	教育学研究科	81	15	3	5	23	28.4
	保健学研究科	46	1			1	2.2
	理工学研究科	617	131	96	2	229	37.1
	農学研究科	119	25	5	3	33	27.7
	水産学研究科	77	12	1	3	16	20.8
	医歯学総合研究科	31	2	2		4	12.9
	計	1,023	192	109	17	318	31.1
大学院 (博士課程・ 博士後期課程)	人文社会科学研究科	27	5	1		6	22.2
	保健学研究科	23	2			2	8.7
	理工学研究科	77	11	2	2	15	19.5
	医歯学総合研究科	380	32	7	1	40	10.5
	連合農学研究科	133	12		3	15	11.3
	医学研究科	27					0.0
計	667	62	10	6	78	11.7	
大学院 (専門職学位課程)	司法政策研究科	36	15	5	11	31	86.1
	臨床心理学研究科	31	6	1		7	22.6
合計	10,721	1,665	3,292	183	5,140	47.9	

<備考:奨学金月額>  
日本学生支援機構(平成23年度入学者)

- 第一種奨学生 ●学部生:自宅通学30,000・45,000円/自宅外通学 30,000・51,000円  
●大学院生:修士・博士前期課程 50,000・88,000円/博士後期課程80,000・122,000円
- 第二種奨学生 ●学部生:30,000・50,000・80,000・100,000円・120,000円  
●大学院生:50,000・80,000・100,000・130,000円・150,000円
- 各種団体育英会 10,000～55,000円

■大学独自の経済支援制度

(1)鹿児島大学大学院メディポリス教育振興基金授業料免除

大学院に在籍する学生の修学・研究環境の向上等を図ることを目的として、財団法人メディポリス医学研究財団からの寄附金を原資とした鹿児島大学大学院メディポリス教育振興基金を平成23年度に設立し、学業、人物ともに優れ、経済的支援を必要とする者(外国人留学生含む。)について、平成23年度は30名の大学院生を対象として、後期の授業料を全額免除する。

(2)鹿児島大学学業成績優秀学生奨学金

学生の勉学意欲の向上及び優秀な人材の輩出などを図ることを目的に、平成19年度から新生を対象に開始したスタートダッシュ学資金制度(大学院生は平成20年度から開始)を見直し、平成23年度からは対象者(外国人留学生含む。)を学部の全学年に拡大するとともに、在籍中の成績評価により奨学金を給付する制度に改め、平成23年度は85名の学生に支給する。

なお、大学院生を対象としたスタートダッシュ学資金制度は、上記授業料免除制度に移行した。

(3)種村完司私費外国人留学生奨学金

鹿児島大学名誉教授で、元教育学生担当理事の種村完司氏からの寄附金を原資として、本学に在籍するアジア諸国からの私費外国人留学生を支援するために、平成22年7月に設立されたもの。出入国管理及び難民認定法別表第1の4の表に規定する「留学」の在留資格を有する者で、本学の学部及び大学院の正規課程に在籍する私費外国人留学生を対象として、毎年度5名の学生に支給している。

学生等

■附属学校

【教育学部附属幼稚園】

(平成23年5月1日現在)

附属幼稚園	入園定員	現 員				学 級 数
		3歳児	4歳児	5歳児	計	
	3年保育 20	20	35	33	88	3歳児、4歳児、5歳児 各1学級 計3学級
	2年保育 15					

(注)4歳児は3年保育進級児と2年保育入園児、5歳児は4歳児の進級児

【教育学部附属小学校】

(平成23年5月1日現在)

附属小学校	学級区分	入学定員	現 員						学 級 数	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		計
	単式学級	160	159	157	154	153	155	145	923	各学年4学級 計24学級
	複式学級	1年 8	8						48	1・2年で1学級
		2年 8		8						3・4年で1学級 計3学級
		3年 8			8					5・6年で1学級
		4年 8				8				
		5年 8					8			
	6年 8						8			
	計	168	167	165	162	161	163	153	971	計27学級

【教育学部附属中学校】

(平成23年5月1日現在)

附属中学校	学級区分	入学定員	現 員				学 級 数
			1年	2年	3年	計	
	普通学級	200	200	200	196	596	各学年5学級 計15学級

【教育学部附属特別支援学校】

(平成23年5月1日現在)

附属特別支援学校	学級区分	入学定員	現 員						学 級 数	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		計
	小学部	3	3	3	3	3	3	3	18	1・2学年で1学級 3・4学年で1学級 計3学級 5・6学年で1学級
	中学部	6	6	6	6	-	-	-	18	各学年1学級 計3学級
	高等部	8	8	8	8	-	-	-	24	各学年1学級 計3学級



## ■文部科学省教育支援プログラム等

プログラム名	テーマ	部局名(事業実施)	平成23年度 配分予定額 (単位:千円)	事業期間
理数学生応援プロジェクト	インテンシブ理数教育 特別プログラム推進事業	理学部	15,997	平成20～23年度
がんプロフェッショナル 養成プラン	九州がんプロフェッショナル養成プラン	医歯学総合研究科等 (主管大学:九州大学)	100,000 (グループ全体)	平成19～23年度
大学教育・学生支援推進事業【テーマA】 大学教育推進プログラム	取材学習を取り入れた循環型初年次教育	法文学部	15,906	平成21～23年度
大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラム	地域医療を担う プロフェッショナルリズム教育	医学部	15,240	平成22～24年度

## ■独立行政法人科学技術振興機構理数教育支援

事業名	テーマ	部局名	平成23年度 配分予定額 (単位:千円)	事業期間
理数系教員 (コア・サイエンス・ティーチャー) 養成拠点構築事業	実践的コア・サイエンス・ ティーチャー養成スクールと 活動拠点構築プロジェクト	理工学研究科、農学研究科、水産 学研究科、教育学研究科、鹿児島 県教育委員会、鹿児島県総合教育 センター、鹿児島市教育委員会	24,363	平成21～24年度

## ■特別経費

区分	事業名	部局名(実施主体)	平成23年度 運営費交付金予算額 (単位:千円)	事業期間
高度な専門職業人の 養成や専門教育 機能の充実	教員としての職能形成に資するシステムの構築と運用	教育学部	5,034	平成22～24年度
	地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな 「実践型教育プログラム」の開発	臨床心理学研究科	8,545	平成22～24年度
幅広い職業人の養成や 教養教育機能の充実	学生一人一人の「人文系共通技能」を伸ばす学士課程の 構築	法文学部	8,730	平成22～25年度
大学の特性を生かした 多様な学術研究 機能の充実	歯学連携ネットワークによる口腔からQOL向上を 目指す研究	医歯学総合研究科	5,000	平成22～24年度
	麴を用いた健康食品素材開発と機能性解析	農学部	15,200	平成22～23年度
	「動く遺伝子」のゲノム侵入機構の解析と「運び屋」による 汎用型遺伝子導入システムの開発	農学部	9,700	平成22～25年度
	治療法の確立をめざした動脈硬化モデル大動物開発	医歯学総合研究科	13,500	平成22～26年度
教育関係共同 実施分	かごしま丸の熱帯・亜熱帯水域洋上教育共同利用 拠点機能の充実	水産学部 附属練習船かごしま丸	13,366	平成23～26年度

## ■特別経費から一般経費への組替

事業名	部局名(実施主体)	平成23年度 運営費交付金予算額 (単位:千円)	事業期間
離島へき地医療人育成センターの設置	医歯学総合研究科	36,286	平成23年度～

■リポジトリ

(平成23年4月1日現在)

学 部 等	論 文 数
法 文 学 部	411
教 育 学 部	1,401
理 学 部	570
歯 学 部	116
工 学 部	459
農 学 部	2,325
水 産 学 部	264
人 文 社 会 学 研 究 科	15
理 工 学 研 究 科	36
医 歯 学 総 合 研 究 科	61
連 合 農 学 研 究 科	26
学 内 共 同 教 育 研 究 施 設 等	345
山 口 大 学 連 合 獣 医 学 研 究 科	2
計	6,031



(注)鹿児島大学の研究成果(学術論文、紀要論文、博士論文等)をデータベース(機関リポジトリ)に恒久的に保存し、インターネットを通じて一般公開している。  
<http://ir.kagoshima-u.ac.jp>

■学術刊行物

学 部	刊 行 物	発 行 回 数
法 文 学 部	鹿児島大学法学部紀要(法学論集、経済学論集、人文学科論集)	年 2 回
	鹿児島大学法学部国語国文学会誌(国語国文薩摩路)	年 1 回
	鹿大史学会誌(鹿大史学)	年 1 回
	鹿児島大学英文学会誌(鹿大英文学)	年 1 回
	地域政策科学研究	年 1 回
教 育 学 部	鹿児島大学教育学部研究紀要(人文・社会科学編、自然科学編、教育科学編)	年 1 回
	鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属幼稚園研究誌	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属小学校研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属中学校研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校研究紀要	隔 年 1 回
理 学 部	鹿児島大学理学部紀要	年 1 回
医 学 部	鹿児島大学医学雑誌	年 3 回
	鹿児島大学医学部保健学科紀要	年 1 回
歯 学 部	鹿児島大学歯学部紀要	年 1 回
工 学 部	鹿児島大学工学部研究報告	年 1 回
農 学 部	鹿児島大学農学部学術報告	年 1 回
	Memoirs of the Faculty of Agriculture Kagoshima University	不 定 期
	鹿児島大学農学部農場研究報告	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場技術調査報告書	隔 年 1 回
	鹿児島大学農学部農場年報	年 1 回
	鹿児島大学農学部演習林研究報告	年 1 回
水 産 学 部	鹿児島大学水産学部紀要	年 1 回
国際島嶼教育研究センター	南太平洋研究	年 2 回
	南太平洋海域調査研究報告	不 定 期
留 学 生 セ ン タ ー	年報	年 1 回
総合研究博物館	鹿児島大学総合研究博物館研究報告	不 定 期
	鹿児島大学総合研究博物館モノグラフ	不 定 期
学術情報基盤センター	年報	年 1 回
生涯学習教育研究センター	年報	年 1 回
教 育 セ ン タ ー	年報	年 1 回
稲 盛 ア カ デ ミ ー	鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要	年 1 回
フロンティアサイエンス 研究推進センター	動物実験施設年報	年 1 回
	遺伝子実験施設年報	年 1 回
	機器分析施設年報	年 1 回

教育・研究・  
社会貢献活動

協定

協定名	協定締結年月日
与論町地域再生計画に伴う旧与論町立診療所の施設設備等の活用に係わる施設の賃貸借料に関する協定	平成17年 2月14日
社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携協力協定	平成17年10月21日
鹿児島県酒造組合との包括連携協力協定	平成18年 3月 9日
奄美市との包括連携協定	平成18年 3月13日
日本政策投資銀行との連携協定	平成18年 5月31日
徳之島町と国立大学法人鹿児島大学とのヘルシーブランド事業計画の実施に関する協定	平成19年11月19日
鹿児島市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成19年11月30日
株式会社鹿児島銀行と国立大学法人鹿児島大学との農業経営管理システム開発事業に関する連携協定	平成20年11月28日
社団法人鹿児島青年会議所と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成20年12月26日
垂水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年 1月27日
財団法人横浜企業経営支援財団との産学連携に関する協定	平成21年 5月28日
国立大学法人鹿児島大学と九州森林管理局との九州の林業再生のための必要な人材育成等に関する協定	平成21年10月29日
出水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年12月21日
伊仙町、国立大学法人鹿児島大学及び社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携に関する協定	平成22年 3月30日
平川動物公園及びかごしま水族館を活かした地域活性化プロジェクト推進に係る産学官連携協定	平成22年 8月 9日

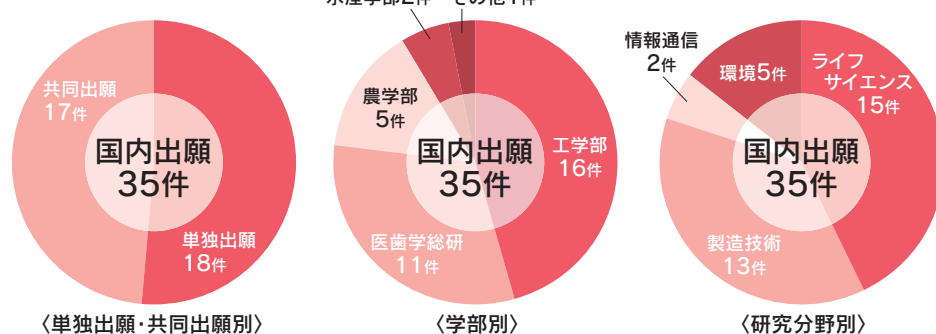
寄附講座

部局名	講座名	設置期間	寄付者名	主な研究内容等
医歯学総合研究科	医療関節材料開発講座	平成18年6月1日～平成28年5月31日	日本メディカルマテリアル(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人工股関節の開発</li> <li>●人工骨頭手術におけるQOL評価</li> <li>●最小侵襲手術手技(MIS)の確立と器具の開発</li> </ul>
	心筋症病態制御講座	平成21年11月1日～平成24年10月31日	ジェンザイム・ジャパン(株)	●心筋症の疫学、病態、診断および治療に関する研究
	システム血栓制御学講座	平成22年4月1日～平成27年3月31日	(株)新日本科学 財メティボリス医学研究財団 旭化成ファーマ(株) 旭化成クラレメディカル(株) エーザイ(株) バイエル薬品(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●血栓症の発症機構とその制御法の基礎的、臨床的研究</li> <li>●血栓傾向・血栓症準備状態の診断技術・方法の開発と確立</li> <li>●陽子線治療の総合的研究</li> </ul>
	近未来運動器医療創生学講座	平成23年6月1日～平成26年5月31日	医療法人くすのき会	●新しい脊髄損傷再生治療法の開発と新たな問題点
医学部・歯学部 附属病院	地域医療支援システム学講座	平成23年4月1日～平成26年3月31日	鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> <li>●肉種幹細胞を標的とした新規治療法の開発</li> <li>●地域医療提供体制の分析・研究</li> <li>●地域医療機関における派遣医師の研修・就業支援体制等に係る研究</li> <li>●県内で就業する医師のキャリアパス形成支援に係る研究</li> <li>●患者紹介・受入体制構築に資する地域連携データベースの作成</li> <li>●研究成果等普及啓発を図るためのシンポジウム開催</li> </ul>

教育・研究・社会貢献活動

知的財産管理状況

〈平成22年度 出願状況〉



〈平成22年度末 特許保有件数〉

	登録済	出願中	合計
国内	41	298	339
外国	26	124	150

〈平成22年度 ライセンス実績件数〉

	新規件数	金額(千円)
特許	3	3,992
商標		720
ソフトウェア		157
ノウハウ		463
マテリアル		
合計	3	5,332

■平成23年度公開講座等実施計画

(平成23年4月1日現在)

講座名	学部等	開催期間	時間帯	時間数	講習料(円)	受講対象者	募集人員(人)	開催場所
理学療法士・作業療法士のための統計処理	医学部	6/18(土) 7/2(土)	13:30~16:30	6	3,200	理学療法士、作業療法士など	25	医学部保健学科 講義棟6階 インテリジェント室
ストーリーリハビリテーションの基本	医学部	7/2(土)	9:30~17:00	6.5	5,400	保健師、助産師、 看護師、准看護師	50	保健学科 教育棟・研究棟
患者のQOLを支えるコミュニケーション ー患者に寄り添う緩和ケアを実践するためにー	医学部	7/9(土)	9:30~12:30	3	4,600	看護師	20	医学部 共通教育棟6階 インテリジェント講義室
Active Agingーリハビリテーションからケアまでー (霧島市牧園町)	医学部	7/31(日)	9:30~16:30	6	5,200	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、 ヘルパー、市民一般	100	霧島リハビリ テーションセンター
看護研究の基礎およびデータ解析入門	医学部	7/24(日)	10:00~16:00	5	5,000	看護職	60	医学部保健学科
臨床理学療法学講座	医学部	8/20(土)	13:00~18:00	5	5,000	医療従事者・福祉関係者	40	医学部 運動療法実習室
リハビリテーションを目指すケアー "最期までその人らしく"を支える	医学部	9/3(土)	未定	6	5,200	看護職	30	医学部保健学科
筋萎縮性側索硬化症(ALS)療養者の 在宅支援	医学部	9/10(土)	①9:30~17:00 ②9:30~14:25	①5.5時間 ②3.5時間	①5,200 ②4,800	看護師、保健師、 介護支援専門員	①40人 (演習まで) ②20人 (講義のみ)	医学部保健学科 研究棟601号教室
Active Agingーリハビリテーションからケアまでー (鹿児島市)	医学部	9/11(日)	9:30~16:30	6	5,200	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、 ヘルパー、市民一般	100	医学部鶴陵会館
最近の歯科医療 ー審美的回復と全身との関わりー	歯学部	11/26(土)	15:00~18:00	3	0	歯科医師、歯科衛生士	30	奄美市
宇宙は真空じゃない ー星々の間に広がる未知の世界	理学部	7/16(土)	14:00~16:00	2	0	一般市民・高校生以上 (中学生も可)	50	理学部1号館2階 大会議室
第7回海岸へ行こう	水産学部	9月~10月	9:00~16:00	7	0	小学生	40	鹿児島湾内の海岸 または水産学部
高齢化社会と法	司法政策 研究科	8/6(土)	10:30~16:20	4.5	3,000	一般市民	30	総合教育研究棟
TPPを考える	法文学部	10/1(土)~ 10/15(土)	13:00~15:00	6	3,200	社会人	50	総合教育研究棟102号
取材学習と人文科学	法文学部	2月上旬 (予定)	13:45~17:30	3.5	0	高校生・一般社会人	270	稲盛会館
食べ物と食べることの光と陰!	農学部	11/13(日)	13:30~16:00	2.5	0	高校生および一般市民、 社会人	80	農学部201講義室
動物の生命(いのち)と人との係わり ー統・生命(いのち)の多様性ー	農学部	8/7(日)および 11/13(日)	両日: 13:15~15:10	4	0	高校生および一般市民	予約不要 160人 収容可	農学部204講義室
森林環境教育ワークショップinたかくま	農学部	8月中の3日間 (2泊3日)	1日目9:30~ 3日目15:30	23	0	教員および森林環境 教育に関心のある方	20	農学部附属 高隈演習林
親子で冒険 かごしまの海	生涯学習教育 研究センター	7/30(土)	9:30~16:30	7	3,400	子どもとその保護者 (小学生4年生以上)	25	水産学部および 南星丸(錦江湾洋上)
垂水講座	生涯学習教育 研究センター	2月末~ 3月(予定)	未定	未定	未定	一般社会人	未定	垂水市地区
授業に活かすコンピュータとインターネット	教育学部教育 実践総合 センター	8/17(水)~ 8/18(木)	9:00~16:30	12	6,400	現場教員等の教育関係者	30	教育学部附属教育 実践総合センター
教育臨床セミナー	教育学部教育 実践総合 センター	8/8(月)~ 8/9(火)	9:00~16:30	12	6,400	現場教員等の教育関係者	50	郡元キャンパス
原始古代のものづくり	埋蔵文化財 調査室	7/23(土)	14:00~16:00	2	0	中学生以上の学生 および社会人	50	総合教育研究棟 (文系)102号
建築分野の最近の技術・話題	工学部・ 建築学科	7/2(土)	13:00~18:00	5	0	建築技術者、建築設計者	30	工学部建築製図棟 2Fゼミ室
ものづくり体験	大学院理工学 研究科	8/10(水)	13:00~17:00	4	0	小学生・中学生 (学年・学科は問いません)	20	理工学研究科(工学部) 中央実験工場



## 鹿児島大学大学院奄美サテライト教室（奄美市・徳之島町）

平成16年度、全国にも例のない離島でのサテライト教室が奄美市（旧名瀬市）に設置された。離島地区に高度専門教育サービスを提供することを目的として、平成19年度には徳之島町に分室を展開している。平成21年度から、大学院連携に基づいて、下関市立大学の大学院生が奄美に派遣され、離島での専門家養成にあたっている。

また、科目等履修生を中心にした受講生とサテライト教室出身の正規大学院生が集まり、熱心な授業が継続的に行われている。特に、人文社会科学部研究科では、サテライト独自の講義科目「奄美プロジェクト研究」を開設し、離島の受講生のキャリアアップに役立てるような講義テーマを設定している。



▲授業風景

## 大学地域コンソーシアム鹿児島

「大学地域コンソーシアム鹿児島」は、鹿児島県内13の高等教育機関が相互に連携・協力し、高等教育の質的向上を推進することにより、地域の教育および学術研究の充実・発展を図るとともに、魅力ある高等教育づくりと活力ある地域づくりに貢献することを目的として、平成21年1月6日に設立された。平成23年4月1日からは、「単位互換」「職員研修」「教員免許状更新講習」「産学官連携」「ガイダンスセミナーおよび短期大学の教育を語る会」の5事業部会を再編し、「教育連携」「高大連携」「ICT活用」「FD・SD活動」「教員免許状更新講習」「産学官連携」「地域共同リポジトリ」の7事業部会とし、活動を行っている。

### 〈構成大学等〉

鹿児島大学、鹿屋体育大学、鹿児島国際大学、鹿児島純心女子大学、志学館大学、第一工業大学

鹿児島県立短期大学、鹿児島国際大学短期大学部、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学

第一幼児教育短期大学、鹿児島工業高等専門学校、放送大学鹿児島学習センター

## 北米教育研究センター

アメリカ合衆国カリフォルニア州サンタクララ市にあるピクセラ社内に、海外拠点として北米教育研究センターを設置している。平成16年12月に設置されたベンチャービジネスラボラトリーシリコンバレーオフィスが平成20年9月に全学組織である北米教育研究センターへ発展させた。また、平成23年4月には、本学のランチオフィスとしてカリフォルニア州における法人登記を行い、名実共に本学の米国ベイエリア地区における海外拠点としての体制を整えた。センターは(1)学生および職員の教育および研修、(2)海外の大学および企業等との共同研究または共同事業の推進、(3)セミナー、フォーラム等に関すること、(4)大学間の連携による国際化推進活動等を主な業務とし、主に北米地区における教育、研究および社会貢献に係る国際活動を推進している。

センターでは、日米未来フォーラム、国際科学技術フォーラム等を企画、実施しており、平成16年度から実施してきたシリコンバレーセミナーは、平成22年度から共通教育科目「海外研修基礎コース」として継続するとともに、共通教育科目として、「国際プロフェッショナル概論」及び「国際イノベーション概論」の2科目をスタートさせ、センターと本学との間でインターネットを利用した遠隔授業も行っている。

一方、ベイエリア地区に拠点を置く日本の大学間のネットワークであるJUNBA(サンフランシスコ・ベイエリア大学間連携ネットワーク)での情報交換や共同事業などにも積極的に参加しており、本学の教育・研究活動の場が更に広がっている。



▲北米教育研究センターのあるピクセラ社



▲セミナーツアー

## フィリピン大学ビサヤス校リエゾン・オフィス

鹿児島大学水産学部のキャンパスに、同学部と学術交流協定を締結しているフィリピン大学ビサヤス校(UPV)の日本オフィスが平成18年4月に開設された。水産学部のフィリピン・オフィスは平成18年2月にUPVのミヤガオ・キャンパスに開設されており、平成19年12月には両者の協定は大学間協定に改定された。大学間協定大学とリエゾン・オフィスを相互に開設するのは、鹿児島大学としても初めてである。研究室と実験室を併設したオフィスには、フィリピンから採用された准教授が常駐していた時期もあり、水産資源管理や水圏環境の管理・保全に関する共同研究の拠点となっている。

水産学部は、平成10年度から「フィリピンにおける水産資源と水圏環境の管理と保全に関する研究」をテーマに、UPVと拠点大学方式による研究交流を行ってきた。さらに、平成20年度から「水圏環境の保全と管理」を主なテーマとした、アジア研究教育拠点形成という国際的な事業を行っている。



▲フィリピン大学ビサヤス校



▲ビサヤス校ミヤガオ・キャンパス

■鹿兒島大学若手教員海外研修支援事業

次世代を担う若手教員の海外の教育研究機関における研修を支援することにより教育研究能力等の向上を図り、  
 本学の教育研究の国際的通用性・共通性の向上に資することを目的とする。

研修開始年度	部局名	研修先(国名)	研修題目
平成21年度 (研修人数6名)	法 文 学 部	イ ギ リ ス ア メ リ カ	欧米における日本史研究の現状に関する調査・研究
	教 育 学 部	フ ラ ン ス	古典的描画材を用いた絵画技法の研究
	医 学 部	ア メ リ カ	①国際的な視座に基づいた基礎看護学領域における教育・指導能力の向上 ②看護における患者のセルフマネジメント支援に関する研究遂行能力の獲得
	農 学 部	ス イ ス	農村計画的視点からのスイス近自然学の体系化と 環境配慮型技術工法の概念習得
	理工学研究科 (理学系)	オ ラ ン ダ	超伝導体接合におけるトンネル効果に関する研究
	理工学研究科 (工学系)	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	土木構造物の累積的損傷評価システム構築に関する研修
平成22年度 (研修人数5名)	医 学 部	ア メ リ カ	実験的脳梗塞モデルにおける運動療法による麻痺回復と 脳内活性物質に関する研究
	理工学研究科 (理学系)	ア メ リ カ	圧力下における物質開発技術及び測定技術の習得
	理工学研究科 (工学系)	イ ギ リ ス	地球温暖化が建築環境に及ぼす影響の予測と対策に関する研修
	医学部・歯学部 附属病院	カ ナ ダ ア メ リ カ	南九州地方で発展が期待される脳神経外科治療法・検査法に関する研修
	フロンティアサイエンス 研究推進センター	ア メ リ カ	多能性幹細胞を用いた肝・膵臓再生
平成23年度 (研修人数7名)	教 育 学 部	ア メ リ カ	米国における社会科教育研究・実践についての研究 ーよりよい社会科授業の開発・研究とその教員養成の解明をめざしてー
	医 学 部	ド イ ツ	法医学解剖・法医学実務的研究に関して多面的な分野からの知識・技術の習得
	水 産 学 部	台 湾	水生動物の感覚生理に関する研究の推進
	理工学研究科 (理学系)	イ ギ リ ス	次世代巨大電波干渉計SKAプロジェクト推進のための共同研究
	理工学研究科 (工学系)	イ ギ リ ス	力覚デバイスと神経学的手法を用いた運動時における触覚の特性についての研究
	医歯学総合研究科 (医学系)	ア メ リ カ	脳損傷後の片麻痺に対するリハビリテーションに関する国際共同研究
	医学部・歯学部 附属病院	ス イ ス	天然歯およびインプラント周囲の骨欠損における各種生体材料および 治療法の効果に関する研究

■鹿兒島大学学生海外研修支援事業

大学憲章に基づき、自主自律と進取の精神を併せ持ち、かつ社会の発展に貢献し、国際社会で活躍できる人材の育成を図るため、  
 本学で実施する学生の海外研修を支援することを目的とする。

申請者	期別	授業科目名	授業担当部局	研修期間(自)	研修期間(至)	日数	派遣国
教育センター長	前期	国際協力体験講座 ー東南アジアファームステイー	農 学 部	H22.8.18	H22.8.27	10	ミャンマー
				H22.9.15	H22.9.24	10	ベトナム
教育センター長	前期	鹿兒島大学砂漠緑化プログラム	国際戦略本部	H22.9.4	H22.9.11	8	中国
教育センター長	前期	海外研修基礎コース(共通教育 学部生)	北米教育研究センター	H22.9.17	H22.9.28	12	米 国
教育センター長	前期	海外研修基礎コース(大学院生分)	北米教育研究センター	H22.9.17	H22.9.28	12	米 国
法文学部長	前期	フィールド学実習(文化人類学)2	法 文 学 部	H22.8.22	H22.8.29	8	モンゴル国
法文学部長	前期	海外短期留学1	法 文 学 部	H22.9.1	H22.9.30	30	米 国
法文学部長	前期	フィールド学実習(文化人類学)	法 文 学 部	H22.8.18	H22.8.22	5	韓 国
教育学部長	前期	国際理解教育調査研究Ⅰ	教 育 学 部	H22.8.15	H22.8.20	6	韓 国
農 学 部 長	前期	国際協力農業体験講座 ー東南アジアファームステイー	農 学 部	H22.8.18	H22.8.27	10	ミャンマー
				H22.9.15	H22.9.24	10	ベトナム
農 学 部 長	前期	臨床獣医学特別研修	農 学 部	H22.8.14	H22.8.30	17	米 国
北米教育研究センター長	前期	海外サマーインターンプログラム	北米教育研究センター	H22.9.1	H22.9.30	30	米 国
教育学部長	後期	社会教育特講	教 育 学 部	H22.10.6	H22.10.10	5	韓 国
水産学研究科長	後期	Advanced Lecture on Tropical Aquaculture	水産学研究科	H22.11.27	H22.12.6	10	フィリピン
教育センター長	後期	国際人に求められる資質育成の実践	国際戦略本部	H23.2.21	H23.3.5	13	中国

国際交流



■日本学術振興会

事業名	課題	事業期間	実施主体部局	概要
若手インターナショナル・トレーニング・プログラム (ITP)	熱帯域における生物資源の多様性保全のための国際教育プログラム	平成19～24年度(10月)	理工学研究科	世界でも最も生物多様性が高い地域の一つであるアジア熱帯地域において、生物多様性を保全するための分類学、生態学、生理学、環境科学等の研究分野で、国際的に活躍できる若手研究者を養成することを目的とする。そのために、大学院学生(博士課程、修士課程)、助教等が、マレーシア、インドネシア、タイのパートナー機関と連携して数ヶ月の現地での経験を積み、国内での研修とあわせて教育研究のレベルアップを図る。
アジア研究教育拠点事業	東南アジア沿岸域の水産資源に対するネガティブインパクト対策に関する研究拠点形成	平成20～24年度	水産学部	水産資源に対するネガティブインパクト(負の影響)の中でも特に石油流出による影響に焦点をあて、その影響の程度の総合的評価と回復技術の開発を図ると同時に、ネガティブインパクト問題への取り組み手法のモデルを構築することを目標とする。 水産学部とフィリピン大学ヴィサヤス校との間での拠点大学交流事業を通して実施した「沿岸海域における水圏環境・資源の利用」に関する共同研究を継承・発展させ、水圏環境に排出される有害化学物質や魚病などを含むネガティブインパクトの水産資源や漁場保全に対する影響と対策に関する研究に取り組む。
アジア・アフリカ学術基盤形成事業	東アジアにおけるシトリン欠損症の診断・治療ネットワーク構築	平成21～23年度	医歯学総合研究科	東アジアに保因者が高頻度に存在するシトリン欠損症は、多くの謎に包まれ、解決すべき課題が多く残っている遺伝性疾患である。 シトリン欠損症では、診断そのものが1つの予防法であり、現在、変異遺伝子診断を確実に実践できる段階にきている。 本事業では、中国・ベトナム・韓国の拠点機関との共同研究・研究者交流・セミナー開催などにより若手研究者の活性化を図り、国際研究協力体制を構築するとともに、中核的研究拠点としてアジアのみならず世界へ向けた情報発信を目指す。
二国間交流事業 共同研究・セミナー	ハンガリーとの共同研究(HAS) 共生系でのバクテリアの飼育馴らしに関する宿主植物因子	平成22～23年度	理工学研究科	根粒菌は、宿主マメ科植物を認識し、植物細胞内部に侵入する。宿主植物は、自身の細胞内に侵入した根粒菌の増殖を制御して、共生状態(=バクテロイド)へと分化させ、共生窒素固定系を確立・維持するものと予想される。しかし、その機構(=飼育馴らし機構)は、殆ど不明である。 本研究では、根粒菌を飼育馴らしするための植物分子の候補として、根粒中に特異的且つ大量に存在する根粒特異的ペプチド(Nodule Specific Peptide, nsPEP)に着目した。nsPEPが根粒菌に及ぼす作用を多面的に解析し、根粒菌のバクテロイド化との関係を明らかにするとともに、植物免疫機構との関係を探り、その進化的背景に迫ることを目的とする。 日本-ハンガリーの大学院生の相互派遣も実施している。
頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム	食欲調節ペプチド自己抗体症候群の概念、病態生理的意義の確立と新しい治療戦略	平成22～24年度	医歯学総合研究科	神経性食欲不振症を中心とした悪液質病態を中心に、そのミラーイメージである肥満症も視野において、食欲・体重調節の根幹をなす食欲調節ペプチドやその受容体に対する自己抗体の病態生理的意義を解明し、新たな視点から治療応用を行うトランスレーショナルなプロジェクトである。若手研究者自らが研究の主体をなし、国際研究ネットワークを活用するスタイルを取る。若手研究者らが、国際的な研究ネットワークにおける主担当研究者の直接・間接的な指導の下、高度な実験の手法を学び主体的に研究を推進することによって、食欲調節ペプチドと食行動との関連性を解明し、臨床応用につながる貢献が期待される。



■大学間学術交流協定校(16カ国・地域、48機関)

(平成22年度実績)

国・地域	締結機関名	締結年月日	受入数	派遣数	共同研究
中国	湘潭大学	昭和61年12月11日	3 (3)		
	雲南農業大学	平成元年 5月11日	6 (1)	12 (8)	
	湖南農業大学	平成元年 6月 2日	5 (3)	5 (1)	2
	中南大学	平成5年 6月15日			2
	中国医科大学	平成5年 9月13日	3 (2)	6	3
	湖南大学	平成7年 8月23日			
	南京工業大学	平成11年 9月14日	3 (2)	1	1
	東北師範大学	平成13年11月13日	1 (1)		1
	中国人民大学	平成14年 7月 1日		3	2
	東北大学	平成16年12月 3日	11 (1)	19 (18)	
	重慶大学	平成18年 5月22日			
中国社会科学院日本研究所	平成18年 7月 4日				
韓国	釜慶大学校	平成7年 7月 6日	15 (3)		
	全北大学校	平成9年 4月22日	35 (32)	16 (14)	
	群山大学校	平成9年 12月 1日			
	済州大学校	平成10年 1月30日	3 (3)		
	群山看護大学	平成12年 8月30日	1 (1)		
	江陵原州大学校	平成13年 2月 8日	18 (17)	12 (11)	
	江原大学校	平成14年 4月 5日	5 (3)		
公州大学校	平成16年10月18日	1 (1)	1 (1)		
インド	カルナタカ国立工科大学	平成17年 3月23日		1	
インドネシア	アナンダラ農科大学	平成15年12月 1日	3	5 (1)	
	ボゴール農科大学	平成22年 6月 4日		8 (2)	
	ディボネゴロ大学	平成22年 6月30日	5 (1)	2	
	バンドン工科大学	平成22年11月22日	1	3 (2)	
マレーシア	マレーシアトレンガヌ大学	平成17年 4月22日	1 (1)	3 (1)	
	マレーシアサバ大学	平成21年 3月 4日	2	5 (3)	1
	マレーシアプトラ大学	平成22年 3月16日	1	2	
台湾	淡江大学	平成17年11月 5日		1	
タイ	メジヨー大学	平成13年 4月30日		2	
	カセサート大学	平成20年 7月 1日	2 (2)	6	2
	スラナリ工科大学	平成21年 4月17日	5 (3)	1	1
フィリピン	フィリピン大学	平成19年12月12日	0	30 (13)	3
ベトナム	ハノイ農業大学	平成14年 3月 6日	2	13 (10)	
	ハノイ貿易大学	平成14年12月25日			
	ベトナム社会科学院	平成19年 5月23日	2	1	
南太平洋12カ国・地域	南太平洋大学	昭和57年 7月21日		3	2
パプアニューギニア	パプアニューギニア大学	昭和62年 5月29日			
オーストラリア	ニューイングランド大学	平成7年 7月20日	1 (1)		
	シドニー工科大学	平成12年 3月 1日		1	
アメリカ合衆国	ジョージア大学	昭和54年11月29日		2 (1)	
	マイアミ大学	平成4年 11月30日		10 (10)	1
	グアム大学	平成18年 4月 5日		1	1
	アルフレッド大学	平成18年11月 8日			
	西ジョージア大学	平成19年 5月23日	4 (3)	1	
コロンビア	バジェ州立大学	平成7年 8月30日			
スペイン	バレンシア工芸大学	平成12年 2月 7日			
スウェーデン	リンシェーピング大学	平成22年 6月11日	1 (1)		
合 計			140 (85)	176 (96)	22

(注)受入数・派遣数欄の( )は、学生交流数で内数。

■部局間学術交流協定校(14カ国・地域、32機関)

(平成22年度実績)

国・地域	締結機関名	締結年月日	受入数	派遣数	共同研究
法 文 学 部					
ド イ ツ	ミュンヘン大学東アジア研究部日本センター	平成15年10月29日	2 (2)	11 (10)	
韓 国	釜 山 大 学 校 社 会 科 学 大 学	平成19年 3月 8日	1 (1)	5 (1)	
	木 浦 大 学 校 島 嶼 文 化 研 究 院	平成22年 5月28日		2	
ル ー マ ニ ア	ブ カ レ ス ト 大 学 外 国 語 学 部	平成20年10月 1日			
中 国	山 東 師 範 大 学 外 国 語 学 院	平成21年12月24日	2 (2)		
フ ラ ン ス	レンヌ第2-オート・ブルターニュ大学舞台芸術学部	平成22年 7月 1日	1 (1)	1	
教 育 学 部					
ド イ ツ	ボ ン 大 学 哲 学 部	平成18年 9月26日	2 (2)	2 (1)	
理 学 部					
イ ン ド ネ シ ア	インドネシア科学院生物学研究センター	平成18年 2月20日	3	13 (3)	5
歯 学 部					
タ イ	王立プリンスオブソクラー大学歯学部	平成15年 3月14日			2
工 学 部					
中 国	南 開 大 学 情 報 技 術 科 学 学 院	平成11年12月27日			
タ イ	チュラロンコン大学石油及び石油化学研究科	平成12年 7月28日			
イ ラ ン	イ ラ ン 理 工 科 大 学	平成15年 3月16日	7		
農 学 部					
タ ン ザ ニ ア	ソ コ イ ネ 農 科 大 学	平成11年 8月30日	2 (2)	1 (1)	
タ イ	国立モンクット王トンプリ工科大学生物資源工学研究科	平成14年 1月16日	3 (3)		
台 湾	国 立 中 興 大 学 獣 医 学 部	平成21年 4月 1日	3		
水 産 学 部					
韓 国	韓 国 海 洋 研 究 所	平成13年 9月28日			
中 国	大 連 海 洋 大 学	平成15年10月21日	2 (2)		
タ イ	東 南 ア ジ ア 漁 業 開 発 セ ン タ ー	平成15年12月 3日			
イ ン ド ネ シ ア	ハサヌテイン大学海洋科学水産学部	平成19年11月17日			
台 湾	国 立 高 雄 海 洋 科 技 大 学 水 圏 学 院	平成20年 2月29日		1	
	国 立 台 湾 海 洋 大 学	平成22年 7月15日			
ベ ト ナ ム	カ ン ト ー 大 学 水 産 ・ 養 殖 学 部	平成21年 5月25日		1 (1)	
理 工 学 研 究 科					
イ ン ド	ジャワハルラル・ネール先端科学研究センター	平成21年 6月23日			
	国 立 パ ー バ ー 原 子 力 研 究 セ ン タ ー	平成21年 9月16日			
イ ン ド ネ シ ア	イ ン ド ネ シ ア 大 学 工 学 部	平成21年12月 9日		4	
イ ス ラ エ ル	ベ ン ・ グ リ オ ン 大 学 自 然 科 学 部	平成22年 1月 5日	1 (1)		
台 湾	成 功 大 学 工 学 院	平成17年12月23日	21 (11)		
医 歯 学 総 合 研 究 科					
イ ン ド ネ シ ア	ジ ェ ン バ ー 大 学 医 学 部	平成20年 3月25日			
	セアリフヒダイトラ州イスラム大学医学部	平成20年 6月25日			
ベ ト ナ ム	ハ ノ イ 医 科 大 学	平成20年 5月 9日	2 (1)		
タ イ	プ リ ン ス オ ブ ソ ク ラ ー 大 学 医 学 部	平成23年 3月11日			
パ キ ス タ ン	キ ン グ エ ド ワ ー ド 医 科 大 学 公 衆 衛 生 学 部	平成20年 6月28日			1
合 計			52 (28)	41 (17)	8

(注)受入数・派遣数欄の( )は、学生交流数で内数。

■外国人研究者受入状況

(平成22年度)

区 分	法文学部	教育学部	医学部	医・歯学部 附属病院	農学部	水産学部	理工学 (理学系)	理工学 (工学系)	医歯学総 合研究科	連合農学 研究科	学 共 施設等	合 計
外国人研究員									1		1	2
外国人教員等	4	1	1		1	2		2	3		2	16
国際協力機構(JICA)		9				16						25
日本学術振興会(JSPS)	1				11	1	17				6	36
科学研究費補助金							2		1			3
日本学生支援機構(JASSO)							2		1			3
外国政府・機関等支弁による研究員	1	2			24	21	10	17			5	80
その他の研究員	5		1	1	21	5	3	1	17	3	1	58
視察・来訪等									1		48	49
合 計	11	12	2	1	57	45	34	20	24	3	63	272

■教職員の海外渡航状況

【地域別】

(平成22年度)

区 分	法文学部	教育学部	医学部	医・歯学部 附属病院	農学部	水産学部	理工学 (理学系)	理工学 (工学系)	医歯学総 合研究科	司法政策 研究科	臨床心理 学研究科	学 共 施設等	合 計
アジア	36	9	4	19	52	40	42	39	36			34	311
中近東							2	1		1			4
大洋州	7	6		1	2	3	1	3	20		1	14	58
アフリカ				4	2	1	2		2			6	17
欧州	16	20		28	13	3	29	21	40		2	10	182
北米	3	4	10	43	8	1	12	16	55			17	169
中南米	1			2				2				1	6
合 計	63	39	14	97	77	48	88	82	153	1	3	82	747

【経費別】

(平成22年度)

経費の種類	法文学部	教育学部	医学部	医・歯学部 附属病院	農学部	水産学部	理工学 (理学系)	理工学 (工学系)	医歯学総 合研究科	司法政策 研究科	臨床心理 学研究科	学 共 施設等	合 計
文部科学省	6				5	2		4			2		19
その他の省庁			1		5	1	2		8				17
国際協力機構(JICA)						2							2
日本学術振興会(JSPS)	6			1	2	18	11		2			1	41
科学研究費補助金	27	15	3	13	24	11	29	16	33			15	186
科学技術振興機構(JST)							2		2				4
鹿児島大学研究費	13	13	9	4	14	6	9	17	15			19	119
奨学寄附金等			1	66	14	3	6	26	60		1	4	181
外国の機関等	5	1		3	10	2	11	5	13			14	64
その他	6	10		10	3	3	18	14	20	1		29	114
合 計	63	39	14	97	77	48	88	82	153	1	3	82	747

■部局別国際共同研究実施件数

(平成22年度)

法文学部	教育学部	医・歯学部 附属病院	農学部	水産学部	理工学研究科 (理学系)	理工学研究科 (工学系)	医歯学総 合研究科	学共施設等	合 計
6	5	3	15	9	30	19	44	24	155

■出身国(地域)別(38か国・地域277名)(38か国・地域283名 ※山口大学連合獣医学研究科を含む)

(平成23年5月1日現在)

地 域	国(地域)	法文学部	教育学部	理学部	医歯学	工学部	農学部	水産学部	連合農学研究科	留学生センター	合 計	連合獣医学研究科
アジア州	インド				1①	1			1		3①	
	インドネシア			2	3③	2	1	1	14②		23⑤	
	スリランカ								4②		4②	
	タイ			1			1		3		5	
	パキスタン				3③	1				1 ①	5④	
	バングラデシュ			1①					11⑦		12⑧	3③
	フィリピン					2②		1①	5⑤		8⑧	1①
	ベトナム		1		2①	2	2	2	7②		16③	
	マレーシア	2	1	2		7			1		13	
	ミャンマー			2		1			5⑤		8⑤	1①
	韓 国	10	6	2①	10	4	3	2①	1①		38③	
	台 湾				3				1		4	
	中 国	24	15	3①	9	21②	11	9	8①		100④	
ネパール				3②	1			2①		6③		
香 港			1①							1①		
イ ラ ン				1①						1①		
ブ ー タ ン											1	
太 洋 州	ト ン ガ							1①			1①	
	マ ー シ ャ ル							1①			1①	
	フ ィ ジ ー							1①			1①	
アフリカ州	エジプト				1	1①					2①	
	ウガンダ		1①						1①		2②	
	ケニア共和国								1①		1①	
	セネガル								1①		1①	
	タンザニア							1①	1		2①	
	エリトリア							1			1	
	ナイジェリア			1①	1						2①	
	クエート							1			1	
モーリタニア								1①		1①		
欧 州	オーストリア					1					1	
	ド イ ツ	2									2	
	フ ラ ン ス	1									1	
	ブルガリア	1①									1①	
北 中 南 アメリカ州	スウェーデン					1					1	
	ウクライナ		1①								1①	
	ジャマイカ				1①						1①	
	コロンビア									1①	1①	
	ブラジル				4②						4②	
	グアテマラ			1①							1①	
合 計	40①	25②	16⑥	42⑭	45⑤	18	20⑤	69⑳	2②	277㉟	6⑤	

(注)○印内は内数で国費留学生(日韓共同理工系学部留学生含む)を示す。

■在籍別

(平成23年5月1日現在)

在 籍 身 分	法文学部	教育学部	理学部	医歯学	工学部	農学部	水産学部	連合農学研究科	留学生センター	合 計	連合獣医学研究科
大学院 博士(博士後期)	4			3②						3②	1
” ”	3	2	4①	4②	2①			27⑪		39⑮	2②
” ”	2		3②	7⑥	3②			22⑨		35⑱	1①
” ”	1	1	2①	6③	5			20⑩		34⑯	2②
” 修士(博士前期)	2	5	6	1	4	3	5③			24③	
” ”	1	5	5	3①	2	7	10②			32③	
学 部	6			1						1	
”	5			3						3	
”	4	1①	1	2	3①					8②	
”	3	1	2①	2	6①	2	2			15②	
”	2	1	1①	5	5					12①	
”	1	2	1	3	11		1			18	
研 究 生	5	2①	1	2	2	2			2②	16③	
科 目 等 履 修 生											
特 別 研 究 学 生				1		3				4	
特 別 聴 講 学 生	17	10①	1		2	1	2			33①	
日 本 語 研 修 コ ー ス 生											
合 計	40①	25②	16⑥	42⑭	45⑤	18	20⑤	69⑳	2②	277㉟	6⑤

※塗りつぶしは内数で国費留学生(日韓共同理工系学部留学生含む)を示す。

※大学院連合農学研究科69名の内訳: 鹿大35⑱ 佐大22⑥ 琉大12⑥ (○内は国費留学生を示す。)



## ■経費種別

(平成23年5月1日現在)

種 別	国 費		日韓共同理工系		外国政府派遣		私 費		合 計
	大学院生	学部学生	学部学生	研究生	学部学生	学部学生	学部学生	研究生等	
国 費 留 学 生	57 (29)	4		1			1 (1)	2 (1)	65 (31)
日韓共同理工系学部留学生		1 (1)							1 (1)
外国政府派遣留学生	9 (4)	7 (4)							16 (8)
鹿児島県費留学生				2 (2)					2 (2)
私 費 留 学 生	101 (48)	45 (20)		11 (5)		4 (3)	32 (25)		193 (101)
計	167 (81)	57 (25)		14 (7)		4 (3)	33 (26)	2 (1)	277 (143)
連合獣医学研究科									
国 費 留 学 生	5								5
私 費 留 学 生	1								1

(注) ( )は女子を内数で示す。

## ■学部別

(平成23年5月1日現在)

学 部	国 費		日韓共同理工系		外国政府派遣		私 費		合 計
	学部学生	研究生等	学部学生	学部学生	学部学生	学部学生	学部学生	研究生等	
法 文 学 部	1				2 (1)		2 (2)	16 (11)	21 (14)
教 育 学 部		2 (1)			1 (1)		1 (1)	9 (7)	13 (10)
理 学 部	1		1 (1)				3 (3)	1 (1)	6 (5)
医 学 部							9 (4)		9 (4)
歯 学 部							6 (1)		6 (1)
工 学 部	2				4 (2)		19 (4)	4 (1)	29 (7)
農 学 部							2 (2)	3 (2)	5 (4)
水 産 学 部							3 (3)	2 (1)	5 (4)
合 計	4	2 (1)	1 (1)		7 (4)		45 (20)	35 (23)	94 (49)

(注) ( )は女子を内数で示す。

## ■大学院別

(平成23年5月1日現在)

研 究 科	国 費			外国政府派遣			私 費			合 計
	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	
人文社会科学研究科							10 (2)	3 (1)	6 (6)	19 (9)
教育学研究科							11 (10)		1 (1)	12 (11)
医歯学総合研究科		13 (9)					2 (1)	7 (3)	1 (1)	23 (14)
保健学研究科	1 (1)						1 (1)		2 (2)	4 (4)
理工学研究科		7 (3)			3 (1)		6	9 (5)	1	26 (9)
農学研究科							10 (10)		3 (2)	13 (12)
水産学研究科	5 (2)						10 (4)			15 (6)
連合農学研究科		31 (14)			6 (3)			32 (11)		69 (28)
合 計	6 (3)	51 (26)			9 (4)		50 (28)	51 (20)	14 (12)	181 (93)
連合獣医学研究科		5						1		6

(注) ( )は女子を内数で示す。

## ■学内共同教育研究施設別

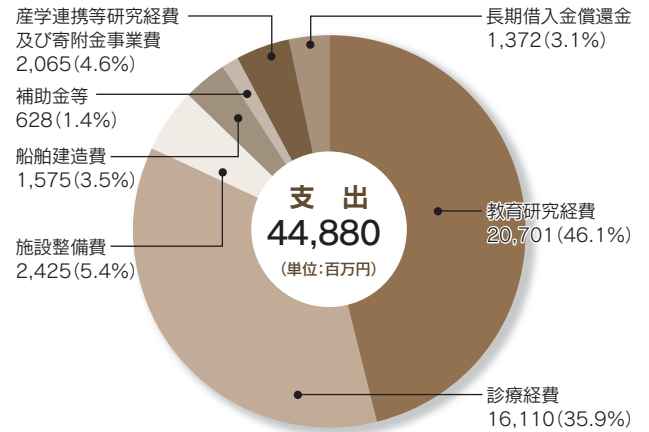
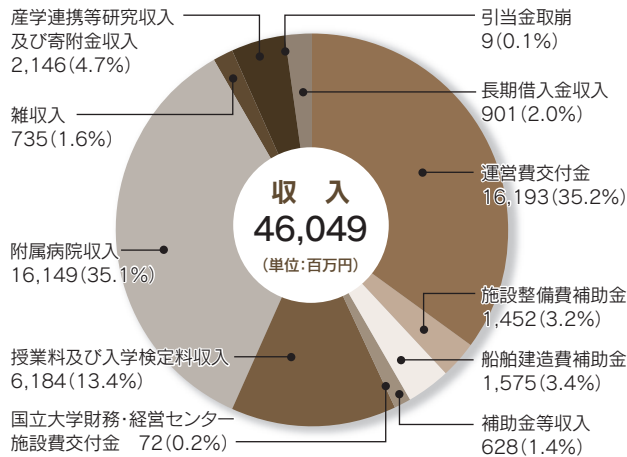
(平成23年5月1日現在)

学内共同教育研究施設	国 費			日韓共同理工系		私 費			合 計
	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	学部学生	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	
留学生センター			2 (1)						2 (1)
合 計			2 (1)						2 (1)

(注) ( )は女子を内数で示す。

※ 山口大学連合獣医学研究科は外数。

■平成22年度収入・支出決算額



(単位:百万円)

収入	金額
運営費交付金	16,193
施設整備費補助金	1,452
船舶建造費補助金	1,575
補助金等収入	628
国立大学財務・経営センター施設費交付金	72
授業料及び入学検定料収入	6,184
附属病院収入	16,149
雑収入	735
産学連携等研究収入及び寄附金収入	2,146
引当金取崩	9
長期借入金収入	901
合計	46,049

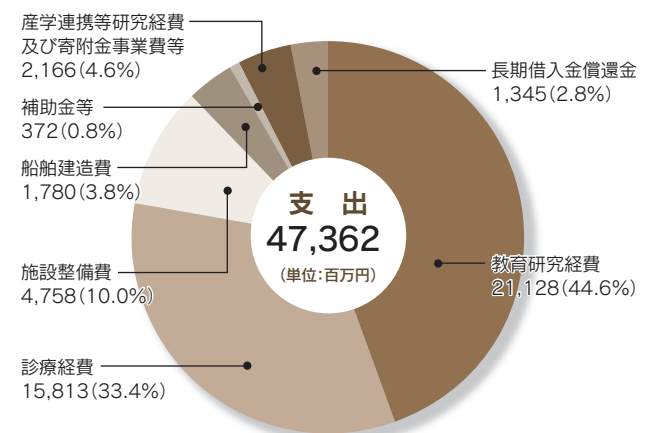
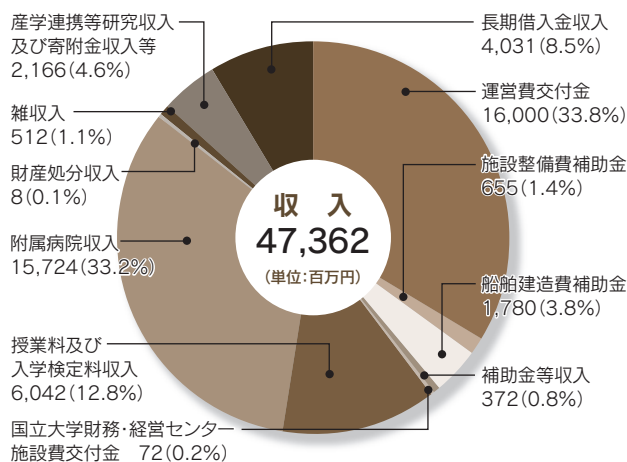
(注)百万円未満切捨てにより作成。

(単位:百万円)

支出	金額
教育研究経費	20,701
診療経費	16,110
施設整備費	2,425
船舶建造費	1,575
補助金等	628
産学連携等研究経費及び寄附金事業費	2,065
長期借入金償還金	1,372
合計	44,880

(注)百万円未満切捨てにより作成。

■平成23年度予算



(単位:百万円)

収入	金額
運営費交付金	16,000
施設整備費補助金	655
船舶建造費補助金	1,780
補助金等収入	372
国立大学財務・経営センター施設費交付金	72
授業料及び入学検定料収入	6,042
附属病院収入	15,724
財産処分収入	8
雑収入	512
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,166
長期借入金収入	4,031
合計	47,362

(単位:百万円)

支出	金額
教育研究経費	21,128
診療経費	15,813
施設整備費	4,758
船舶建造費	1,780
補助金等	372
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,166
長期借入金償還金	1,345
合計	47,362

## ■文部科学省科学研究費補助金

【種目別採択状況(平成23年度)】

(単位:千円)

研究種目	件数	金額	研究種目	件数	金額
基盤研究(S)	0	0	挑戦的萌芽研究	33	47,600
基盤研究(A)	3	27,700	若手研究(A)	1	5,300
基盤研究(B)	54	240,100	若手研究(B)	97	124,500
基盤研究(C)	230	264,400	研究活動スタート支援 (~H21若手研究スタートアップ)	1	1,090
特定領域研究	1	1,500			
新学術領域研究	0	0	合計	420	712,190

【学部等別採択状況】

(単位:千円)

学部等	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
学内共同教育研究施設等	10	38,100	15	34,200	18	36,500
法文学部	25	37,600	27	38,400	25	31,000
教育学部	19	27,480	17	19,100	21	14,400
大学院理工学研究科(理学系) (~21.3理学部)	18	22,000	26	34,180	35	68,700
医学部	15	19,000	12	14,200	14	16,900
医学部・歯学部附属病院	47	75,800	52	66,340	59	80,690
大学院理工学研究科(工学系) (~21.3工学部)	47	105,800	49	79,000	50	114,900
農学部	35	69,400	34	60,410	39	64,600
水産学部	7	8,100	11	15,210	12	13,300
大学院医歯学総合研究科	110	233,590	121	202,000	143	267,600
大学院司法政策研究科	1	700	1	500	2	1,000
大学院臨床心理学研究科 (~19.3大学院人文社会科学研究科)	1	1,400	1	1,400	1	1,900
大学院連合農学研究科	1	1,000	1	2,300	1	700
合計	336	639,970	367	567,240	420	712,190

(注)件数及び金額は、研究計画調書提出時の所属部局で計上。

## ■厚生労働科学研究費補助金

(単位:千円)

研究事業名	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
障害者対策総合研究事業 (~H21こころの健康科学研究事業)	2	26,000	2	44,000 (4,500)		
創薬基盤推進研究事業					2	14,800 (4,440)
医療機器開発推進研究事業 (~H22低侵襲・非侵襲医療機器(ナノテクノロジー)研究事業)	1	29,743 (8,922)	1	33,250 (9,975)	1	35,000 (10,500)
基礎研究成果の臨床応用推進研究事業						
第3次対がん総合戦略研究事業	1	24,750	1	15,000 (4,144)	1	12,928 (3,572)
難治性疾患克服研究事業	2	70,000 (19,500)	1	60,000 (18,000)	2	105,652 (24,848)
合計	6	150,493 (28,422)	5	152,250 (36,619)	6	168,380 (43,360)

(注)下段( )書きは、間接経費で外数

## ■奨学寄附金

(単位:千円)

学 部 等	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
事 務 局	13	1,465	16	9,790	11	14,650
学内共同教育研究施設	44	40,781	42	47,239	32	79,087
法文学部・臨床心理学研究科	15	6,573	15	4,363	15	6,077
教育学部(附属学校含む)	19	17,401	18	13,309	31	10,118
理 学 部	27	23,677	4	8,070	0	0
医学部・保健学研究科	33	13,052	28	12,068	20	7,984
歯 学 部	1	100	20	3,100	0	0
工 学 部	144	149,087	-	-	-	-
理 工 学 研 究 科	-	-	126	159,698	134	122,928
農 学 部	167	412,840	131	142,292	96	94,648
水 産 学 部	19	14,202	22	16,624	32	32,465
医 歯 学 総 合 研 究 科	882	864,027	879	886,177	942	949,984
医学部・歯学部附属病院	127	98,549	267	161,202	138	80,459
合 計	1,491	1,641,759	1,568	1,463,937	1,451	1,398,405

- (注) 1. 件数、金額には、平成20年度…148件、503,246,761円 平成21年度…133件、258,914,296円 平成22年度…134件、194,121,371円の現物寄附を含む。  
 2. 千円未満切捨てにより作成。  
 3. 工学部における平成20年度の件数、金額には理工学研究科を含み、理工学研究科における平成21年度及び平成22年度の件数、金額には工学部を含む。

## ■受託研究

(単位:千円)

学 部 等	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
事 務 局	2	53,609	1	3,000	1	9,000
学内共同教育研究施設等	4	24,169	6	21,021	5	4,055
法 文 学 部			1	200		
教 育 学 部			5	15,712	4	13,877
理 学 部	12	92,170	1	15,980		
医学部・保健学研究科					1	973
歯 学 部						
工 学 部	138	76,779	107	31,719	156	6,484
(うち、受託試験)	122	6,097	106	4,419	155	3,334
理 工 学 研 究 科	4	16,458	31	235,247	31	167,944
農 学 部	368	184,973	372	156,463	377	79,686
(うち、動物病理組織検査)	323	4,801	336	5,148	349	5,476
水 産 学 部	23	52,084	17	37,472	23	51,693
医 歯 学 総 合 研 究 科	198	273,157	179	292,935	180	205,297
(うち、病理組織検査)	157	36,515	131	41,159	132	44,779
医学部・歯学部附属病院	152	119,497	165	100,440	148	72,551
(うち、医薬品等の臨床研究)	134	99,623	150	90,350	136	66,890
合 計	901	892,900	885	910,193	926	611,562
(うち受託試験・病理組織検査・臨床研究等)	736	147,037	723	141,077	772	120,480

(注)千円未満切捨てにより作成。

## ■共同研究

(単位:千円)

学 部 等	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
事 務 局	1	0	1	0	1	0
学内共同教育研究施設等	3	1,800	3	1,800	7	3,616
法 文 学 部	-	-	2	3,701	1	1,921
教育学部(附属学校含む)	2	3,287	0	0	1	400
理 学 部	8	1,771	9	6,602	11	6,993
医学部・歯学部附属病院	3	0	3	1,540	4	0
医 歯 学 総 合 研 究 科	26	33,931	25	23,672	17	14,287
工 学 部	62	110,670	59	97,234	57	66,241
農 学 部	31	40,442	31	35,680	29	36,294
水 産 学 部	13	10,123	14	9,655	17	20,904
合 計	149	202,024	147	179,884	145	150,656

- (注) 1. 上記額は、契約金額ベースで集計。  
 2. 共同研究契約については、金額の受入がない契約もあり。(必要な経費は各機関で措置する。)  
 3. 千円未満四捨五入により作成。



■土地・建物・船舶

(平成23年5月1日現在)

区 分	土 地(m <sup>2</sup> )	建 物(延面積m <sup>2</sup> )			備 考(単位:m <sup>2</sup> )	
		木 造	非木造	計		
郡元地区	事務局	233,630 (22)	33	9,573	9,606	
	保健管理センター			561	561	
	附属図書館			12,703	12,703	
	法文学部			6,930	6,930	
	理学部			13,841	13,841	
	工学部			40,008	40,008	
	農学部		169	34,016	34,185	
	共通教育			19,008	19,008	
	その他			10,705	10,705	
教育学部	118,265	690	42,287	42,977		
小計	351,895 (22)	892	189,632	190,524		
桜ヶ丘地区	医学部	218,726 (2)		21,992	21,992	看護師宿舎 (土地4,431 建物4,127)
	歯学部			3,115	3,115	
	医歯学総合研究科			33,665	33,665	
	医学部・歯学部附属病院			69,958	69,958	
	附属図書館			1,978	1,978	
	フロンティアサイエンス研究推進センター			4,381	4,381	
	亀ヶ原総合グラウンド			52	52	
	桜ヶ丘寄宿舎			3,122	3,122	
小計	218,726 (2)		138,263	138,263		
下荒田地区	水産学部地区	49,514	93	12,089	12,182	宿舎 (土地3,383 建物2,028)
	国際交流会館(1号館)			1,430	1,430	
	国際交流会館(2号館)			1,259	1,259	
	外国人研究者宿泊施設			686	686	
小計	49,514	93	15,464	15,557		
および建物	唐湊寄宿舎	24,391		5,694	5,694	宿舎(土地2,714 建物820)
	唐湊果樹園	72,682		1,207	1,207	
	唐湊林園	9,958	19		19	
	寺山自然教育研究施設	300,855		885	885	
	教育学部附属特別支援学校	16,776	460	3,078	3,538	
	桜島火山観測点	298		31	31	
	霧島リハビリテーションセンター	15,426 (123)	6	4,415	4,421	
	高隈演習林	30,617,710		1,431	1,431	
	佐多演習林	2,974,908		40	40	
	入来牧場	1,478,451 (25)	178	3,859	4,037	
	垂水実験地	4,623	68		68	
	桜島熔岩実験場	372,714				
	指宿植物試験場	40,909	313	2,047	2,360	
	東町ステーション	16,902		1,183	1,183	
	鴨池臨海地	4,990 (94)		2,150	2,150	
	職員会館及び外国人宿泊施設	955		711	711	
	磯艇庫	408 (202)		243	243	
	谷山ふ頭	(776)				
	平川艇庫	(595)		208	208	
	甌島観測点	(49)		24	24	
	伊集院観測点	(7)				
	屋久島観測点	(114)		40	40	
	串間観測点	(58)		58	58	
	紫尾観測点	(58)		58	58	
	黒島観測点	(58)		58	58	
	佐多観測点	(58)		11	11	
	高岡観測点	(106)		40	40	
吉松観測点	(47)					
田代観測点	(6)					
その他	(283)		598	598		
小計	35,952,956 (2,659)	1,044	28,069	29,113		
合計	36,573,091 (2,683)	2,029	371,428	373,457	宿舎(土地35,983 建物22,382)	

(注) 1. 土地欄( )内数量は借用地  
2. 各地区土地及び建物数量には備考欄宿舎の数量は含まない。

船名	トン数(トン)	機関	馬力	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	建造年月日
かごしま丸	1,297.08	ディーゼル	2,200	62.70	12.60	5.45	昭和56年10月30日
南星丸	175.00	〃	1,800	34.20	7.50	3.30	平成14年11月28日

## インフォメーションセンター

インフォメーションセンターは、一般市民、受験生や企業の方々との交流拠点として平成19年4月、正門に付設された。鹿児島大学の教育・研究・社会貢献活動の概要の紹介、各種イベント等の案内、研究成果物の展示を行っている。スタッフが常駐し、市民が利用できる施設の案内、学部・研究科等の概要や広報誌等の配布、入試問題の閲覧、大学オリジナルグッズの販売を行うほか、大学紹介DVD等の視聴が可能。



開館時間	月～金曜日 (祝祭日等除く)	9:00～17:30
------	-------------------	------------

主な 販売物	大学オリジナルグッズ(エコバック、クリアファイル、ボールペン、シャープペン、ブックカバー、キーホルダー、ペンケース、ネクタイピン、バッジ)、びわ茶(ティーバッグ、ペットボトル、サプリメント)、竹炭ボードフォトフレーム、竹炭押し花、竹炭ブロック、DVD(北辰斜にさすところ)、CD(鹿児島大学 寮歌・学部歌 歌集)、「飛魚の雫」、鹿大ブランド焼酎(「春秋謳歌」、「きばいやんせ」、「天翔宙」)、屋久杉盆、屋久杉ハガキ、附属農場・教育学部実習地生産物(野菜・穀類・果物等)
主な 展示物	水産学部ツナ缶詰、ポストカード、鹿大ロゴ入り焼酎栓「とめもんそ」(教育学部技術科制作)



▲大学オリジナルグッズ



▲びわ茶



▲大学ブランド焼酎

## 歴史展示室

鹿児島大学歴史展示室は、開学60周年を記念して平成21年11月に中央図書館1階に設置された。同室は、本学の源流である藩学「造士館」(1773年創立)及び医学院(1774年創立)から、現在の鹿児島大学の前身である第七高等学校造士館や鹿児島高等農林学校などを含めた237年の歴史を紹介している。また、第七高等学校造士館時代の寮報やのぼり、鹿児島高等農林学校時代の学生が残した卒業論文、昭和40年代に使われた計算尺など、約20点を展示している。



開館時間	月～金曜日	8:30～21:30
	土・日曜日	10:00～18:00
休館日	国民の祝日 年末年始等(12月27日～1月3日)	





## 総合研究博物館常設展示室（国有形登録文化財）

鹿児島大学では数多くの学術資料が蓄積されている。総合研究博物館常設展示室はその学術資料を展示公開するための施設である。

建物は昭和3(1928)年に鹿児島高等農林学校の図書館書庫として建てられたもので、当初の雰囲気を残しながら改装して開設している。初期の鉄筋コンクリート建物で、また学校施設としても最も古いものであることが評価され、国の登録文化財としての認定も受けている。

現在、展示室では鹿児島大学の歴史にかかわる考古学資料・教育研究史資料、鹿児島の自然史にかかわる化石・鉱石資料を中心に展示を行っており、観覧は学内外に関係なく自由に利用できる生涯学習施設としての役割も果たしている。



▲常設展示室外観



▲展示室内

開館時間	午前10時～午後5時
観覧料	無料
休館日	毎週月曜日・日曜日・祝日・年末年始

## 稲盛会館

稲盛和夫京セラ(株)名誉会長から寄贈されたもので、教育および学術の交流の場として本学の職員その他の関係者の利用に供することにより、本学の教育・研究の進展に資するとともに、学術および文化の向上に寄与することを目的としている。



キミ&ケサ メモリアルホール  
(稲盛名誉会長のご両親の名前に由来)



日本を代表する著名な建築家 安藤忠雄氏の設計  
(地下1階～地上3階建、建面積810.40㎡、延面積1,628.85㎡ 平成6年10月竣工)

## 植物園

鹿児島大学植物園は、明治42(1909)年鹿児島高等農林学校の開校に際し、初代校長玉利喜造の命により計画された。そして10年後の大正8(1919)年頃、約1ヘクタールの分類式花壇として完成した。第二次世界大戦の戦災によって壊滅的な被害を受けたが、戦後まもなく学生や教職員の手により整備が図られた。この頃から「林園」と呼称され、農学部林学科(現・森林科学コース)学生の樹木実習の場として利用されてきた。この間、初島住彦教授らにより主に南西諸島の樹木の植え込み、整備が行われ、現在の植物園の特色が形づくられた。

植物園には南九州の植物や南西諸島固有の植物、そして戦前に植栽された北アメリカなどの外国産の樹木も多数植栽されている。樹木の種類は昭和54(1979)年の調査では659種が確認されている。その後も定期的な樹木の調査や位置図の作成、映像記録の蓄積等が行われ、平成16年にはこれらの記録をまとめて「鹿児島大学植物園の樹木たち」が刊行された。植物園には、豊富な樹種を目当てに種々の渡り鳥たちが集い、地域の方々も散歩や自然観察に訪れている。キャンパス内の緑のオアシスには是非足を運んでいただきたい。



## 大学会館

大学会館は、学生相互ならびに学生と職員間の人間関係を緊密にし、かつ、学生の教養を高め、豊かな人間性・社会性を涵養するための課外教育活動を盛んにし、また、その厚生福祉に寄与することを目的に、1号館が昭和47(1972)年3月、2・4号館が昭和36(1961)年5月、3号館が昭和37(1962)年8月に設置された。

開館時間は午前9時から午後9時まで、休館日は日曜日・祝日および12月29日から翌年1月3日までとなっている。



建物名称	階別	施設名	用途等
1号館 (1,409㎡)	1	軽食堂	喫茶、食事 (52席)
		理髪室	理髪 (3台)
	2	共用談話室	休憩、談話 (48人)
		音楽鑑賞室	音楽鑑賞 (51人)
	3	会議室(1・2)	会議、研究会等(42人・20人)
		和室(1~5)	会議および邦楽、茶道・華道等の練習
	4	ホール	音楽会、講演会、研究会等(300人)
音楽練習室(1・2)		音楽等練習	
2号館 (779㎡)	1	小集会室	会議、展示会等
		サークル連絡室	サークル活動
	2	サークル連絡室	サークル活動
3号館 (422㎡)	1	大集会室	音楽会、講演会、映画会、研究会等(500人)
4号館(448㎡)	1	中央店	書籍、日用品等の購売

## 課外活動施設

課外活動(サークル)は、大学教育における人間形成の上で必要不可欠であり、各キャンパス毎に課外活動施設を有している。体育系サークルが利用する体育施設、文化系サークルが主に利用する大学会館(1~3号館)以外に、平成14年3月に設置された課外活動共用施設などがある。

課外活動共用施設は、サークル間の交流・連携の場(学生の交流プラザ)としての中庭を囲むようにして、防音設備完備の音楽練習室、シャワー室、共用ラウンジ、共用ミーティング室およびサークル室等を配置し、文化系、体育系合わせて90サークルが使用している。

施設名	所在地	備考
課外活動共用施設	郡元地区	文化系・体育系サークル
馬房(厩舎)	郡元地区	馬術
平川艇庫	平川町海岸	ヨット
磯艇庫	磯海岸	ボート
鴨池艇庫	鴨池臨海地	カッター



課外活動共用施設  
(サークル棟)

## 体育施設(体育館等)



施設名	所在地	備考
陸上競技場	郡元地区	400mトラック、夜間照明あり
球技場	〃	夜間照明あり
亀ヶ原運動場	桜ヶ丘地区	野球場
桜ヶ丘グラウンド	〃	サッカー・ラグビー場
テニスコート	郡元地区	8面、夜間照明あり
〃	桜ヶ丘地区	7面
第1体育館	郡元地区	1,122㎡
第2体育館	〃	2,461㎡
桜ヶ丘体育館	桜ヶ丘地区	1,072㎡
武道館	郡元地区	391㎡
医・歯学部課外活動施設(武道場)	桜ヶ丘地区	451㎡
弓道場	郡元地区	39m×14m
〃	桜ヶ丘地区	38m×12m
室内プール	郡元地区	50m(7コース)



## 食 堂



中央食堂



郡元南食堂

施設名	延面積	席数	所在地
中央食堂	1,347㎡	510席	郡元地区
軽食堂(ガロア)	121㎡	50席	郡元地区
郡元南食堂	882㎡	190席	郡元地区
桜ヶ丘会館	417㎡	190席	桜ヶ丘地区
水産学部食堂	350㎡	120席	下荒田地区

## 学生寮



棟名	区分	面積(㎡)	延面積(㎡)	収容定員(人)
唐湊寄宿舍	A棟	鉄筋5階建	1,412	76
	B棟	〃	1,568	92
	C棟	鉄筋2階建	629	64
	女子寮	鉄筋4階建	1,600	81
	共用棟	鉄筋1階建	317	
桜ヶ丘寄宿舍		鉄筋5階建	2,696	99
合 計			8,222	412

## 国際交流会館

国際交流会館は、鹿児島大学の外国人留学生および本学において教育・研究に従事する外国人研究者に対し居住の場を提供し、国際交流の促進に資



することを目的に1号館が昭和54(1979)年4月に、2号館が平成6年10月に設置された。

(1号館)

室名	面積(㎡)	室数
単身室	12	35室
夫婦室	39	3室
家族室	59	2室
主事室	14	
事務室	16	
談話室	47	
娯楽室	94	
和室	25	
補食室	5~12	4室
浴室	5~8	4室
洗濯室	10	4室
管理人室	52	
倉庫	7	

備考:延面積/1,430㎡ 建物構造/RC4

(2号館)

室名	面積(㎡)	室数
単身室	12	30室
夫婦室	40	6室
家族室	56	4室
補食室	11	4室
洗濯・シャワー室	11	4室
ラウンジコーナー	49	
応接コーナー	14	

備考:延面積/1,259㎡  
建物構造/R4

## 外国人研究者宿泊施設

鹿児島大学を訪問する外国人研究者のための宿泊施設であり下荒田キャンパスに3棟、計22室の単身室がある。A棟は、鹿児島大学創立50周年記念事業の一環で寄付され、平成15年12月に完成した(鉄骨造地上2階、延床面積502㎡、計16室)。また、平成21年度からは共同研究終了後に譲渡された建物をB棟・C棟として新たに使用開始した(薄板軽量形鋼造地上2階、延床面積185.48㎡、計6室)。



# 郡元キャンパス

- 法文学部      理工学研究科
- 教育学部      司法政策研究科
- 理学部        臨床心理学研究科
- 工学部        連合農学研究科
- 農学部

- 1 北辰通り(大正4年第七高等学校第14回記念祭歌「北辰斜に」に由来)
- 2 銀杏並木通り
- 3 稲盛通り(稲盛和夫京セラ名誉会長の寄贈の稲盛会館に由来)
- 4 田園通り(附属農場越しに校島が望めます。)
- 5 みのりの小径
- 6 本部前・緒方通り(初代学長 緒方健三郎氏に由来)
- 7 植物園通り
- 8 ふれあい通り
- 9 教育学部通り
- 10 玉利通り(鹿児島高等農林学校初代校長 玉利喜造博士に由来)
- 11 工学部通り
- 12 理学部通り
- 13 森の小径
- 14 法文学部通り

- 1 インフォメーションセンター
- 2 事務局
- 3 保健管理センター
- 4 事務局車庫、埋蔵文化財調査室
- 5 農学部共通棟(管理室・講義室・学生実験室・セミナー室)
- 6 // 研究棟 A(獣医学科実験研究室)
- 7 // 研究棟 B(獣医学科実験研究室)
- 8 // 研究棟 C(生物資源化学科実験研究室)
- 9 // 研究棟 D(生物生産学科・生物資源化学科・生物環境学科実験研究室)
- 10 農学部研究棟 E(生物環境学科・附属演習林実験研究室)
- 11 // 附属動物病院
- 12 軽種馬診療センター
- 13 焼酎・発酵学教育研究センター(北辰蔵)
- 14 農学部温室
- 15 農学部植物研究実験施設(温室)
- 16 // (硝子室)
- 17 農学部附属農場動物飼育棟
- 18 // 附属農場研究実習棟
- 19 // 低温貯蔵実験棟
- 20 // 水理実験棟
- 21 // 昆虫飼育棟
- 22 共同利用棟(獣医学科実験研究室)
- 23 遺伝子実験施設(フロンティアサイエンス研究推進センター)
- 24 RI 実験施設(アイソトープ総合実験室)
- 25 馬術部馬房
- 26 連合農学研究科棟
- 27 総合研究博物館展示棟(常設展示室)
- 28 大学会館(3号館)
- 29 // (1・2・4号館)
- 30 中央食堂
- 31 産学官連携推進機構棟 1
- 32 産学官連携推進機構棟 2(ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー)
- 33 学術情報基盤センター
- 34 変電所
- 35 工学部情報工学科棟
- 36 // 中央実験工場
- 37 // 電気電子工学科棟
- 38 // 建築学科棟



- 39 工学部応用化学工学科 1号棟
- 40 // 機械工学科第一実験棟
- 41 // 機械工学科第二実験棟
- 42 // 機械工学科第三実験棟
- 43 // 機械工学科 2号棟
- 44 // 機械工学科 1号棟
- 45 // 応用化学工学科 2号棟
- 46 // 薬品庫
- 47 // 海洋波動実験棟
- 48 稲盛会館
- 49 工学系講義棟
- 50 倉庫
- 51 工学部海洋土木工学科棟
- 52 // 共通棟(生体工学科)
- 53 理工系総合研究棟(フロンティアサイエンス研究推進センター・機器分析室)
- 54 理学部 1号館(管理室・物理科学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)・理系先端研究棟
- 55 理学部 2号館(数理情報科学科・生命化学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)
- 56 理学部 3号館(生命化学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)
- 57 総合研究博物館
- 58 共通教育棟 1号館(管理室・講義室・教育センター・就職支援センター・留学生センター・生涯学習教育研究センター・ボランティア支援センター)
- 59 // 2号館(文科研究室・講義室)
- 60 稲盛アカデミー棟
- 61 共通教育棟 3号館(理科研究室・講義室・実験室・放送大学視聴室)
- 62 // 4号館(理科研究室・講義室・実験室)
- 63 中央図書館
- 64 総合教育研究棟(国際島嶼教育研究センター・司法政策研究科・臨床心理学研究科)
- 65 法文学部 1号館(管理・研究・講義棟)





- 66 法学部 2号館 (講義棟)
- 67 // 3号館 (講義棟)
- 68 課外活動共用施設 1 (サークル棟)
- 69 屋内プール 50m
- 70 弓道場
- 71 課外活動共用施設 2 (サークル棟)
- 72 第一体育館
- 73 第二体育館
- 74 教育学部体育科実験研究棟
- 75 // 武道場
- 76 郡元南食堂
- 77 教育学部管理棟・理系研究棟
- 78 // 実習棟
- 79 // 第一講義棟
- 80 生涯教育総合研究棟・第二講義棟
- 81 // 文系研究棟
- 82 // 附属教育実践総合センター
- 83 // 音楽美術科棟
- 84 // 附属幼稚園
- 85 // 附属小学校
- 86 附属小学校家畜舎
- 87 // 附属小学校昆虫飼育棟
- 88 // 附属小学校体育館
- 89 // 附属中学校
- 90 // 附属中学校体育館



キャンパス



# 桜ヶ丘キャンパス

医学部  
 歯学部  
 医歯学総合研究科  
 医学部・歯学部附属病院



- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医学部臨床講義棟</li> <li>② 医歯学総合研究科棟3(臨床医学系)</li> <li>③ // ④(新臨床医学系)</li> <li>④ 難治ウイルス病態制御研究センター</li> <li>⑤ 医歯学総合研究科棟2(基礎医学系)</li> <li>⑥ 医歯学総合研究科棟5</li> <li>⑦ RI実験施設</li> <li>⑧ 動物実験施設<br/>(フロンティアサイエンス研究推進センター)</li> <li>⑨ 福利厚生施設(桜ヶ丘会館)</li> <li>⑩ 学生宿舎</li> <li>⑪ 医学部・歯学部附属病院看護師宿舎</li> <li>⑫ // 附属病院医科病棟</li> <li>⑬ // 附属病院医科診療棟</li> <li>⑭ // 附属病院管理棟</li> <li>⑮ 医学部基礎講義実習棟</li> <li>⑯ 医歯学総合研究科共同利用研究棟</li> <li>⑰ 中央機械棟</li> <li>⑱ ポンプ室</li> <li>⑲ 附属図書館桜ヶ丘分館</li> <li>⑳ サークル棟</li> <li>㉑ 実験廃液処理施設</li> <li>㉒ 医学部・歯学部附属病院歯科診療棟・病棟</li> <li>㉓ 医歯学総合研究科棟1(歯学系)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>㉔ 歯学部講義実習棟</li> <li>㉕ 桜ヶ丘体育館</li> <li>㉖ 体育器具庫</li> <li>㉗ 医学部保健学科研究棟</li> <li>㉘ 共通教育棟</li> <li>㉙ MRI-CT装置棟</li> <li>㉚ 医療情報施設</li> <li>㉛ 鶴陵会館</li> <li>㉜ 桜ヶ丘武道場</li> <li>㉝ 弓道場</li> <li>㉞ 患者用立体駐車場</li> <li>㉟ さくらっ子保育園</li> <li>㊱ 中央診療棟</li> <li>㊲ 救急集中治療棟</li> <li>㊳ レジデントハウス</li> </ul> |
|---|--|





# 下荒田キャンパス

水産学部



- ① 水産学部1号館(管理・研究棟)
- ② // 2号館(食品資源利用科学棟)
- ③ // 3号館(食品資源利用科学実習棟)
- ④ // 5号館(資源育成科学棟)
- ⑤ // 6号館(福利厚生棟)  
(1F:食堂・売店、2F:附属海洋資源環境教育研究センター)
- ⑥ 実験・実習支援棟
- ⑦ 水産学部4号館(講義棟)
- ⑧ 大型回流水槽実験棟
- ⑨ 変電室
- ⑩ 車庫・倉庫
- ⑪ 倉庫
- ⑫ サークル棟
- ⑬ 附属図書館水産学部分館
- ⑭ 国際交流会館(1号館)
- ⑮ // (2号館)
- ⑯ 職員宿舎
- ⑰ 外国人研究者宿泊施設A
- ⑱ 外国人研究者宿泊施設B
- ⑲ 外国人研究者宿泊施設C

# 教育学部附属特別支援学校

下伊敷1丁目



- ① 校舎
- ② 体育館
- ③ 生活訓練棟
- ④ 水遊び場(プール)

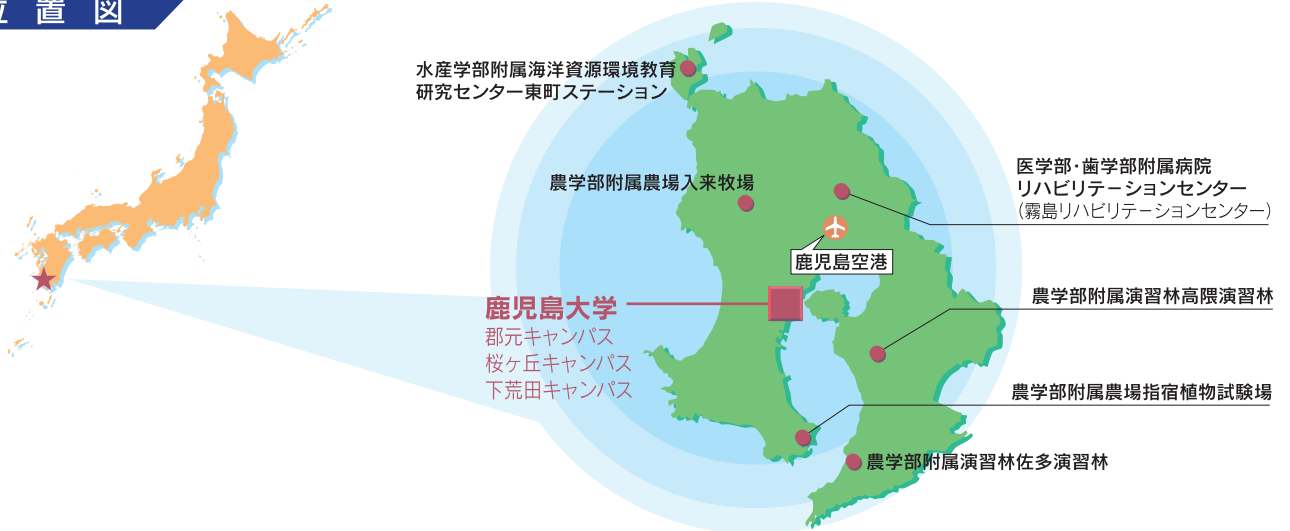
# 学生寮

唐湊3丁目



- ① 男子寄宿舎A棟
- ② // B棟
- ③ // C棟
- ④ 女子寄宿舎
- ⑤ 共用棟

位置図



■鹿児島市へのアクセス 鹿児島空港から 鹿児島空港リムジンバスで鹿児島中央駅まで約40分

鹿児島市内交通アクセス

1 郡元キャンパス

- |              |                     |
|--------------|---------------------|
| 事務局          | 附属図書館               |
| 法学部          | 保健管理センター            |
| 教育学部         | 産学官連携推進機構           |
| 附属幼稚園        | 国際島嶼教育研究センター        |
| 附属小学校        | フロンティアサイエンス研究推進センター |
| 附属中学校        | 総合研究博物館             |
| 附属教育実践総合センター | 稲盛アカデミー             |
| 理学部          | 留学生センター             |
| 工学部          | 学術情報基盤センター          |
| 農学部          | 生涯学習教育研究センター        |
| 理工学研究科       | 教育センター              |
| 司法政策研究科      | 埋蔵文化財調査室            |
| 臨床心理学研究科     | インフォメーションセンター       |
| 連合農学研究科      | ボランティア支援センター        |

市電

- 1系 騎射場電停下車
- 2系 唐湊電停下車
- 工学部前電停下車

市営バス <鹿児島中央駅経由> ※番号は系統を表す

- 鹿大正門前下車または、法学部前下車
- 9 武岡・鴨池港線 11 鴨池・冷水線 20 緑ヶ丘・鴨池港線

徒歩

鹿児島中央駅から電車通り沿いに歩いて約25分

2 桜ヶ丘キャンパス

- 医学部 歯学部 大学院医歯学総合研究科
- 大学院保健学研究科 医学部・歯学部附属病院

市電

- 1系 脇田電停下車 ※シャトルバス有り

市営バス <鹿児島中央駅経由> ※番号は系統を表す

- 大学病院前下車 18 大学病院線

鹿児島交通 <鹿児島中央駅経由> ※番号は系統を表す

- 大学病院前下車 17 18 19 桜ヶ丘方面

JR <指宿枕崎線>

- 宇宿駅下車 ※シャトルバス有り

3 下荒田キャンパス

- 水産学部

市電

- 1系 騎射場電停下車 徒歩約10分

市営バス <鹿児島中央駅経由> ※番号は系統を表す

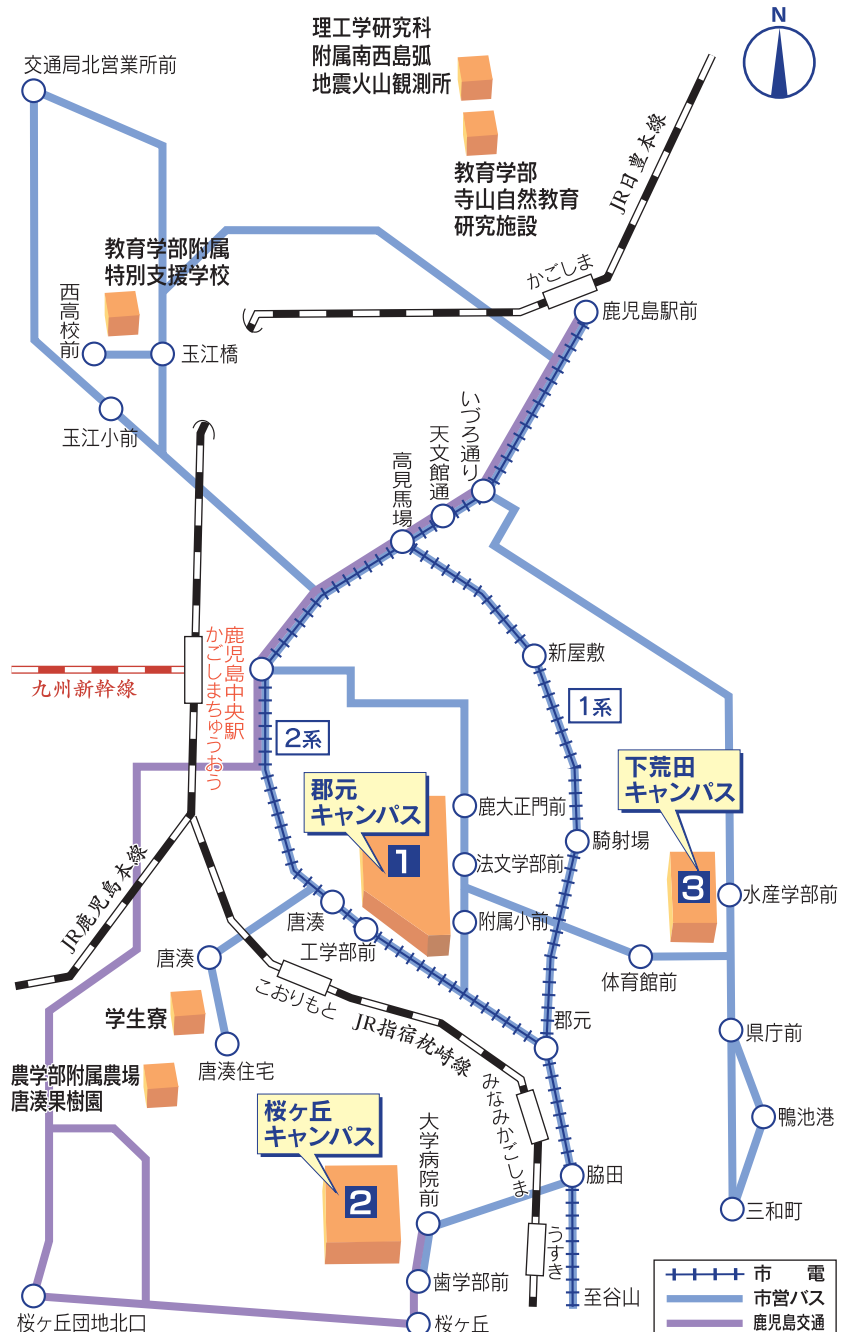
- 体育館前下車 徒歩約5分

- 11 鴨池・冷水線 18 大学病院線

水産学部前下車

- 27 県庁・与次郎線 12 海岸線

- 31 玉里・三和町線 32 城山・三和町線



++++ 市電  
 —— 市営バス  
 —— 鹿児島交通

キャンパス

## ●所在地一覧●

【事務局】	〒890-8580	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
【法文学部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
【教育学部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表)
附属幼稚園	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7990
附属小学校	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7962
附属中学校	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番35号	☎099(285)7932
附属特別支援学校	〒890-0005	〃 下伊敷一丁目10番1号	☎099(224)6257
附属教育実践総合センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表)
寺山自然教育研究施設	〒892-0871	〃 吉野町10857-1	
【理工学研究科】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
附属南西島弧地震火山観測所	〒892-0871	〃 吉野町10861	☎099(244)7411
【理学部・理工学研究科(理学系)】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7111(代表)
【工学部・理工学研究科(工学系)】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
【農学部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
附属農場	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8771
唐湊果樹園	〒890-0081	〃 唐湊三丁目32番1号	☎099(254)1042
指宿植物試験場	〒891-0402	指宿市十町1291番地	☎0993(22)2848
入来牧場	〒895-1402	薩摩川内市入来町浦之名字大谷4018-3	☎0996(44)2204
附属演習林	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)8744
高隈演習林	〒891-2101	垂水市海潟3237番地	☎0994(32)6329
佐多演習林	〒893-2604	肝属郡南大隅町佐多大字馬籠349番地	
附属動物病院	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)8750
附属焼酎・発酵学教育研究センター	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
附属越境性動物疾病制御研究センター	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
【水産学部】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4111(代表)
附属海洋資源環境教育研究センター	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4296
附属海洋資源環境教育研究センター東町ステーション	〒899-1403	出水郡長島町諸浦字蛤淵1620-3	☎0996(64)5013
【医歯学総合研究科】	〒890-8544	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
附属難治ウイルス病態制御研究センター	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
【医学部】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
【歯学部】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
【医学部・歯学部附属病院】	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
霧島リハビリテーションセンター	〒899-6603	霧島市牧園町高千穂3930-7	☎0995(78)2538
【司法政策研究科】	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
【臨床心理学研究科】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
【連合農学研究科】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
【附属図書館】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7415
桜ヶ丘分館	〒890-8532	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5205
水産学部分館	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4051
【保健管理センター】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7385
【国際島嶼教育研究センター】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7394
【留学生センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3601
【総合研究博物館】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8141
【学術情報基盤センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7474
【生涯学習教育研究センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7294
【教育センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8821
【稲盛アカデミー】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3751
【フロンティアサイエンス研究推進センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3240
先端医療開発分野	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)6357
アイソトープ総合実験施設	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3594
遺伝子実験施設	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3581
動物実験施設	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5500
機器分析施設	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7188
【産学官連携推進機構】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	
産学官連携部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8491
知的財産部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)3881
ベンチャービジネス部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)3630
管理部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7106
【埋蔵文化財調査室】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7270
【就職支援センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7321・7341
【ボランティア支援センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3146・3147
【稲盛会館】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
【学生会館】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7324
【学生寮】	〒890-0081	〃 唐湊三丁目3番1号	☎099(251)3238・099(254)9098
【国際交流会館(1号館・2号館)】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(252)7551
【職員会館(天心荘)】	〒890-0082	〃 紫原三丁目20番19号	☎099(252)0577
【外国人研究員等宿泊施設】	〒890-0082	〃 紫原三丁目20番19号	
【外国人研究者宿泊施設】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	
【東京リエゾンオフィス】	〒108-0023	東京都港区芝浦三丁目3番6号キャンパス・イノベーションセンター(CIC)607号室	
【北米教育研究センター】		Pixera Corporation, 2322-A Walsh Avenue, Santa Clara, CA95051, USAアメリカ合衆国カリフォルニア州サンタクララ市ピクセラ社本社内	





【編集・発行】  
鹿児島大学 広報センター

〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号  
代表電話 099(285)7111 FAX 099(285)3854  
URL <http://www.kagoshima-u.ac.jp/>

【発行日】平成23年6月